# 概報 - Report

# 福島-栃木地域における過去約30万年間のテフラの再記載と定量化

#### 山元孝広

Takahiro Yamamoto (2012) Quantitative re-description of tephra units since 0.3 Ma in the Fukushima-Tochigi region, NE Japan. *Bull. Geol. Surv. Japan*, vol. 63(3/4), p. 35-91, 49 figs, 4 tables, 2 appendixes.

**Abstract**: Tephra units since 0.3 Ma in the Fukushima-Tochigi region have been re-described with regard to their stratigraphy, compositions, ages and volumes, adding unpublished data. They were erupted from Azuma volcano, Adatara volcano, Bandai volcano, Sunagohara caldera, Numazawa volcano, Futamatayama volcano, Nasu volcanoes, Takahara volcano, Hiuchigatake volcano, Kinunuma volcano, Nikko volcanoes, Iiji volcano and Akagi volcano. The erupted ages of some tephra units should be revised, because several previous studies included miscorrelations of tephra units. This study have listed up all tephra units, more than 0.1 km<sup>3</sup> DRE in volume, from these volcanoes, and established the eruption histories on magma volume for these volcanoes, except for Nikko and Akagi.

Keywords: tephra, tephrochronology, Late Pleistocene, Middle Pleistocene, Fukushima, Tochigi

## 要 旨

福島 — 栃木地域に分布する過去約 30 万年間のテフラ を、未公表資料を追加して層序・分布・構成物・噴火年代・ マグマ体積について再記載した.これらのテフラは吾妻 火山、安達太良火山、磐梯火山、砂子原カルデラ、沼沢 火山、二岐山火山、那須火山群、高原火山、燧ヶ岳火山、 鬼怒沼火山、日光火山群、飯士火山、赤城火山から噴出 したものである.既報のいくつかのテフラ噴出年代には 修正の必要なものがあるほか、一部のこれまでの研究に は明らかなテフラ対比上の問題が含まれている.

## 1. はじめに

テフラと呼ばれる火砕物は、爆発的噴火により破砕されたマグマが火口から放出され地表に定置したものである。地層として保存されたテフラは過去に起きた爆発的 噴火の証拠であるだけではなく、広域に分布するものは 地層中の同一時間面を示す鍵層であることから、多くの テフラが記載されてきた(町田・新井,1992;2003).特 に列島規模の分布を持つ姶良 Tn テフラ(AT:町田・新井, 1976)、大山倉吉テフラ(DKP:町田・新井,1979)、阿蘇 4テフラ(Aso4:町田ほか,1985)、御岳第1テフラ(On-Pm1:町田・鈴木,1971)は後期更新世の時間指標面とし て重要性が高く、多くの地域でそれらの層準が確認され ている。更に、これらの指標テフラとの層序的位置関係 を明らかにすることにより、年代の確定していないロー カルなテフラに相対的な噴火年代を与えることも可能と なる(早川, 1995). 当然ながら,噴火層序の時間軸決定 は火山活動の定量的な評価に不可欠の作業であり,テフ ラ層序学的手法を駆使した火山活動史の編年は,これま でも多くの火山で実施されてきている(例えば伊豆大島 火山:Nakamura, 1964;富士火山:宮地, 1988 など).

本報告では、東北日本南部の福島 — 栃木地域 (Fig. 1) に分布する過去約30万年間のテフラの再記載を行い, 当地域の地質環境の長期評価に必要な爆発的噴火の履歴 データを整備する.約30万年前で区切ったのは、この 前後で火山の分布状況に顕著な違いが認められ火山活動 場の変化があったこと (Yamamoto, 2007), 当地域では 30 万年前よりも古いテフラは露出が限られ個々の分布を押 さえることが困難なことが理由である.対象とするテフ ラの給源火山は吾妻火山、安達太良火山、磐梯火山、砂 子原カルデラ, 沼沢火山, 二岐山火山, 那須火山群, 高 原火山, 燧ヶ岳火山, 鬼怒沼火山, 日光火山群, 飯士火 山,赤城火山で (Fig. 1), そのテフラ層序は鈴木 (1992), 鈴木ほか (1998),山元 (1999b), Yamamoto (2005) などに より記載され、その大枠が確立されている. しかしなが ら,その後の調査・研究の結果,テフラの対比に修正の 必要があるものや、噴出年代の見直しの必要のあるもの があることが明らかになってきている. そこで, 多くの 未公表データを加え、個々のテフラを再記載するととも に, 各テフラの分布図を再作成し, 各火山噴出量の定量 化を行うことにする.

地質情報研究部門 (AIST, Geological Survey of Japan, Institute of Geology and Geoinformation) Corresponding author: T. YAMAMOTO, Central 7, 1-1-1 Higashi, Tsukuba, Ibaraki 305-8567, Japan. Email: t-yamamoto@aist.go.jp



第1図 福島 - 栃木地域周辺の第四紀火山の分布と露頭位置.
 地形陰影図は、国土地理院の 50 m メッシュ数値地図による.露頭位置の緯度・経度は表 3 に示した.
 Fig. 1 Index map of Quaternary volcanoes (black circles) and outcrops around the Fukushima-Tochigi region.

The topographic image has been made using the digital map 50m grid (elevation), from the Geographical Survey Institute, Japan. See Table 3 for the latitude and longitude positions of the outcrops.

# 2. 露頭柱状図と分析結果

福島 — 栃木地域に分布するテフラの多くは、火山体 斜面・岩屑なだれ堆積物・段丘化した河川堆積物を覆う 褐色火山灰土を主体とした風成堆積物中に挟まれてい る (Fig. 2). 地域内の代表的な露頭 (Loc. 1 ~ Loc. 54) に ついては, Fig. 3 ~ Fig. 11 にその柱状図を示した. 柱状 図中の Gms や St は, Miall (1978) の堆積相コードである. また, 柱状図中のテフラの略号 (Ad-DK など) について は Table 1 に、柱状図中の試料番号 (Hm102 など) のつい たテフラの分析結果は Table 2 に, 露頭位置は Table 3 に 示している. 更に、各露頭に対する既報との対応関係や 対比の修正などの注釈を付録1に列記している. テフラ の名称については、町田・新井(1992;2003)に従い、沼 沢沼沢湖テフラ (Nm-NK) のように給源火山名の後に個 別テフラ名を付けている.一方, 姥沢北テフラ (Ub) の ように個別テフラ名単独のものは、給源火山が未確定 であることを意味している.テフラの分析は(株)京都 フィッション・トラックに依頼しており、洗浄・篩別さ れた 120-250 mesh 粒径試料について, 全鉱物組成分析, 重鉱物分析、火山ガラスの屈折率測定、鉱物の屈折率測 定が行われている.

テフラのうちの降下火砕物堆積物の体積については、 各等層厚線と等層厚線が囲む面積の関係から見積もって いる. 火口近傍の堆積物層厚が測定できたテフラの場合 は、各層厚と面積の相関から遠方部の層厚分布をグラフ 上で作図・外挿し、各層厚毎の体積を積算して計測して いる.一方、火口近傍の堆積物層厚が測定できていない テフラの場合は, Legros (2000) の簡便法を用いて体積を 見積もっている. この方法は一つの等層厚線の面積から 全体積の最小値を与えるもので、降下火砕堆積物全体の 等層厚分布が把握できていない場合にも用いることが可 能である.また、真の体積は Legros (2000) の最小値の数 倍以内であることが多い. この Legros (2000) の簡便法は, Pyle (1989) の手法を拡張したものであるが、信頼性の高 い結晶法適用例の平均値を用いる Hayakawa (1985)の経 験則と結果的に算術式の形は同じであり、Legros 法最小 体積は Havakawa 法体積の約 1/3 となる. このことは第 一次近似として Havakawa (1985)の経験則は有効であり、 既存文献にある彼の手法で決められた値もその意味を理 解していれば十分使えるものであることを意味している.



- 第2図 鶴ヶ池岩屑なだれ堆積物を覆う風成堆積物の露頭写真. *Ag-MzP7* = 赤城水沼7テフラ;*Hu-NN* = 燧ヶ岳七入テフラ;*Ij-TK* = 飯士高杖テフラ;*Nm-SB* = 沼沢芝原テフラ.福島県下郷町鶴ヶ池 (Loc. 38).
- Fig. 2 Outcrop photograph of eolian veneer deposits overlying the Tsurugaike debris avalanche deposit (DAD). Ag-MzP7 = Akagi-Mizunuma 7 tephra; Hu-NN = Hiuchigateke-Nanairi tephra; Ij-TK = Iiji-Takatsue tephra; Nm-SB = Numazawa-Shibahara tephra. Tsurugaike, Shimogo Town, Fukushima (Loc. 38).

#### 3. 吾妻火山

吾妻火山は、福島市西方の火山フロント上に位置する 成層火山である (Fig. 1). その山体は西吾妻, 中吾妻, 東 吾妻,一切経,高山などの底径 1-数 km,比高 200-500 mの安山岩質の火山錐や、これらに覆われる初生的な火 山地形を失ったより古い安山岩質の山体が重なり合って できている (藤縄・鴨志田, 1999). NEDO (1991)の放射 年代測定によると吾妻火山の活動は百数十万年前から始 まり、約30万年前までにはほとんどの山体が形成され たことになる. ただし, 個々の山体の層序関係や形成時 期の詳細は不明な点が多い.山体東部にある完新世の吾 妻小富士や五色沼などの火口群を形成した吾妻浄土平火 山の活動は 6.7 ka から始まり、その総噴出量はブルカノ 式噴火降下火砕物と溶岩流を合わせて約 5×10<sup>-1</sup> DRE km<sup>3</sup> である (山元, 2005). またこれらとは別に吾妻火山を 起源とするプリニー式噴火によるテフラ層が Yamamoto (2005)により山麓部で記載され、以下の吾妻佐久間テフ ラと吾妻福島テフラが定義されている.

#### 3.1 吾妻佐久間テフラ (Az-SK)

Yamamoto (2005) 命名. 模式地は,福島県福島市松川

町佐久間の国道4号線東脇の露頭 (Loc. 12; Fig. 5). 吾 妻火山で約13万年前に発生したプリニー式噴火の産 物で、東へ向かう降下火砕堆積物からなる (Fig. 12; Yamamoto, 2005). 福島市から大玉村にかけての山崎岩屑 なだれ堆積物の上位 (Locs. 17 &18; Fig. 6) や, 阿武隈山 地内の高位段丘の厚い被覆風成火山灰土 (Locs. 3, 5, 6, 10 &12; Figs. 3, 4 & 5) 中において, Hu-TG・Az-FK 間の 層準に挟まれている.本テフラの岩質は斜方輝石単斜輝 石デイサイトで、基質に斜長石・斜方輝石・単斜輝石の 結晶質粗粒火山灰を伴う軽石火山礫からなる。また、本 テフラの火山ガラスの屈折率は1.510-1.512と、後述す る直下の Az-FK よりも有意に高い (Table 2). 模式地での 層厚は 20 cm で、給源位置を吾妻火山東部の浄土平付近 とすると、16-32 cm 等層厚線が囲む面積 (Table 4) を用い た降下火砕堆積物の最小体積は約4×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup>(堆積物の 平均密度を 800 kg/m<sup>3</sup>として岩石換算最小体積は約 2×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE, 最小質量は約 3×10<sup>11</sup> kg) である.

#### 3.2 吾妻福島テフラ (Az-FK)

山元・阪口 (2000), Yamamoto (2005) 命名. 模式地は, 福島県福島市蓬莱町二丁目の宅地開発地 (Loc. 11; Fig. 5). 吾妻火山で約 14 万年前に発生したプリニー式噴火

# 第1表 テフラ一覧.

Bt = 黒雲母; Cpx = 単斜輝石; Cum = カミングトン閃石; Hb = 普通角閃石; Opx = 斜方輝石. a) 青木ほか (2008); b) 松 本ほか (1989).

Table 1. List of tephra units in this study.

Bt = biotite; Cpx = clinopyroxene; Cum = cummingtonite; Hb = hornblende; Opx = orthopyroxene. a) Aoki *et al.* (2008); b) Matsumoto *et al.* (1989).

Tephra	Name		Age	Rock type	Reference
Hr-FP	Haruna-Futatsudake-Ikaho	榛名ニッ岳伊香保	1.5 ka	Opx Hb dacite	Arai (1962)
Nm-NK	Numazawa-Numazawako	沼沢沼沢湖	5.4 ka	Opx Hb dacite	Yamamoto (1995; 2003)
Tk-UH	Takahara-Uenohara	高原上の原	6.5 ka	Opx Hb dacite	Okuno et al. (1997)
Nt-S	Nantai-Shichihonzakura	男体七本桜	17 ka	Hb-bear Opx Cpx dacite	Akutsu (1955)
Nt-I	Nantai-Imaichi	男体今市	17 ka	Opx Cpx dacite	Akutsu (1955)
As-YP	Asama-Itahana-Yellow	浅間板鼻黄色	17 ka	Hb-bear Opx Cpx dacite	Arai (1962)
Nt-KU4	Nantai-Kutsukake 4	男体沓掛4	ca 19 ka	Basalt	Suzuki (1993)
Nt-KU3	Nantai-Kutsukake 3	男体沓掛3	ca 20 ka	Basalt	Suzuki (1993)
Nt-KU1	Nantai-Kutsukake 1	男体沓掛1	ca 22 ka	Basalt	Suzuki (1993)
Nt-OG	Nantai-Ogawa	男体小川	ca 23 ka	Basalt	Suzuki (1993)
As-BP	Asama-Itahana-Brown	浅間板鼻褐色	ca 23 ka	Opx Cpx dacite	Arai (1962)
AT	Aira-Tn	姶良Tn	29 ka <sup>a)</sup>	Opx Cpx rhyolite	Machida & Arai (1976)
Tk-KD	Takahara-Kashiwagidaira	高原柏木平	ca 30 ka	Opx Hb dacite	This study
Ad-NH	Adatara-Nihonmatsu	安達太良二本松	ca 40 ka	Hb-bear Opx Cpx dacite	Yamamoto & Sakaguchi (2000)
Ag-KP	Akagi-Kanuma	赤城鹿沼	44 ka <sup>a)</sup>	Hb-bear Opx Cpx dacite	Akutsu (1955)
Bn-HP1	Bandai-Hayama 1	磐梯葉山1	46 ka	Opx Cpx dacite	Yamamoto & Suto (1996)
Hr-HP	Haruna-Hassaki	榛名八崎	ca 47 ka	Cum-bear Cpx Hb Opx dacite	Arai (1962)
Ad-EB4	Adatara-Ebisu 4	安達太良えびす4	ca 48 ka	Opx Cpx andesite	Yamamoto & Sakaguchi (2000)
Ag-NM1	Akagi-Namekawa 1	赤城行川1	ca 50 ka	Hb Opx Cpx dacite	Suzuki (1990)
Ag-NM2	Akagi-Namekawa 2	赤城行川2	ca 50 ka	Hb Opx Cpx dacite	Suzuki (1990)
DKP	Daisen-Kurayoshi	大山倉吉	ca 50 ka	Bt-bear Opx Hb dacite	Machida & Arai (1979)
Nm-MZ	Numazawa-Mizunuma	沼沢水沼	ca 50 ka	Bt Cum Hb dacite	Yamamoto (1995; 2003)
Ag-MzP1	Akagi-Mizunuma 1	赤城水沼1	56-59 ka	Hb-bear Opx Cpx dacite	Moriya (1968); Suzuki (1990)
Ag-MzP2	Akagi-Mizunuma 2	赤城水沼2	ca 60 ka	Hb Opx Cpx dacite	Moriya (1968); Suzuki (1990)
Ad-EB3	Adatara-Ebisu 3	安達太良えびす3	ca 60 ka	Opx Cpx andesite	Yamamoto & Sakaguchi (2000)
Ag-OK	Akagi-Okkai	赤城追貝	ca 70 ka	Hb-bear Opx Cpx dacite	Arai (1962)
Bn-HP2	Bandai-Hayama 2	磐梯葉山2	ca 80 ka	Opx Cpx dacite	Yamamoto & Suto (1996)
On-NG	Ontake-Nagawa	御岳奈川	ca 80 ka	Hb Opx Cpx dacite	Takemoto et al. (1987a)
Ag-MzP5	Akagi-Mizunuma 5	赤城水沼5	ca 90 ka	Hb-bear Opx Cpx dacite	Moriya (1968); Suzuki (1990)
Ad-EB2	Adatara-Ebisu 2	安達太良えびす2	ca 90 ka	Opx Cpx andesite	Yamamoto & Sakaguchi (2000)
Nk-HG	Nikko-Higashiakata	日光東赤田	ca 90 ka	Opx Cpx andesite	Suzuki (1993)
Aso4	Aso 4	阿蘇4	89 ka <sup>b)</sup>	Opx Cpx Hb dacite	Machida et al. (1985)
Ft-HT5	Futamatayama-Hatori 5	二岐山羽鳥5	ca 90 ka	Opx Cpx andesite	Yamamoto (1999a)
Ft-HT4	Futamatayama-Hatori 4	二岐山羽鳥4	ca 90 ka	Opx Cpx andesite	Yamamoto (1999a)
On-Pm1	Ontake-1	御岳第1	96 ka <sup>a)</sup>	Opx-bear Bt Hb dacite	Machida & Suzuki (1971); Machida & Arai (1992)
Ag-MzP6	Akagi-Mizunuma 6	赤城水沼6	ca 0.10 Ma	Hb Opx dacite	Moriya (1968); Suzuki (1990)
Nk-MA	Nikko-Mamiana	日光満美穴	ca 0.10 Ma	Opx Cpx andesite	Akutsu (1957)
Ad-SH	Adatara-Sahara	安達太良佐原	ca 0.10 Ma	Hb-bear Opx Cpx dacite	Yamamoto & Sakaguchi (2000)
Nk-OK	Nikko-Ogikubo	日光荻久保	ca 0.10 Ma	Opx Cpx andesite	Suzuki (1993)
Nm-SB	Numazawa-Shibahara	沼沢芝原	0.11 Ma	Cum-bear Hb Bt rhyolite	Suzuki (1992); Yamamoto (2003)
Ad-MT	Adatara-Matsukawa	安達太良松川	ca 0.11 Ma	Opx Cpx andesite	Yamamoto & Sakaguchi (2000)
Ad-DK	Adatara-Dake	安達太良岳	ca 0.12 Ma	Opx Cpx dacite	Yamamoto & Sakaguchi (2000)

第1表	(続き)
Table 1.	Continued.

Tephra	Name		Age	Rock type	Reference		
Ag-MzP7	Akagi-Mizunuma 7	赤城水沼7	ca 0.12 Ma	Hb Opx dacite	Moriya (1968); Suzuki (1990)		
Ft-HT3	Futamatayama-Hatori 3	二岐山羽鳥3	ca 0.12 Ma	Opx Cpx andesite	Yamamoto (1999a)		
Ns-SR1	Nasu-Shirakawa 1	那須白河1	ca 0.12 Ma	Andesite	Suzuki (1992)		
t5	Tsukahara t5	塚原t5	ca 0.12 Ma	Hb-bear Opx Cpx dacite	Kubo et al. (1990)		
Ag-MzP8	Akagi-Mizunuma 8	赤城水沼8	0.125 Ma	Hb-bear Opx Cpx dacite	Moriya (1968); Suzuki (1990)		
Hu-TG	Hiuchigatake-Tagashira	燧ヶ岳田頭	0.129 Ma <sup>a)</sup>	Bt Hb Opx Cpx dacite	Suzuki (1993; 1999)		
Ag-MzP9- 10	Akagi-Mizunuma 9-10	赤城水沼9-10	ca 0.13 Ma	Hb-bear Opx Cpx dacite	Moriya (1968); Suzuki (1990)		
Ft-HT2	Futamata-Hatori 2	二岐山羽鳥2	ca 0.13 Ma	Opx Cpx andesite	Yamamoto (1999a)		
Az-SK	Azuma-Sakuma	吾妻佐久間	ca 0.13 Ma	Opx Cpx dacite	Yamamoto (2005)		
Nk-SO	Nikko-So-otome	日光早乙女	ca 0.13 Ma	Hb-bear Opx Cpx andesite	Muramoto (1992); Suzuki (1993)		
Nk-NM	Nikko-Namekawa	日光行川	ca 0.14 Ma	Hb-bear Opx Cpx andesite	Suzuki (1993)		
Nk-YT	Nikko-Yaita	日光矢板	ca 0.14 Ma	Hb-bear Opx Cpx andesite	Suzuki (1993)		
Az-FK	Azuma-Fukushima	吾妻福島	ca 0.14 Ma	Opx Cpx dacite	Yamamoto & Sakaguchi (2000); Yamamoto (2005)		
Iz-Kta	Iizuna-Kamitaru a	飯縄上樽a	ca 0.14 Ma	Bt-Cum-bear Opx Hb dacite	Suzuki (2001)		
Ns-SR3	Nasu-Shirakawa 3	那須白河3	ca 0.14 Ma	Andesite	Suzuki (1992)		
Ub	Ubasawakita	姥沢北	ca 0.15 Ma	Opx Cpx dacite	Suzuki (1992)		
Ns-SR6	Nasu-Shirakawa 6	那須白河6	ca 0.15 Ma	Andesite	Suzuki (1992)		
Ns-SR7	Nasu-Shirakawa 7	那須白河7	ca 0.15 Ma	Andesite	Suzuki (1992)		
OrP	Origuchihara	折口原	ca 0.15 Ma	Hb-bear Opx Cpx dacite	Suzuki (1992)		
Ns-SR8	Nasu-Shirakawa 8	那須白河8	ca 0.15 Ma	Andesite - dacite	Suzuki (1992)		
Ns-SR9	Nasu-Shirakawa 9	那須白河9	ca 0.15 Ma	Andesite	Suzuki (1992)		
SI2	Siobara 2	塩原2	ca 0.15 Ma	Opx Cpx andesite	Suzuki (1993)		
SI3	Siobara 3	塩原3	ca 0.16 Ma	Hb-bear Opx Cpx andesite	Suzuki (1993)		
SI4	Siobara 4	塩原4	ca 0.16 Ma	Hb-bear Opx Cpx andesite	Suzuki (1993)		
Ns-SR10	Nasu-Shirakawa 10	那須白河10	ca 0.16 Ma	Andesite	Suzuki (1992)		
Yum	Yumihari	弓張	ca 0.16 Ma	Bt Cpx Opx Hb dacite	Suzuki et al. (2004)		
Hu-NN	Hiuchigatake-Nanairi	燧ヶ岳七入	0.16-0.17 Ma	Opx Cpx dacite	Watanabe (1989a); Yamamoto (1999b)		
YG	Yaguchi	矢口	ca 0.20 Ma	Andesite	Suzuki (1993)		
Ns-SR11	Nasu-Shirakawa 11	那須白河11	ca 0.20 Ma	Andesite	Suzuki (1992)		
Ns-SR12	Nasu-Shirakawa 12	那須白河12	ca 0.20 Ma	Andesite	Suzuki (1992)		
Ad-MH6	Adatara-Mizuhara 7	安達太良水原7	ca 0.20 Ma	Andesite	Yamamoto & Sakaguchi (2000)		
Ad-MH5	Adatara-Mizuhara 6	安達太良水原6	ca 0.21 Ma	Andesite	Yamamoto & Sakaguchi (2000)		
Sn-KB	Sunagohara-Kubota	砂子原久保田	0.22 Ma	Cum-bear Bt rhyolite	Yamamoto (1999b)		
Ij-MO	Iiji-Moka	飯士真岡	ca 0.22 Ma	Cum-bear Opx Hb dacite	Yamamoto (2007)		
Kn-KD	Kinunuma-Kurodahara	鬼怒沼黒田原	ca 0.23 Ma	Opx Hb dacite	Suzuki (1992; 1993); Yamamoto (1999b)		
Ad-MH4	Adatara-Mizuhara 4	安達太良水原4	ca 0.23 Ma	Andesite	Yamamoto & Sakaguchi (2000)		
Ad-MH3	Adatara-Mizuhara 3	安達太良水原3	ca 0.24 Ma	Andesite	Yamamoto & Sakaguchi (2000)		
TM01	Tomuroyama1	戸室山1	ca 0.24 Ma	Opx Hb dacite	Yamamoto (1999b)		
TM02	Tomuroyama 2	戸室山2	ca 0.24 Ma	Bt rhyolite	Yamamoto (1999b)		
Ad-MH2	Adatara-Mizuhara 2	安達太良水原2	ca 0.25 Ma	Andesite	Yamamoto & Sakaguchi (2000)		
Ad-MH1	Adatara-Mizuhara 1	安達太良水原1	ca 0.25 Ma	Andesite	Yamamoto & Sakaguchi (2000)		
TM03	Tomuroyama 3	戸室山3	ca 0.25 Ma	Cpx Opx dacite	Yamamoto (1999b)		
Ij-TK	Iiji-Takatsue	飯士高杖	0.25-0.28 Ma	Cum Hb dacite	Yamamoto (1999b; 2007)		
Sn-SK	Sunagohara-Sakasegawa	砂子原佐賀瀬川	0.29 Ma	Bt rhyolite	Yamamoto & Suto (1996); Yamamoto et al. (2006)		
Sb-OT	Shiobara-Otawara	塩原大田原	ca 0.30 Ma	Opx Cpx dacite	Sasaki <i>et al</i> . (1958)		



- Gms = 基質支持で無級化の礫; Gm = 岩片支持で塊状の礫; Gt = トラフ型斜交層理を持つ礫; Sm = 塊状で淘汰の悪い~ 中程度の中〜極粗粒砂; Si = トラフ型斜交層理を持つ砂; Fi = 細かな葉理を持つ極細粒砂及び泥; Fm = 塊状の泥. Hm101, Hm203 などは表 2 の試料番号. T = テフラ層の厚さ テフラの名称とその特徴は表 1・2 を参照のこと. D=テフラの平均最大粒径.
  - Stratigraphic columns at Locs. 1, 2, 3, 4 and 5. Fig. 3

See Tables 1 and 2 for the tephra names and its compositions. Gms = matrix-supported, ungraded, massive gravel; Gm = clast-supported, massive gravel; Gm = trough-crossbedded gravel; Sm = massive, poorly to moderately sorted medium-very coarse sand; St = trough-crossbedded sand; Ft = Finely laminated very fine sand and mud; Fm = massive mud. Hm101, Hm203, etc. are the sample number in Table 2. T = thickness of the tephra unit. D = averaged maximum diameter of grains in the tephra unit.



第4図 Loc. 6, 7, 8, 9及び10における露頭柱状図.

Gms = 基質支持で無級化の礫: Gm = 岩片支持で塊状の礫: Sgb = 連続性の悪い平行層理を持つ淘汰が中程度~悪い砂・細礫・ 中礫;Sm=塊状で淘汰の悪い~中程度の中~極粗粒砂.TK301, TK201 などは表 2 の試料番号.T=テフラ層の厚さ.D=テフラの平均最大粒径. テフラの名称とその特徴は表 1・2 を参照のこと.

Fig. 4 Stratigraphic columns at Locs. 6, 7, 8, 9 and 10.

See Tables 1 and 2 for the tephra names and its compositions. Gms = matrix-supported, ungraded, massive gravel; Gm = clast-supported, massive gravel; Sgb = horizontal but discontinuous bedded, moderately to poorly sorted sand, granules, and pebbles; Sm = massive, poorly to moderately sorted medium-very coarse sand. TK301, TK201, etc. are the sample number in Table 2. T = thickness of the tephra unit. D = averaged maximum diameter of grains in the tephra unit.



第5図 Loc. 11, 12 及び 13 における露頭柱状図.

テフラの名称とその特徴は表1・2を参照のこと. *Fk103*, *Fk201* などは表2の試料番号. *T*=テフラ層の厚さ. *D*=テフラの平均最大粒径.

Fig. 5 Stratigraphic columns at Locs. 11, 12 and 13.

See Tables 1 and 2 for the tephra names and its compositions. Fk103, Fk201, etc. are the sample number in Table 2. T = thickness of the tephra unit. D = averaged maximum diameter of grains in the tephra unit.



See Tables 1 and 2 for the tephra names and its compositions. Gm = clast-supported, massive gravel; Sgb = horizontal but discontinuous bedded, moderately to poorly sorted sand, granules, and pebbles; Sm = massive, poorly to moderately sorted medium-very coarse sand; St = trough-crossbedded sand. Fk301, AD404, etc. are the sample number in Table 2. T = thickness of the tephra unit. D = averaged maximum diameter of grains in the tephra unit. Stratigraphic columns at Locs. 14, 16, 17, 18 and 19. Fig. 6



第7図 Loc. 20, 21, 22, 24, 25, 27 及び 28 における露頭柱状図.

テフラの名称とその特徴は表1・2を参照のこと. Gms = 基質支持で無級化の礫. KR101, KR301などは表2の試料番号. T = テフラ層の厚さ. D=テフラの平均最大粒径.

Fig. 7 Stratigraphic columns at Locs. 20, 21, 22, 24, 25, 27 and 28.

See Tables 1 and 2 for the tephra names and its compositions. Gms = matrix-supported, ungraded, massive gravel. KR101, KR301, etc. are the sample number in Table 2. T = thickness of the tephra unit. D = averaged maximum diameter of grains in the tephra unit.



第8図 Loc. 29, 30, 31, 32, 34, 35 及び 36 における露頭柱状図.

テフラの名称とその特徴は表1・2 を参照のこと,Gms = 基質支持で無級化の礫;Gm = 岩片支持で塊状の礫;Sgb = 連続性の悪い平行 **鬙理を持つ淘汰が中程度~悪い砂・網礫・中礫、NAS105、NAS106 などは表 2 の試料番号、T= テフラ層の厚さ、D= テフラの平均最大** 粒径.

Fig. 8 Stratigraphic columns at Locs. 29, 30, 31, 32, 34, 35 and 36.

See Tables 1 and 2 for the tephra names and its compositions. Gms = matrix-supported, ungraded, massive gravel; Gm = clast-supported, massive gravel; Sgb = horizontal but discontinuous bedded, moderately to poorly sorted sand, granules, and pebbles. NAS105, NAS106, etc. are the sample number in Table 2. T = thickness of the tephra unit. D = averaged maximum diameter of grains in the tephra unit.





Gms = 基質支持で無級化の礫; Gm = 岩片支持で塊状の礫; Sgb = 連続性の悪い平行 層理を持つ淘汰が中程度~悪い砂・細礫・中礫.ON102, TR106 などは表 2 の試料番号.T= テフラ層の厚 さ.D= テフラの平均最大粒径. テフラの名称とその特徴は表 1・2 を参照のこと. Stratigraphic columns at Locs. 37, 38, 39, 41 and 42. Fig. 9

See Tables 1 and 2 for the tephra names and its compositions. Gms = matrix-supported, ungraded, massive gravel; Gm = clast-supported, massive gravel; Sgb = horizontal but discontinuous bedded, moderately to poorly sorted sand, granules, and pebbles. ON102, TR106, etc. are the sample number in Table 2. T = thickness of the tephra unit. D = averaged maximum diameter of grains in the tephra unit.



第10図 Loc. 40, 43 及び 44 における露頭柱状図.

テフラの名称とその特徴は表1・2を参照のこと. *Gm* = 岩片支持で塊状の礫. *NAS109*, *IM115* などは 表2の試料番号. *T*=テフラ層の厚さ. *D*=テフラの平均最大粒径.

Fig. 10 Stratigraphic columns at Locs. 40, 43 and 44.

See Tables 1 and 2 for the tephra names and its compositions. Gm = clast-supported, massive gravel. *NAS109*, *IM115*, etc. are the sample number in Table 2. T = thickness of the tephra unit. D = averaged maximum diameter of grains in the tephra unit.



第11図 Loc. 49, 50, 51 及び 54 における露頭柱状図.

Fig. 11

テフラの名称とその特徴は表1・2 を参照のこと. *Gms* = 基質支持で無級化の礫; *Gm* = 岩片支持で塊状の礫. *923-1-1*, *KN201* などは表2の試料番号. *T* = テフラ層の厚さ. *D* = テフラの平均最大粒径. Stratigraphic columns at Locs. 49, 50, 51 and 54.

See Tables 1 and 2 for the tephra names and its compositions. Gms = matrix-supported, ungraded, massive gravel; Gm = clast-supported, massive gravel. 923-1-1, KN201, etc. are the sample number in Table 2. T = thickness of the tephra unit. D = averaged maximum diameter of grains in the tephra unit.

#### 第2表 テフラの特徴.

Bt = 黒雲母; Cpx = 単斜輝石; Cum = カミングトン閃石; Hb = 普通角閃石; Opx = 斜方輝石; Qz = 石英; [] = 微量成分. A = 本研究, B = 山元 (1995); C = 山元・須藤 (1996); D = 山元 (1999a); E = 山元 (1999b); F = 山元・坂口 (2000); G = 山元 (2003); H = 山元・駒澤 (2004); I = 山元 (2005); J = 山元ほか (2006); K = 吉川ほか (2010).

# Table 2. Characteristics of tephra units.

Bt = biotite; Cpx = clinopyroxene; Cum = cummingtonite; Hb = hornblende; Opx = orthopyroxene; Qz = quartz; [] = minor component. A = this study; B = Yamamoto (1995); C = Yamamoto and Suto (1996); D = Yamamoto (1999); E = Yamamoto (1999b); F = Yamamoto and Sakaguchi (2000); G = Yamamoto (2003); H = Yamamoto and Komazawa (2004); I = Yamamoto (2005); J = Yamamoto *et al.* (2006); K = Yoshikawa *et al.* (2010). See Figure 1 and Table 3 for outcrop localities. Stratigraphic positions of samples are shown in Figure 3 to 11.

$ \begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	Unit	Sample	Loc.	Mineral composition		Refractive index mode					
$ \begin{array}{c c c c c c c c c c c c c c c c c c c $		•		*	Glass (n)	Opx (y)	Hb (n2)	Cum (n2)			
	AT	HB101	22	glass >> [Opx, Hb, Cpx, Bt]	1.498-1.501 (100%)	[1.730-1.734 (30%)]			Α		
	Ad-NH	AD404	16	Opx, Cpx, [Hb]	1.509-1.511 (70%)	1.711-1.713 (70%)	[1.678-1.684 (100%)	)]	F		
Bi-HPI AN201 26 Ops > Cpx        Bi-HPI AN201 26 Ops > Cpx        Bi-HPI K201 19 Ops > Cpx        Bi-HPI K201 21 Ops + Ib > Cpx [B]; [Q2] 1.503-1.596 (70%) 1.713-1.716 (100%) 1.680-1.684 (80%)        Ag-NMI K201 21 Ops + Ib > Cpx [B]; [Q2] 1.503-1.595 (50%) 1.703-1.709 (90%) 1.673-1.689 (100%) A        L496-1.498 (25%) 1.706-1.708 (60%) 1.680-1.687 (80%) A        L497-1.498 (25%) 1.706-1.708 (60%) 1.678-1.681 (60%) K        L303-1.507 (30%) 1.406-1.499 (20%) 1.721-716 (70%) 1.678-1.681 (60%) K        L303-1.507 (30%) 1.406-1.499 (20%) 1.702-1.706 (70%) 1.678-1.681 (60%) K        Min-4 31 Hb > Opx [Bt] 1.498-1.500 (50%) 1.702-1.706 (70%) 1.678-1.681 (60%) K        Min-4 X BAU2 23 Hb > Opx [Bt] 1.499, 1.500 1.701 1.702-1.706 (70%) 1.678-1.681 (60%) C        Min-4 X BAU2 23 Hb > Opx [Bt] 1.499, 1.500 1.701 1.704 (70%) 1.678-1.681 (60%) C        Min-4 X BAU2 23 Hb > Opx [Bt] 1.499, 1.500 (00%) 1.702-1.706 (70%) 1.678-1.681 (60%) C        Min-4 X BAU2 23 Hb > Opx [Bt] 0.1499 (1.500 H) 1.702-1.716 (70%) 1.679-1.683 (80%) K        Min-4 X BAU2 23 Hb > Opx (Bt] (D2, Q = 1.499-1.500 (00%) 1.702-1.716 (70%) 1.679-1.683 (80%) 1.659-1.660 (60%) C        Min-4 X BAU2 23 Hb > Opx (Bt] (D2, Q = 1.499-1.500 (00%) 1.702-1.716 (70%) 1.671-1.633 (00%) 1.659-1.660 (60%) C        Min-4 X BAU2 24 H10 2 28 Hb > Opx (Bt] (D2, Q = 1.499-1.500 (00%) 1.702-1.716 (70%) 1.671-1.632 (00%) 1.657-1.662 (00%) C        Min-4 X BAU2 24 H10 2 C Hb > Bt, (Cum, Cpx, Opx, Bt] (Q = 1.495-1.498 (100%) 1.710-1.717 (100%) 1.671-1.632 (00%) 1.659-1.662 (00%) C        Min-4 X BAU2 24 H10 2 X Hb > Opx, Cum, [Cpx, H] (Q = 1.495-1.508 (00%) 1.7	Bn-HP1	BAN108	24	Opx > Cpx, [Hb]	1.506-1.508 (80%)	1.714-1.717 (80%)			С		
	Bn-HP1	BAN301	26	Opx > Cpx	1.502-1.505 (90%)	1.714-1.717 (90%)			С		
$ \begin{array}{c c c c c c c c c c c c c c c c c c c $	Bn-HP1	AD209	13	Opx > Cpx	1.507	1.714-1.717 (80%)			F		
$ \begin{array}{c c c c c c c c c c c c c c c c c c c $	Bn-HP1	KR201	19	Opx > Cpx; [Qz]	1.503-1.506 (70%)	1.713-1.716 (100%)			J		
$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Bn-HP1	TK301	6	Opx > Cpx; [Qz]	1.503-1.506 (70%)	1.713-1.716 (100%)			Ι		
Ag-NMI       KR301       21       Opx, Hb > Cpx, [B1]; [Q2]       1.503-1.505 (50%)       1.703-1.709 (90%)       1.673-1.689 (100%)       A         Ag-NMI       923-1-1       49       Opx > Cpx, Hb       1.500-1.505 (50%)       1.702-1.706 (60%)       1.680-1.687 (80%)       A         Ag-NMI       923-1-1       49       Opx > Cpx, Hb       1.500-1.505 (50%)       1.702-1.706 (70%)       1.678-1.685 (90%)       K         Ag-NMI       KN109       52       Opx > Cpx, Hb; Qz       1.512-1.515 (60%)       1.702-1.706 (70%)       1.678-1.681 (60%)       F         LS03-1.507 (30%)       1.496-1.499 (20%)       1.702-1.706 (70%)       1.678-1.681 (60%)       K         DKP       AD207       13       Hb > Opx, [Bt, OI]       1.498-1.499 (60%)       1.702-1.706 (70%)       1.678-1.681 (60%)       K         Nm-MZ       MZMZ       MZ       Hb > Cum, Bt, [Opx], Qz       1.499-1.500 (80%)       [1.707-1.713 (90%)]       1.657-1.683 (80%)       K         Nm-MZ       AM202       35       Hb > Cum, Bt, [Opx], Qz       1.499-1.500 (80%)       [1.703-1.716 (100%)]       1.671-1.684 (60%)       1.657-1.662 (60%)       G         Nm-MZ       AM202       35       Hb > Cum, Opx], Qz       1.499-1.501 (100%)       1.701-1.714 (70%)       1.671-1.673 (60%)	Ag-NM1	NAS106	30	Opx > Cpx, Hb, [Bt]; [Qz]	1.502-1.506 (70%)	1.704-1.708 (60%)	1.680-1.684 (80%)		Е		
Ag-NM1       923-1-1       49       Opx > Cpx, Hb       1.500-1.501 (35%)       1.706-1.708 (60%)       1.680-1.687 (80%)       A         Ag-NM1       KN109       52       Opx > Cpx, Hb; Qz       1.512-1.515 (50%)       1.702-1.710 (00%)       1.678-1.685 (90%)       K         DKP       AD207       13       Hb > Opx, [Bt]       1.499-1.500 (50%)       1.702-1.706 (70%)       1.678-1.681 (60%)       F         DKP       IM104       43       Hb > Opx, [Bt, OI]       1.499-1.506       1.702-1.706 (70%)       1.679-1.683 (80%)       K         Nm-MZ       YN10       54       Hb > Cum, Bt; [Opx]; Qz       1.499-1.500 (90%)       1.670-1.673 (80%)       1.659-1.661 (60%)       G         Nm-MZ       NM2       SN107       24       Hb > Cum, Bt; [Opx]; Qz       1.499-1.500 (90%)       [1.703-1.716 (100%)]       1.672-1.673 (90%)       1.658-1.661 (90%)       G         Nm-MZ       M102       28       Hb > Cum, Bt; [Opx]; Qz       1.499-1.500 (90%)       [1.703-1.714 (100%)]       1.672-1.674 (40%)       1.659-1.662 (100%)       G         Nm-MZ       HB102       22       Hb > Cum, Cpx, Bt]; Qz       1.499-1.501 (100%)       1.710-1.714 (00%)       1.671-1.684 (90%)       1.657-1.662 (100%)       G         Nm-MZ       HB102       22	Ag-NM1	KR301	21	Opx, Hb > Cpx, [Bt]; [Qz]	1.503-1.505 (50%) 1.498-1.501 (40%)	1.703-1.709 (90%)	1.673-1.689 (100%)		А		
Ag-NMI         KN109         52         Opx > Cpx, Hb; Qz         1.512-1.515 (50%) 1.496-1.499 (20%)         1.702-1.710 (90%)         1.678-1.685 (90%)         K           DKP         AD207         13         Hb > Opx, [Bt]         1.498-1.499 (20%)         1.702-1.706 (70%)         1.678-1.681 (60%)         F           DKP         IM104         43         Hb > Opx, [Bt, Ol]         1.499.1.506         1.702-1.706 (70%)         1.679-1.683 (80%)         K           Nm-MZ         YN101         45         Hb > Cum, Bt, [Opx]; Qz         1.499.1.500 (80%)         [1.707-1.713 (90%)]         1.672-1.673 (80%)         1.657-1.661 (60%)         B           Nm-MZ         YN101         45         Hb > Cum, Bt, [Opx]; Qz         1.499-1.500 (80%)         [1.701-1.713 (90%)]         1.672-1.673 (80%)         1.657-1.661 (60%)         B           Nm-MZ         MX02         25         Hb > Cum, Bt, [Opx]; Qz         1.498-1.499 (60%)         1.672-1.673 (80%)         1.657-1.662 (00%)         D           Nm-MZ         H102         28         Bt, Opx, HD; Qz         1.499-1.500 (80%)         1.710-1.714 (70%)         D         D           Nm-MZ         H202         Hb > Opx, Cum, [Cpx, B1; Qz         1.495-1.498 (100%)         1.671-1.684 (00%)         1.671-1.682 (00%)         I.660-1.662 (60%)         I.660	Ag-NM1	923-1-1	49	Opx > Cpx, Hb	1.500-1.501 (35%) 1.497-1.498 (25%)	1.706-1.708 (60%)	1.680-1.687 (80%)		А		
$ \begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	Ag-NM1	KN109	52	Opx > Cpx, Hb; Qz	1.512-1.515 (50%) 1.503-1.507 (30%) 1.496-1.499 (20%)	1.702-1.710 (90%)	1.678-1.685 (90%)		K		
$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	DKP	AD207	13	Hb > Onv [Bt]	1 498-1 500 (50%)	1 702-1 706 (70%)	1 678-1 681 (60%)		F		
$ \begin{array}{c c c c c c c c c c c c c c c c c c c $	DRI	AD207	15	no > Opx, [bt]	1.506-1.510 (35%)	1.702-1.700 (7070)	1.070-1.001 (0070)		1		
$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	DKP	IM104	43	Hb > Opx, [Bt, Ol]	1.499, 1.506	1.702-1.706 (90%)	1.679-1.683 (80%)		K		
$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Nm-MZ	MZ-PF	47	Hb > Cum , Bt, [Opx]; Qz	1.498-1.499 (60%)		1.670-1.673 (80%)	1.659-1.661 (60%)	В		
$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Nm-MZ	YN101	45	Hb > Cum, Bt, [Opx]; Qz	1.499-1.500 (90%)	[1.707-1.713 (90%)]	1.672-1.678 (90%)	1.658-1.661 (90%)	G		
$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Nm-MZ	BAN107	24	Hb > Cum, Bt, [Opx]; Qz	1.499-1.500 (80%)	[1.703-1.716 (100%)	1.669-1.672 (70%)	1.657-1.660 (60%)	С		
$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Nm-MZ	AM202	35	Hb > Bt, Cum, [Opx]; Qz	1.498-1.499 (60%)		1.672-1.674 (40%)	1.659-1.662 (50%)	G		
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Nm-MZ	Ht102	28	Bt, Opx, Hb, Cpx; Qz	1.495-1.498 (90%)	1.710-1.714 (70%)			D		
$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Nm-MZ	HB102	22	Hb > Opx, Cum, [Cpx, Bt]; Qz	1.499-1.501 (100%)	1.702-1.714 (100%)	1.671-1.684 (90%)	1.657-1.662 (100%)	G		
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Nm-MZ	KR101	20	Hb > Bt, [Cum, Opx]; Qz		[1.713-1.717 (90%)]	1.671-1.686 (90%)	[1.656-1.658 (30%)] [1.660-1.665 (70%)]	G		
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Nm-MZ	KR202	19	Hb, [Opx, Cum]; Qz	1.495-1.498 (100%)	[1.715-1.717 (100%)	1.670-1.689 (100%)	[1.660-1.663 (100%)]	G		
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Nm-MZ	AD206	13	Hb > Cum, Cpx, Opx, Bt; Oz	1.499-1.501 (60%)	1.701-1.709 (100%)	1.671-1.673 (50%)	1.659-1.662 (60%)	F		
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Nm-MZ	TK401	4	Hb > Opx, Bt, Cum, [Cpx]; Qz	1.498-1.500 (80%)	1.705-1.708 (70%)	1.671-1.673 (20%) 1.679-1.682 (50%)	1.660-1.662 (60%)	Ι		
Ag-OKNg10239Opx > Cpx, [Hb]1.509-1.511 (50%)1.705-1.709 (90%)[1.683-1.687 (70%)]DAg-OKKT10232Opx > Cpx, [Hb]1.5101.705-1.709 (90%)[1.680-1.687 (70%)]JAg-OKN10237Opx > Cpx, [Hb]1.5101.705-1.709 (70%)[1.680-1.687 (70%)]JAg-OKON10237Opx > Cpx, [Hb]1.5101.705-1.709 (70%)[1.682-1.686 (60%)]DAg-OK923-1-249Opx > Cpx, [Hb]1.507-1.509 (45%)1.707-1.711 (70%)[1.684-1.690 (60%)]AAg-OKKR20319Opx > Cpx; [Qz]1.703-1.707 (70%)AABn-HP2AD20513Opx > Cpx1.506-1.508 (80%)1.714-1.717 (80%)CBn-HP2AD30217Opx > Cpx, [Hb, Bt]1.505-1.507 (80%)1.712-1.715 (100%)[1.682-1.687 (70%)]FBn-HP2TK1018Opx > Hb, Cpx; [Qz]1.712-1.715 (100%)[1.682-1.687 (70%)]IBn-HP2TK1018Opx > Cpx, [Hb]; [Qz]1.712-1.717 (90%)[1.668-1.671 (100%)]IBn-HP2TK3026Opx > Cpx, [Hb]; [Qz]1.710-1.713 (75%)1.680-1.684 (60%)DOn-NGBAN10425Hb > Opx, [Cpx, Bt]1.504-1.505 (60%)1.713-1.718 (90%)1.680-1.689 (90%)FOn-NGAD40316Opx > Hb, Cpx, [Bt]1.504-1.506 (60%)1.712-1.716 (40%)1.680-1.689 (90%)F	Ag-OK	OK103	54	Opx > Cpx,[Hb]	1.510-1.512 (80%)	1.706-1.708 (50%)	[1.679-1.682 (60%)]		J		
Ag-OKKT10232Opx > Cpx, [Hb]1.5101.705-1.709 (70%)[1.680-1.687 (70%)]JAg-OKON10237Opx > Cpx, [Hb]1.5101.705-1.709 (70%)[1.680-1.687 (70%)]DAg-OKON10237Opx > Cpx, [Hb]1.508-1.509 (60%)1.705-1.709 (70%)[1.682-1.686 (60%)]DAg-OK923-1-249Opx > Cpx, [Qz]1.507-1.509 (45%)1.707-1.711 (70%)[1.684-1.690 (60%)]AAg-OKKR20319Opx > Cpx, [Qz]1.506-1.508 (80%)1.714-1.717 (80%)CBn-HP2BAN20124Opx > Cpx1.506-1.508 (80%)1.711-1.715 (90%)FBn-HP2AD20513Opx > Cpx1.507-1.511 (90%)1.711-1.715 (90%)FBn-HP2AD30217Opx > Cpx, [Qz]1.505-1.507 (80%)1.712-1.715 (100%) [1.682-1.687 (70%)]FBn-HP2TK1018Opx > Hb, Cpx; [Qz]1.712-1.717 (90%)[1.668-1.671 (100%)]IBn-HP2TK3026Opx > Cpx, [Hb]; [Qz]1.710-1.713 (75%)1.680-1.684 (60%)DOn-NGBAN10425Hb > Opx, [Cpx, Bt]1.502-1.505 (70%)1.713-1.718 (90%)1.680-1.684 (60%)COn-NGAD40316Opx > Hb, Cpx, [Bt]1.504-1.506 (60%)1.712-1.716 (40%)1.680-1.689 (90%)F1.706-1.700(1.680-1.689 (90%)1.679-1.682 (70%)C1.712-1.706 (70%)1.712-1.716 (40%)1.680-1.689 (90%)	Ag-OK	Ng102	39	Opx > Cpx, [Hb]	1.509-1.511 (50%)	1.705-1.709 (90%)	[1.683-1.687 (70%)]		D		
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Ag-OK	KT102	32	Opx > Cpx [Hb]	1.510	1 705-1 709 (70%)	[1 680-1 687 (70%)]		J		
Ag-OK       923-1-2       49       Opx > Cpx, [Hb]       1.507-1.509 (45%)       1.707-1.711 (70%)       [1.682-1.682 (60%)]       A         Ag-OK       KR203       19       Opx > Cpx; [Qz]       1.507-1.509 (45%)       1.707-1.711 (70%)       [1.682-1.690 (60%)]       A         Bn-HP2       BAN201       24       Opx > Cpx       [1.506-1.508 (80%)       1.714-1.717 (80%)       C         Bn-HP2       AD205       13       Opx > Cpx       1.507-1.511 (90%)       1.711-1.715 (90%)       F         Bn-HP2       AD302       17       Opx > Cpx, [Hb, Bt]       1.505-1.507 (80%)       1.712-1.715 (100%)       [1.682-1.687 (70%)]       F         Bn-HP2       TK101       8       Opx > Hb, Cpx; [Qz]       1.712-1.717 (90%)       [1.668-1.674 (80%)]       I         Bn-HP2       TK302       6       Opx > Cpx, [Hb]; [Qz]       1.715-1.718 (90%)       [1.668-1.671 (100%)]       I         On-NG       TR106       38       Hb > Opx, [Cpx, Bt]       1.502-1.505 (70%)       1.710-1.713 (75%)       1.680-1.684 (60%)       D         On-NG       AD403       16       Opx > Hb, Cpx, [Bt]       1.504-1.506 (60%)       1.712-1.716 (40%)       1.680-1.689 (90%)       F         On-NG       AD403       16       Opx > Hb, Cpx, [Bt] <td>Ag-OK</td> <td>ON102</td> <td>37</td> <td>Onx &gt; Cnx [Hb]: <math>[Oz]</math></td> <td>1 508-1 509 (60%)</td> <td>1 705-1 709 (70%)</td> <td>[1 682-1 686 (60%)]</td> <td></td> <td>D</td>	Ag-OK	ON102	37	Onx > Cnx [Hb]: $[Oz]$	1 508-1 509 (60%)	1 705-1 709 (70%)	[1 682-1 686 (60%)]		D		
Ag-OK       KR203       19       Opx > Cpx; [Qz]       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.657       1.712       1.712       1.715       1.657       1.657       1.657       1.712       1.712       1.715       1.657       1.657       1.507       1.507       1.507       1.507       1.507       1.507       1.712       1.715       1.656       1.657       1.712       1.712       1.712       1.712       1.712       1.712       1.712       1.712       1.712       1.712	Ag-OK	923-1-2	49	Onx > Cnx [Hb]	1 507-1 509 (45%)	1 707-1 711 (70%)	[1.684-1.690 (60%)]		A		
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Ag-OK	KR203	19	Opx > Cpx; [Qz]		1.703-1.707 (70%)	[]		A		
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Bn-HP2	BAN201	24	Opx > Cpx	1.506-1.508 (80%)	1.714-1.717 (80%)			С		
Bn-HP2       AD302       17       Opx > Cpx, [Hb, Bt]       1.505-1.507 (80%)       1.712-1.715 (100%)       [1.682-1.687 (70%)]       F         Bn-HP2       TK101       8       Opx > Hb, Cpx; [Qz]       1.712-1.715 (100%)       [1.682-1.687 (70%)]       I         Bn-HP2       TK101       8       Opx > Hb, Cpx; [Qz]       1.712-1.717 (90%)       [1.665-1.674 (80%)]       I         Bn-HP2       TK302       6       Opx > Cpx, [Hb]; [Qz]       1.715-1.718 (90%)       [1.668-1.671 (100%)]       I         On-NG       TR106       38       Hb > Opx, [Cpx, Bt]       1.502-1.505 (70%)       1.710-1.713 (75%)       1.680-1.684 (60%)       D         On-NG       BAN104       25       Hb > Opx, [Cpx, Bt]       1.504-1.505 (60%)       1.713-1.718 (90%)       1.680-1.682 (70%)       C         On-NG       AD403       16       Opx > Hb, Cpx, [Bt]       1.504-1.506 (60%)       1.712-1.716 (40%)       1.689-1.689 (90%)       F         1.706 1.700 (20%)       16       Opx > Hb, Cpx, [Bt]       1.504-1.506 (60%)       1.712-1.716 (40%)       1.680-1.689 (90%)       F	Bn-HP2	AD205	13	Opx > Cpx	1.507-1.511 (90%)	1.711-1.715 (90%)			F		
Bn-HP2       TK101       8       Opx > Hb, Cpx; [Qz]       1.712-1.717 (90%)       [1.665-1.674 (80%)]       I         Bn-HP2       TK302       6       Opx > Cpx, [Hb]; [Qz]       1.712-1.717 (90%)       [1.668-1.671 (100%)]       I         On-NG       TR106       38       Hb > Opx, [Cpx, Bt]       1.502-1.505 (70%)       1.710-1.713 (75%)       1.680-1.684 (60%)       D         On-NG       BAN104       25       Hb > Opx, [Cpx, Bt]       1.504-1.505 (60%)       1.713-1.718 (90%)       1.680-1.682 (70%)       C         On-NG       AD403       16       Opx > Hb, Cpx, [Bt]       1.504-1.506 (60%)       1.712-1.716 (40%)       1.680-1.689 (90%)       F	Bn-HP2	AD302	17	Opx > Cpx [Hb Bt]	1.505-1.507 (80%)	1,712-1,715 (100%)	[1 682-1 687 (70%)]		F		
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	Bn-HP2	TK 101	8	Onx > Hb Cnx; [Oz]		1 712-1 717 (90%)	[1 665-1 674 (80%)]		T		
	Bn-HP2	TK302	6	Opx > Cpx, [Hb]; [Qz]		1.715-1.718 (90%)	[1.668-1.671 (100%)	)]	I		
On-NG         BAN104         25         Hb > Opx, [Cpx, Bt]         1.504-1.505 (60%)         1.713-1.718 (90%)         1.607-1.682 (70%)         C           On-NG         AD403         16         Opx > Hb, Cpx, [Bt]         1.504-1.506 (60%)         1.713-1.718 (90%)         1.689-1.689 (90%)         F $1.702 + 720 (200)$ 16         Opx > Hb, Cpx, [Bt]         1.504-1.506 (60%)         1.712-1.716 (40%)         1.689-1.689 (90%)         F	On-NG	TR106	38	Hb > Opx. [Cpx Bt]	1.502-1.505 (70%)	1.710-1.713 (75%)	1.680-1.684 (60%)		D		
On-NG         AD403         16         Opex [Opex, Opex]         1.504-1.506 (60%)         1.1712-1.716 (40%)         1.689-1.689 (90%)         F $1.702 (1.700) (2.000)$ $1.712 - 1.716 (1.700) (2.000)$ $1.712 - 1.716 (1.700) (2.000)$ F	On-NG	BAN104	25	Hb > Opx [Cpx Bt]	1.504-1.505 (60%)	1.713-1.718 (90%)	1 679-1 682 (70%)		C		
1./00-1./09 (30%)	On-NG	AD403	16	Opx > Hb, Cpx, [Bt]	1.504-1.506 (60%)	1.712-1.716 (40%) 1.706-1.709 (30%)	1.680-1.689 (90%)		F		

# 第2表 (続き)

Table 2. Continued.

Unit	Sample	Loc.	Mineral composition		Refractive index mo	de		Ref.
				Glass (n)	Opx (y)	Hb (n2)	Cum (n2)	
Ag-MzP5	KN105	52	Opx > Cpx, [Hb, Bt]	1.503-1.507 (60%)	1.706-1.712 (90%)	[1.673-1.684 (50%)]		Κ
Ū.				1.498-1.500 (30%)		[1.689-1.704 (50%)]		
Ag-MzP5	923-1-3	49	Opx > Cpx. Hb	1.502-1.508 (70%)	1.701-1.709 (100%)	1.679-1.683 (50%)		А
Ag-MzP5	Ng101	39	Opx > Cpx [Hb]	1 506-1 509 (65%)	1 706-1 710 (70%)	[1 684-1 690 (80%)]		D
Ag-MzP5	AD204	13	Opx > Cpx [Hb Bt]	1 502-1 509 (80%)	1 708-1 715 (90%)	[1 679-1 685 (70%)]		F
115 1121 5	110201	15	opx · opx, [110, 14]	1 498-1 499 (30%)	1.700 1.715 (5070)	1 689-1 692 (30%)		•
Asol	IM115	44	Onv Hh > Cnv	1 505 1 500 (100%)	1 608 1 702 (70%)	1 680 1 604 (60%)		Б
Asol	SK 202	41	$Opx, 110 \times Cpx$ Opx > Cpx $Hb$ $[Oll: [Ocl]$	1.505-1.509 (10070)	1.698 1.700 (80%)	1.687 1.694 (80%)		L A
A304	3K202	41	Opx > Cpx, 110, [OI], [Q2]	1.500-1.508 (8078)	1.098-1.700 (8076)	1.087-1.094 (8070)		А
On Dm1	TD 107	20	$Pt > Uh Ony Ony [O_7]$	1 408 1 501 (609/)	1 701 1 708 (709/)	1 692 1 690 (609/)		D
On Pm1	NAS107	20	Bt > Hb, Opx, Cpx, [Q2] Bt > Opy Ub, Cpy	1.498-1.301 (00%)	1.701-1.708 (70%)	1.681 1.689 (00%)		Б
On-Fill1	NA5107	30	Bt > Opx, Hb, Cpx	1.501-1.502 (80%)	1.704-1.710 (70%)	1.081-1.089 (80%)		E
On-Pin1	5K201	41	Bt >Opx, H0, [Cpx]; Qz	1.300-1.302 (100%)	1.706-1.703 (30%)	1.075-1.099 (100%)		A
					1./00-1./09 (30%)			
	NIA C100	20	0		1 702 1 707 ((00/)			г
NK-MA	NAS108	30	Opx > Cpx		1./02-1./0/ (60%)			E
New CD	N CD	40	Dto Ille Come On	1 407 1 500 (1000/)		1 (71 1 (02 (1000/)	1 661 1 667 (1009/)	C
NIII-5B	NIII-SK	48	BL > H0, Cum, QZ	1.497-1.300 (100%)		1.0/1-1.092 (100%)	1.001-1.007 (100%)	G F
Nm-SB	AM102	35	Hb > Bt, [Cum]; Qz	1.496-1.498 (90%)		1.681-1.687 (70%)		Е
			D. 17. 10. 10.			1.6/4-1.6/6 (10%)		-
Nm-SB	NT102	34	Bt, Hb, [Cum, Opx]; Qz	1.496-1.499 (60%)		1.674-1.678 (50%)	[1.664-1.667 (80%)]	G
						1.684-1.688 (40%)		_
Nm-SB	KM101	36	Bt > Hb, [Cum]; Qz	1.496-1.497 (70%)		1.682-1.685 (30%)	[1.661-1.665 (70%)]	Е
						1.673-1.675 (20%)		
Nm-SB	Ht106	28	Bt > Hb; Qz	1.497-1.498 (60%)		1.680-1.689 (60%)		D
						1.673-1.676 (30%)		
Nm-SB	NAS105	29	Hb > Bt, [Cum, Opx,	1.496-1.498 (70%)	[1.703-1.708 (70%)]	1.675-1.687 (100%)		Е
			Cpx]; Qz					
Nm-SB	IM117	44	Hb > Bt, [Opx, Cpx]; Qz	1.499-1.502 (100%)	[1.708-1.711 (70%)]	1.678-1.692 (90%)		Е
Nm-SB	KR102	20	Bt > Hb, [Cum]; Qz	1.497		1.673-1.688 (95%)	[1.660-1.666 (100%)]	Α
Nm-SB	702-3-3	42	Hb > Bt, Opx, Cpx, [Cum]; Qz	1.498-1.500 (90%)	1.717-1.723 (80%)	1.675-1.690 (100%)		А
E4 LIT2	11/107	20		1.504	1 705 1 710 ((00/)			D
Ft-H13	H1107	28	Opx > Cpx, [Bt]	1.304	1./03-1./10 (60%)			D
	A D 101	1.5	Onu Cau	1 502 1 504 (700/)	1 712 1 716 (900/)			Б
Ad-DK	AD101	13	Opx, Cpx	1.503-1.504 (70%)	1.712.1.716 (80%)			F
Ad-DK	AD102	13	Opx > Cpx	1.503-1.504 (80%)	1.711.1.714 (70%)			г Г
Ad-DK	AD103	23	Opx > Cpx	1.503-1.505 (80%)	1./11-1./14 (/0%)	F1 (75 1 (70 (1000))		r
Ad-DK	1K102	8	Cpx > Opx, [Hb]		1./13-1./16 (90%)	[1.6/5-1.6/9 (100%)	J	1
Ad-DK	1K303	6	Cpx > Opx		1./13-1./16 (90%)			1
Ad-DK	Hm101	1	Opx > Cpx	1.502-1.504 (90%)	1.712-1.714 (90%)			A
Ad-DK	Hm204	2	Opx > Cpx, [Hb]	1.503-1.506 (90%)	1.714-1.718 (50%)	[1.674-1.685 (70%)]		I
					1./01-1./0/ (40%)	[1.688-1.693 (20%)]		
Ag-MzP7	IM118	44	Opx > Hb	1.502, 1.511	1.706-1.709 (70%)	1.677-1.681 (40%)		Е
Ag-MzP7	Hm203	2	Hb > Opx, [Bt]; [Qz]	1.497-1.502 (60%)	1.702-1.708 (100%)	1.679-1.683 (80%)		K
				1.504-1.508 (40%)				
t5	Hm202	2	Opx > Cpx, Hb, Bt	1.512-1.515 (80%)	1.703-1.720 (80%)	1.681-1.694 (70%)		А
					1.734-1.737 (20%)	1.670-1.676 (30%)		
Hw-TG	NAS104	29	Opx > Bt, Cpx, [Hb]; Qz	1.496-1.499 (90%)	1.710-1.715 (60%)	[1.675-1.682 (80%)]		Е
Hw-TG	Ht108	28	Opx > Hb, Cpx, Bt; Qz	1.495-1.500 (100%)	1.709-1.715 (70%)			А
Hw-TG	KR104	20	Bt, [Opx, Hb, Cum]; Qz	1.496-1.498 (60%)		[1.673-1.686 (100%)	[1.660-1.665 (100%)]	А
Hw-TG	AD304	17	Bt > Opx, Hb, [Cum]; Qz		1.705-1.708 (60%)	1.668-1.692 (100%)		А
Hw-TG	AD401	16	Opx > Cpx, [Hb, Bt]; Qz	1.493-1.495 (40%)	1.714-1.717 (80%)	[1.686-1.691 (50%)]		F
Hw-TG	Fk601	3	Bt > Hb, Opx, [Cpx]; Qz	1.494-1.496 (50%)	1.700-1.722 (100%)	1.670-1.690 (80%)		Ι
				1.497-1.498 (30%)				
Hw-TG	Hm201	2	Hb, Bt > Opx, [Cpx, Cum]; Qz	1.493-1.502 (80%)	1.698-1.742 (100%)	1.673-1.699 (100%)	[1.656-1.659 (40%)]	Н
							[1.663-1.667 (60%)]	

Unit	Sample	Loc.	Mineral composition		Refractive index mo	de	Re
				Glass (n)	Opx (y)	Hb (n2) Cum (n2)	
Az-SK	Fk201	12	Opx > Cpx	1.510-1.512 (60%)	1.713-1.716 (90%)		Ι
Az-SK	AD305	17	Opx > Cpx, [Hb, Bt]; [Qz]		1.714-1.718 (70%)	[1.672-1.682 (55%)]	Α
					1.708-1.711 (25%)	[1.686-1.692 (40%)]	
Az-SK	AD801	18	Opx > Cpx	1.509-1.513 (70%)	1.713-1.716 (100%)		Α
				1.504-1.507 (30%)			
Az-SK	Fk402	10	Opx > Cpx	1.510-1.512 (80%)	1.713-1.716 (90%)		Ι
Az-SK	TK304	6	Opx > Cpx, [Hb, Cum]; [Qz]		1.713-1.716 (90%)	[1.671-1.702 (100%) [1.663-1.665 (100%)]	Ι
Az-SK	Fk602	3	Opx > Cpx, [Hb, Bt]	1.510-1.512 (60%)	1.706-1.718 (100%)	[1.675-1.689 (60%)]	Ι
				1.504-1.508 (30%)		[1.706-1.711 (20%)]	
Nk-NM	KN201	51	Opx > Cpx, [Hb]		1.704-1.713 (90%)	[1.673-1.695 (100%)]	K
Nk-NM	Ot201	31	Opx > Hb, Cpx; [Qz]		1.707-1.713 (90%)	[1.676-1.681 (80%)]	A
NIL NT	NIA C100	40			1 702 1 709 ((00/)	F1 (75 1 (90 (200/))	Г
NK-Y I	NAS109	40	Opx > Cpx, [Hb]		1./03-1./08 (60%)	[1.6/5-1.680 (30%)]	Е
Az-FK	Fk101	11	Opx > Cpx	1.504-1.505 (90%)	1.716-1.719 (90%)		Ι
Az-FK	AD306	17	Opx > Cpx		1.715-1.721 (100%)		F
Az-FK	TK103	8	Opx > Cpx; [Qz]		1.715-1.718 (70%)		Ι
					1.720-1.721 (30%)		
Az-FK	TK201	7	Opx > Cpx, [Hb]; [Qz]	1.502-1.504 (80%)	1.719-1.722 (90%)	[1.671-1.701 (100%)]	Ι
					1.713-1.714 (10%)		
Az-FK	Fk501	5	Opx > Cpx, [Ol, Hb]	1.502-1.504 (100%)	1.718-1.722 (90%)	[1.667-1.674 (100%)]	Ι
Az-FK	Fk603	3	Opx > Cpx, [Hb, Bt, Ol]; [Qz]	1.503-1.506 (60%)	1.714-1.719 (100%)	[1.667-1.713 (100%)]	Ι
z-Kta	Ot303	41	Hb, [Cpx, Opx]; Qz		[1.701-1.712 (50%)]	1.673-1.685 (90%)	А
					[1.717-1.721 (30%)]		
z-Kta	Ot202	31	Hb > Opx, [Cpx]; Qz	1.497-1.505 (90%)	1.708-1.713 (90%)	1.675-1.684 (100%)	A
z-Kta	NAS103	29	Hb > Opx, [Bt, Cum]; Qz	1.499-1.501 (80%)	1.710-1.713 (90%)	1.675-1.677 (60%)	E
z-Kta	TK305	6	Hb > Opx, [Cpx, Cum, Bt]; Qz		1.708-1.716 (90%)	1.674-1.677 (100%) [1.663-1.664 (80%)]	Ι
п	NA 6110	40	0	1 515 1 516 (709/)	1 700 1 711 (000/)		
UD III.	NAS110	40	Opx > Cpx	1.515-1.516 (70%)	1.706-1.712 (90%)	[1 (81 1 (02 (009/)]	E
JD	0t203	31	Opx > Cpx, [Bt, Hb, OI]; [Qz]		1./06-1./12 (80%)	[1.681-1.693 (90%)]	А
DrP	604-2-1	29	Opx > Cpx, [Hb]		1.702-1.708 (90%)		E
212	NAS111	40	Onv > Cnv		1 705 1 712 (80%)		Б
512	NASIII	40	Opx > Cpx		1.703-1.712 (80%)		Е
313	NAS112	40	Opx > Cpx, [Hb]		1.700-1.703 (60%)	[1.684-1.690 (60%)]	E
	NAS113	40	Opx > Cpx, [Hb]		1.709-1.712 (50%)	[1.674-1.706 (100%)]	E
			·r ·r /r ·J			[	
<i>l</i> 'um	NAS114	40	Hb > Opx, [Cpx, Bt]		1.709-1.711 (40%)	1.687-1.692 (50%)	Е
łu-NN	HwNN	53	Opx	1.504-1.505 (95%)	1.707-1.708 (40%)		F
Iu-NN	Ng104	39	Opx > Cpx, [Hb]	1.504-1.505 (80%)	1.706-1.708 (50%)		D
Iu-NN	TR105	38	Opx > Cpx, [Hb. Bt]	1.503-1.504 (65%)			D
Iu-NN	Ht109	28	Opx > Cpx, [Hb]	1.504-1.505 (80%)	1.706-1.707 (40%)	[1.682-1.685 (50%)]	D
Iu-NN	NAS115	40	Opx > Cpx	1.503-1.504 (60%)	1.704-1.708 (90%)	/3	E
n-KB	KB-PF	46	Bt, [Cum, Opx]; Qz	1.4968-1.4970 (80%	)	[1.670-1.673 (50%)]	C
n-KB	NT101	34	Bt, [Hb, Opx, Cum]; Qz	1.495-1.498 (80%)	[1.708-1.710 (80%)]	[1.674-1.691 (90%)]	Н
Sn-KB	TR103	38	Bt; Qz	1.496-1.498 (100%)			E
Sn-KB	601-2-2	27	Bt, [Hb, Opx]; Qz	1.496-1.498 (90%)			E
Sn-KB	BAN103	25	Bt, [Cum]; Qz	1.496-1.499 (100%)			C
Sn-KB	AD308	18	Bt, [Hb, Cum, Opx]; Qz	1.496-1.498 (80%)		[1.666-1.683 (100%)]	E
Sn-KB	AD212	13	Bt, [Hb, Cum]; Qz	1.496-1.499 (80%)		[1.668-1.683 (100%) [1.657-1.659 (60%)] [1.666-1.669 (40%)]	E
n-KB	FK 301	14	Bt. [Hb. Cum]. Oz	1.493-1 499 (100%)		[1.670-1.681 (70%)] [1.663-1.667 (100%)]	4
n-KR	FK 103	11	Bt [Hh Onx Cum] Oz	1 496		[1 675-1 681 (90%)] [1 662-1 665 (100%)]	Δ
	111105	4.1	a, mu, opr, cumj, Qz			[1.0,0 1.001 (2070)] [1.002-1.000 (10070)]	

第2表 (続き) Table 2. Continued.

第2表	(続き)
Table 2.	Continued

Unit	Sample	Loc	Mineral composition		Refractive index mo	de			
				Glass (n)	Opx (y)	Hb (n2)	Cum (n2)		
Kn-KD	NAS116	40	Hb, [Opx]; Qz		[1.710-1.712 (50%)]	1.676-1.680 (70%)		Е	
IZ2	603-1-1	21	Opx > Hb		1.706-1.708 (60%)	1.670-1.689 (100%)		Е	
TM1	603-1-2	21	Hb > Opx, [Bt]; Qz		1.706-1.711 (90%)	1.672-1.689 (100%)		Е	
TM1	NAS117	40	Hb, Opx, Cpx		1.704-1.712 (90%)	1.676-1.680 (60%)		Е	
TM2	NAS118	40	Bt, [Opx]; Qz		[1.705-1.712 (70%)]			Е	
TM3	NAS119	40	Орх		1.694-1.701 (40%) 1.714-1.721 (40%)			E	
Ij-TK	923-3-1	50	Hb > Cum, [Bt]			1.673-1.675 (60%)	1.664-1.666 (60%)	Е	
Ij-TK	TR102	38	Hb > Cum; Qz			1.672-1.675 (80%)	1.663-1.665 (90%)	Е	
Ij-TK	TK104	8	Hb > Cum, [Bt]; Qz	1.497-1.500 (100%)		1.672-1.678 (90%)	1.662-1.668 (90%)	Ι	
Sn-SK	SK-PF	33	Bt; [Qz]	1.497-1.498 (100%)				С	
Sn-SK	FK401	14	Bt, [Hb, Opx]; Qz	1.497-1.501 (90%)	[1.700-1.704 (40%)]	[1.673-1.679 (80%)]		А	
					[1.712-1.716 (40%)]				
Sn-SK	AD216	13	Bt, [Hb]; Qz	1.497		[1.669-1.671 (30%)]		Α	
Sn-SK	FK105	11	Bt, [Hb]; [Qz]			[1.666-1.672 (50%)]		Α	
						[1.684-1.694 (50%)]			

の産物で、東へ向かう降下火砕堆積物からなる (Fig. 13; Yamamoto, 2005). 福島市から大玉村にかけての伏拝・ 山崎岩屑なだれ堆積物の上位 (Locs. 11, 13, 17 & 18; Figs. 5 & 6) や, 阿武隈山地内の高位段丘の厚い被覆風成 火山灰土 (Locs. 3, 5, 7, 8, 10 & 12; Figs. 3, 4 & 5) 中 において、Az-SKの下位の層準に挟まれている。本テフ ラの岩質は斜方輝石単斜輝石デイサイトで (Table 2),長 径1 mm 前後の斜長石・斜方輝石・単斜輝石の結晶片に 富む淘汰の良い基質に径1 cm 以下の軽石火山礫が含ま れている. 阿武隈山地内の Locs. 3, 5 & 7 の本テフラに は普通角閃石や屈折率のやや低い (1.713-1.714) 斜方輝石 が混在するが、これはほぼ同じ層準にある Iz-KTa に由 来するものである可能性が大きい (Table 2). 反対に Loc. 6の Iz-KTa (TK305) には屈折率のやや高い (1.715-1.716) 斜方輝石が混在しており、これらは本テフラに由来する ものである可能性が大きい.このように両テフラは土壌 化した火山灰土中のほぼ同じ層準にあるため、堆積後の 擾乱により混合が進んだものとみられる. 本テフラに吾 妻火山東山麓での層厚は75 cm 以上で、給源位置を吾妻 火山東部の浄土平付近とすると、32-64 cm 等層厚線が囲 む面積 (Table 4) を用いた降下火砕堆積物の最小体積は 約 9×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> ( 堆積物の平均密度を 800 kg/m<sup>3</sup> として岩石 換算最小体積は約 3×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE, 最小質量は約 7×10<sup>11</sup> kg) である. この規模の噴火では給源に何らかの地形的 痕跡が残されると考えられ、浄土平の北 — 西縁を限る 浄土平爆裂カルデラ (藤縄・鴨志田, 1999) がその候補 として有力である.

#### 3.3 吾妻火山のマグマ噴出量

吾妻火山の過去30万年間のマグマ噴出量時間変化を, 浄土平火山噴出物(山元,2005), Az-SK, Az-FKのデー タを元にFig.14に示した.浄土平火山噴出物のほとん どは,約1,000年間継続した小富士ユニットのブルカノ 式噴火で噴出している.また, Az-SK・Az-FK プリニー 式噴火のマグマ体積の合計と,浄土平火山噴出物のマグ マ体積の合計はほぼ同程度で,間には約10万年の休止 期が存在する.ただし,前述のように個々の山体の層序 関係や形成時期の詳細は不明な点が多いため,浄土平火 山よりも古い噴出物の見落としの可能性もある.

## 4. 安達太良火山

安達太良火山は、福島市南西の火山フロント上に位置 する東西12 km,南北15 kmの成層火山である (Fig. 1). その山体は、55万年前や44万年前の先駆的活動のあと、 35万年前頃に前岳山頂部から和尚山にかけての山体が 形成され、25~20万年前には箕輪山から安達太良山の 厚い安山岩溶岩流からなる主要山体が形成された(藤縄 ほか、2001;藤縄・鎌田、2005).また後者の山体形成 に伴い東山麓には安達太良水原テフラ群 (Ad-MH1~6) が堆積している(山元・阪口、2000).その後、休止期を 挟んで約12万年前に山体中央部の沼ノ平火口で岳プリ ニー式噴火が発生し、山麓には湯川・沼尻火砕流が堆積 した(山元・阪口、2000).岳噴火以降は沼ノ平火口から テフラ噴火が繰り返され、安達太良最新期テフラ群が噴 出している.このテフラ群は下位から、約11万年前の

	Table 5. List	of outcrops.		
No.		1/5万図幅	Latitude	Lomgitude
1	福島県南相馬市鹿島区南海老	相馬中村	37° 42' 40"N	141° 00' 39"E
2	福島県南相馬市原町区塚原	原町及び大甕	37° 34 33"N	141° 01' 33"E
3	福島県伊達郡川俣町山木屋	川俣	37° 36' 06"N	140° 40' 32"E
4	福島県田村市船引町風超峠	川俣	37° 31' 38"N	140° 41' 13"E
5	福島県二本松市針道	川俣	37° 35' 36"N	140° 35' 15"E
6	福島県田村市船引町南移	常葉	37° 29' 39"N	140° 38' 17"E
7	福島県田村市船引町西向	常葉	37° 27' 48"N	140° 37' 41"E
8	福島県田村郡小野町杉内	常葉	37° 20' 15"N	140° 34' 31"E
9	福島県いわき市差塩	小野新町	37° 10' 55"N	140° 42' 52"E
10	福島県福島市小田	福島	37° 42' 14"N	140° 26' 03"E
11	福島県福島市蓬莱町二丁目	福島	37° 41' 39"N	140° 28' 04"E
12	福島県福島市松川町佐久間	二本松	37° 38' 33"N	140° 29' 11"E
13	福島県二本松市鉄扇町山ノ入ダム	二本松	37° 37' 52"N	140° 25' 00"E
14	福島県二本松市安達ヶ原	二本松	37° 35' 18"N	140° 28' 25"E
15	福島県二本松市安達太良山山頂	二本松	37° 37' 16"N	140° 17' 17"E
16	福島県二本松市皿久保	二本松	37° 34' 30"N	140° 20' 48"E
17	福島県安達郡大玉村宮ノ前	二本松	37° 32' 57"N	140° 22' 40"E
18	福島県安達郡大玉村中谷地	二本松	37° 32' 58"N	140° 21' 13"E
19	福島市交通市内和田町苦油	型(1)	37° 27' 27"N	140° 22' 38"E
20	福島県和山市三種田町住 /内	那山	37° 20' 56"N	140° 22' 36' E
20	但自己而且一些。 这些是一些。 一些。 一些。 一些。 一些。 一些。 一些。 一些。	 須賀Ⅲ	37° 11' 10"N	140° 17' 10"E
21	运 自己的 都 不同 打	五事山	37° 13' 55"N	140° 04' 32"E
22	值 周 邪 府 那 按 带 代 町 十 佰	日 <b>安</b> 山 般拼山	27° 27' 21"N	140° 11' 30"E
23	111回示印体が招田に町大広 「空島県駅府那球帯代町球帯代フキー県	岩177山 般境山	27° 24' 27"N	140° 06' 02"E
24	油 与 示 印 林 印 伯 田 八 町 田 八 八 丁 物 互 皂 目 耶 庇 那 狭 般 始 町 諏 註 前	岩177山 般境山	27° 22' 56"N	140°00'02 E
25	油运示印体和沿着17°叫 威力的 复良周亚府那接般拼听再到	岩177山 般境山	27° 22' 24"N	140°03'34 E
20	油岛东帕林和泊岩(7m) 文件 范息俱须贺川本官汉		27° 19' 02"N	140°01 21 E
27	油每示次貝川川	<b>支</b> 泊   <b>三</b> 辺	37 18 02 N	140 12 14 E
20	111回示石/根仰入不竹/17回 振士県 取 須 那 羽 須 町 ケ の 日 ダ ノ	<b>天</b> 石 占河	37 17 10 N	140 03 43 E
29		白河	37 04 20 N	140 08 52 E
30			37 03 23 N	140 09 12 E
20		大口原	27° 27' 28''N	140 05 41 E
32	他与示善多刀 叩 雄国 「 」 」 「 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」	吾夕刀	37 37 28 N	139 37 01 E
33	恼 与示人 冶	吾夕力	37 30 23 N	139 48 44 E
34	情 局 乐 人 沿 郁 云 津 夫 生 可 佐 貝 淑 川 伝 白 県 土 辺 郡 人 法 羊 田 匹 枳 二 定	善多 <b>万</b>	37 30° 18"N	139 48 32 E
35	情局乐人沿却云洋夫里可 <i>吧二奇</i> 远自思会决禁扒去上二字	云洋石松	37 25° 55″N	139 49 56 E
30	情 局 宗 云 洋 石 仏 巾 上 二 奇 信 息 思 吉 久 法 那 工 卿 吹 士 中	云洋石松	37 24 21 N	139 56 00"E
3/	備島県南会津郡下郷町方内 (京島県吉会津郡下郷町館):11	田島	37 19 13"N	139 51 59"E
38	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	田島	37 15 14"N	139 51' 51"E
39	1 届局乐用云准御用云准则长野 4 年1月 19 7年 6 年 5 年 6 月 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1	出局	3/ 12 52"N	139 49' 48"E
40	「栃木県那須塩原巾尸至山	[ 場 馬	36° 58' 03"N	139° 59' 07"E
41	[栃木県那須 <b>温</b> 原巾果亦出 [広古県那ほた医士」の医	<b>温</b> 原	36° 54' 49"N	139 58' 20"E
42	栃不県那須塩原市上の原	温泉	36° 57' 44"N	139° 48' 23"E
43	「栃不県温谷郡塩谷町狄久保	大板	36° 47' 55"N	139° 51' 58"E
44	栃不県日光市大室ダム	<del>天</del> 板	36° 43' 07"N	139° 45' 06"E
45	福島県大沼郡柳津町塩野 	宮下	37° 28' 50"N	139° 44' 41"E
46	福島県大沼郡柳津町松ヶ下	宮下	37° 28' 01"N	139° 43' 28"E
47	福島県大沼郡三島町湯ノ平	宮下	37° 28' 02"N	139° 35' 38"E
48	福島県大沼郡金山町尻吹峠	宮下	37° 27' 14"N	139° 32' 17"E
49	福島県南会津郡南会津町中山峠	糸沢	37° 05' 49"N	139° 40' 39"E
50	福島県南会津郡南会津町高杖スキー場	糸沢	37° 06' 28"N	139° 37' 06"E
51	栃木県鹿沼市坂荷畑	鹿沼	36° 39' 11"N	139° 42' 35"E
52	栃木県鹿沼市富岡	鹿沼	36° 36' 35"N	139° 44' 02"E
53	福島県南会津郡檜枝岐村七入	燧ヶ岳	36° 59' 07"N	139° 20' 13"E
54	群馬県沼田市追貝	片品	36° 42' 24"N	139° 13' 02"E

第3表 露頭位置一覧 Table 3. List of outcrops.



```
第12図 吾妻佐久間テフラ (Az-SK)の分布.
```

数字は降下火砕堆積物の層厚で、単位は cm. Ad = 安達太良火山; Az = 吾妻火山.

Fig. 12Distribution of the Azuma-Sakuma tephra (Az-SK).Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. Ad = Adatara volcano; Az = Azuma volcano.



第13図 吾妻福島テフラ (Az-FK)の分布.

数字は降下火砕堆積物の層厚で、単位は cm. Ad = 安達太良火山; Az = 吾妻火山.

Fig. 13 Distribution of the Azuma-Fukushima tephra (Az-FK).

Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. Ad = Adatara volcano; Az = Azuma volcano.



安達太良松川テフラ (Ad-MT)、約10万年前の安達太良 佐原テフラ (Ad-SH),約9万年前の安達太良えびす1テ フラ (Ad-EB1)、約8万年前の安達太良えびす2テフラ (Ad-EB2),約6万年前の安達太良えびす3テフラ (Ad-EB3)、約4.8 万年前の安達太良えびす4 テフラ (Ad-EB4)、 約4万年前の安達太良二本松テフラ (Ad-NH),約3.5万 年前の安達太良十文字テフラ (Ad-JM),約1万年前以降 の安達太良沼ノ平テフラ群 (Ad-NT) からなる (山元・阪 口, 2000). 今回の報告では、テフラの層序そのものに は修正はないものの、山元・阪口 (2000) が記載した二本 松市皿久保 (Loc.16; Fig. 6) では、皿久保テフラが御岳 奈川テフラ (On-NG) に同定され直したことにより、従来 の Ad-EB1 と Ad-ED2 を, Ad-EB3 と Ad-ED4 に修正する 必要がある.また、これにより山元・阪口 (2000) が見積 もった Ad-EB3 と Ad-ED4 の DRE 体積を倍増する必要が ある.

#### 4.1 安達太良岳テフラ (Ad-DK)

Kimura (1996) 命名. 模式地は安達太良山山頂 (Loc. 15; 表紙写真). 安達太良火山の沼ノ平火口で約12万年前 に起きた大規模なプリニー式噴火の産物で, 斜方輝石単 斜輝石デイサイト - 安山岩の降下火砕堆積物と火砕流堆 積物 (湯川及び沼尻火砕流堆積物; 阪口, 1995) からな る (山元・阪口, 2000). デイサイトと安山岩は斑晶組 み合わせで大きな違いはないものの, 前者は繊維状に良

く発泡したガラス質石基をもつ白-肌色の軽石,後者は ハイアロオフィティック組織の石基を持つ暗灰 - 黒色 スコリアとして産し、両者は時に混合して縞状軽石をつ くっている. テフラの下部はデイサイトが卓越し、中間 部を境に上部で安山岩の割合が急増する. 降下火砕堆積 物は山頂部の沼ノ平火口周辺 (層厚 10.5 m) から,安達 太良火山東山麓を経て、福島県の太平洋岸までその分布 が追跡でき (Fig. 15), 山麓部の伏拝・山崎岩屑なだれ堆 積物の上位 (Locs. 13, 16, 17 & 18; Figs. 5 & 6) や, 阿 武隈山地内の高位段丘の厚い被覆風成火山灰土 (Locs. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 12 & 14; Figs. 3, 4, 5 & 6), MIS 5e に離水した浜通りの小浜段丘 (鈴木, 1999)の被覆風成 火山灰土 (Locs. 1 & 2; Fig. 3) 中の Hu-TG・Nm-SB 間に 挟まれている. 山麓から遠方に分布する降下火砕堆積物 のほとんどはデイサイト軽石火山礫からなり、極めて淘 汰が良い. また、堆積物には逆級化が認められ、基底部 は粗粒火山灰からなる.今回データを加え再作成した降 下火砕堆積物の等層厚線と面積の関係から遠方部の層厚 分布を外挿して (Fig. 16), その体積を積算すると約 2×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup>(堆積物の平均密度を 800 kg/m<sup>3</sup>として岩石換算体積 は約 7×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE, 質量は約 2×10<sup>12</sup> kg) となった. こ の値は 16-32-64-128 cm 等層厚線が囲む面積 (Table 4) を 用いた降下火砕堆積物の最小体積約 1×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup>の倍であ り、降下堆積物の真の体積が同手法による最小体積の数 倍であるとする Legros (2000)の主張とよく合う.本テフ



第15図 安達太良岳テフラ (Ad-DK)の分布.

数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. *Ad* = 安達太良火山; *Az* = 吾妻火山. 山元・阪口 (2000) を一部改変. Fig. 15 Distribution of the Adatara-dake tephra (*Ad-DK*). Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. *Ad* = Adatara volcano; *Az* = Azuma volcano. Modified from Yamamoto and Sakaguchi (2000).

ラの火砕流堆積物の岩石換算体積は約 $1\times10^{0}$  km<sup>3</sup> DRE (質量は約 $2\times10^{12}$  kg) であるので(山元・阪口,2000),降下火砕堆積物と合わせた総体積は約 $2\times10^{0}$  km<sup>3</sup> DRE (総質量は約 $4\times10^{12}$  kg)となる.

# 4.2 安達太良火山のマグマ噴出量

安達太良火山のマグマ噴出量の時間変化については, 山元・阪口 (2000) が既に明らかにしている.しかしなが ら,前述のように Ad-DK・Ad-EB3・Ad-ED4 の体積見積 もりに修正を加えており,その結果を Fig. 17 に反映さ せている.また,この時間変化図では,35 万年前頃(ス テージ2;藤縄・鎌田,2005)と25~20 万年前(ステー ジ3a;藤縄・鎌田,2005)の山体の体積に,梅田ほか(1999) の値(3.4 km<sup>3</sup>,7.6 km<sup>3</sup>)を用いている.各ステージの間 には明瞭な休止期が認められるほか,ステージ毎に平均 的なマグマ供給率が異なっていたこともグラフからは明 らかである.また,Ad-DK の噴火はステージ3aの開始 期に発生しており、本ステージの大半のマグマがこのプ リニー式噴火で噴出した. Ad-DK 以降は、より規模の 小さな噴火が繰り返されている.

# 5. 磐梯火山

磐梯火山は、東北本州弧の南部、福島県猪苗代湖の 北に位置する底径 7~10 km,比高約1 kmの安山岩質 成層火山で (Fig. 1),大磐梯山・櫛ヶ峰・赤埴山の三峰 から構成されている.北麓には1888 年山体崩壊で発生 した総量約1.5 km<sup>3</sup>の岩屑なだれ堆積物が広がっている (Nakamura, 1978).また、岩屑なだれ堆積物は南麓の丘 陵地にも広く分布しており、翁島岩屑なだれ堆積物と呼 ばれている (守屋,1978).その形成史は休止期をはさ んで新旧二つの活動時期に大きく分けることができ、赤 埴 — 櫛ヶ峰を作る山体が古く、南の大磐梯山体と噴火 で大半が失われた北の小磐梯山体が新しい.山元・須藤





<sup>第18図 磐梯葉山1テフラ (Bn-HP1)の分布.
数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. Ad=安達太良火山; Az = 吾妻火山; Bn = 磐梯火山; Nk = 猫魔火山.
Fig. 18 Distribution of the Bandai-Hayama 1 tephra (Bn-HP1).</sup> 

Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. Ad = Adatara volcano; Az = Azuma volcano; Bn = Bandai volcano; Nk = Nekoma volcano.

(1996)の層序に従うと、赤埴-櫛ヶ峰山体は約25万年 前の噴火を最後に活動停止し、約8万年前の葉山2プリ ニー式噴火まで大きな活動休止期がある。翁島岩屑なだ れ堆積物は葉山1プリニー式噴火と同時に発生しており、 その年代は4.6万年前である[葉山1火砕堆積物からは 42 kaの補正放射性炭素年代値が得られているが(山元、 2003)、これを Fairbanks *et al.* (2005)を使い暦年補正する と 46 cal ka となる].また、大磐梯火山は AT 降下直前 にはマグマ噴火を停止している.

#### 5.1 磐梯葉山 1 テフラ (Bn-HP1)

山元・須藤 (1996) 命名.本テフラは、中馬・吉田 (1982) でHP 1,千葉ほか (1994) で葉山 1b 軽石 (HP1b) とされ た降下火砕堆積物と同じものである.模式地は、福島県 猪苗代町猪苗代スキー場 (Loc. 24; Fig. 7).磐梯火山で, 4万6千年前に発生したプリニー式噴火の産物で、翁島 岩屑なだれ堆積物と指交する火砕流堆積物 (Loc. 26) と 東へ向かう降下火砕堆積物からなる (Fig. 18;山元・須藤, 1996).赤埴 – 櫛ヶ峰山体の上位 (Loc. 24; Fig. 7)、安達 太良山麓の沼尻・湯川火砕流堆積物や伏拝・山崎岩屑な だれ堆積物の上位 (Locs. 13, 16, 17&18; Figs. 5&6) や, 阿武隈山地内の高位・中位段丘の厚い被覆風成火山灰土 (Locs. 3, 4, 5&6; Figs. 3&4) 中の Nm-MZ・AT 間に挟 まれているほか,中通りの郡山層河川堆積物 (Loc. 19; Fig. 6) 中に挟まれている.本テフラの岩質は斜方輝石単 斜輝石デイサイトで (Table 2),降下火砕堆積物は逆級化 層理を持つ淘汰の良い軽石火山礫からなる.降下火砕堆 積物の等層厚線と面積の関係から遠方部の層厚分布を 外挿して (Fig. 19),その体積を積算すると約3×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> (堆積物の平均密度を800 kg/m<sup>3</sup>として岩石換算体積は 約1×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE,質量は3×10<sup>11</sup> kg)となった.この値 は8-16-32-64 cm等層厚線が囲む面積 (Table 4)を用いた 降下火砕堆積物の最小体積約2×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup>の1.5倍である. 南山麓に分布する本テフラの火砕流堆積物は、その平均 層厚を4m、平均密度を1200 kg/m<sup>3</sup>として岩石換算体積 は約2×10<sup>-2</sup> km<sup>3</sup> DRE 程度で、降下火砕堆積物よりも一桁 小さい.

#### 5.2 磐梯葉山 2 テフラ (Bn-HP2)

山元・須藤 (1996) 命名.本テフラは中馬・吉田 (1982) で HP2,千葉ほか (1994) で葉山 2b 軽石 (HP2b) とされた 降下火砕堆積物と同じものである.模式地は,福島県猪 苗代町猪苗代スキー場 (Loc. 24; Fig. 7).福島県西部の 磐梯火山で,約8万年前に発生したプリニー式噴火の産 物で,東へ向かう降下火砕堆積物からなる (Fig. 20;山元・ 須藤,1996).赤埴 - 櫛ヶ峰山体の上位 (Locs. 24 & 25; Fig. 7),安達太良山麓の沼尻・湯川火砕流堆積物や伏拝・ 山崎岩屑なだれ堆積物の上位 (Locs. 13,17 & 18; Figs. 5 & 6),阿武隈山地内の高位・中位段丘の厚い被覆風成火 山灰土 (Locs. 4,5,6 & 8; Figs. 3 & 4)中の Ag-MzP5・





第20図 磐梯葉山 2 テフラ (*Bn-HP2*)の分布. 数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. *Ad* = 安達太良火山; *Az* = 吾妻火山; *Bn* = 磐梯火山; *Nk* = 猫魔火山. Fig. 20 Distribution of the Bandai-Hayama 2 tephra (*Bn-HP2*).

Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. Ad = Adatara volcano; Az = Azuma volcano; Bn = Bandai volcano; Nk = Nekoma volcano.



Tephra	2-cm-isopach	4-cm-isopach	8-cm-isopach	16-cm-isopach	32-cm-isopach	64-cm-isopach	128-cm-isopach	256-cm-isopach
_	$(km^2)$	$(km^2)$	$(km^2)$	(km <sup>2</sup> )	$(km^2)$	(km <sup>2</sup> )	(km <sup>2</sup> )	(km <sup>2</sup> )
Ad-DK	n.d.	n.d.	n.d.	3.2E+03	9.3E+02	3.1E+02	1.1E+02	n.d.
Ag-MzP5	n.d.	1.5E+04	8.0E+03	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.
Ag-MzP7	n.d.	7.0E+03	4.2E+03	2.1E+03	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.
Ag-NM1	n.d.	n.d.	4.2E+03	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.
Ag-OK	n.d.	n.d.	4.8E+03	1.7E+03	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.
Az-SK	n.d.	n.d.	n.d.	9.7E+02	2.5E+02	n.d.	n.d.	n.d.
Az-FK	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.	9.9E+02	2.6E+02	n.d.	n.d.
Bn-HP1	n.d.	n.d.	1.2E+03	5.3E+02	1.2E+02	2.6E+01	n.d.	n.d.
Bn-HP2	n.d.	n.d.	1.6E+03	7.6E+02	3.1E+02	1.1E+02	n.d.	n.d.
Hu-NN	n.d.	n.d.	6.2E+03	3.7E+03	2.4E+03	1.4E+03	7.7E+02	3.3E+02
Hu-TG	n.d.	6.2E+03	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.
Ij-TK	n.d.	n.d.	n.d.	3.6E+03	2.1E+03	6.8E+02	n.d.	n.d.
Kn-KD	n.d.	n.d.	n.d.	2.8E+03	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.
Nk-MA	n.d.	n.d.	n.d.	5.2E+03	2.8E+03	1.2E+03	4.6E+02	n.d.
Nk-NM	n.d.	n.d.	n.d.	1.6E+03	9.8E+02	4.1E+02	n.d.	n.d.
Nk-SO	n.d.	n.d.	n.d.	1.3E+03	6.6E+02	2.6E+02	n.d.	n.d.
Nk-YT	n.d.	n.d.	n.d.	1.5E+03	6.8E+02	n.d.	n.d.	n.d.
Nm-MZ	n.d.	4.4E+03	2.8E+03	1.5E+03	6.4E+02	1.6E+02	n.d.	n.d.
Nm-NK II	n.d.	2.6E+03	9.4E+02	2.0E+02	1.0E+02	n.d.	n.d.	n.d.
Nm-NK III	1.1E+03	6.6E+02	4.3E+02	2.7E+02	1.5E+02	6.3E+01	n.d.	n.d.
Nm-NK IV	n.d.	8.8E+02	5.1E+02	2.0E+02	4.9E+01	1.5E+01	n.d.	n.d.
Nm-SB	n.d.	n.d.	n.d.	3.0E+03	9.6E+02	n.d.	n.d.	n.d.
Sn-KB	n.d.	n.d.	n.d.	2.4E+03	1.1E+03	4.6E+02	n.d.	n.d.
Tk-KD	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.	2.5E+01	7.5E+00	n.d.	n.d.

第4表降下火砕堆積物の層厚と等層厚線の囲む面積 Table 4 Area within isopachs of pyroclastic fall deposits.

Nm-MZ 間に挟まれている.本テフラの岩質は斜方輝石 単斜輝石デイサイトで (Table 2),淘汰の良い軽石火山 礫からなる.降下火砕堆積物の等層厚線と面積の関係 から遠方部の層厚分布を外挿して (Fig. 19),その体積を 積算すると約 5×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> (堆積物の平均密度を 800 kg/m<sup>3</sup> として岩石換算体積は約 2×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE,質量は 4×10<sup>-1</sup> kg)となった.この値は 8-16-32-64 cm 等層厚線が囲む面 積 (Table 4)を用いた降下火砕堆積物の最小体積約 4×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup>とほぼ同等である.

# 5.3 磐梯火山のマグマ噴出量

磐梯火山の活動は約40万年前頃に始まり、ソレアイ ト安山岩からなる最初期山体形成後、約25万年前まで カルクアルカリ安山岩からなる赤埴 - 櫛ヶ峰山体の活動 が引き続いた(山元,2011).両活動の間にどれくらいの 休止期があったのかは明らかではないが、両山体を合わ せた全体の体積は、梅田ほか(1999)により11.7 km<sup>3</sup>と見 積もられている.これにBn-HP1・Bn-HP2と小磐梯山体 (0.7 km<sup>3</sup>)及び大磐梯山体(1 km<sup>3</sup>)を合わせた磐梯火山の マグマ噴出量時間変化を、Fig.21に示している.平均的 なマグマ噴出率は、小磐梯・大磐梯山体よりも赤埴 - 櫛ヶ 峰山体の方が大きい.また、長い休止期の後、Bn-HP1・ Bn-HP2のようなプリニー式噴火で新たな火山活動が開 始する特徴は、前述の安達太良火山と共通している.

# 6. 砂子原カルデラ

本カルデラは会津盆地西縁山地内の柳津町にある最大 直径約6 km のカルデラで (Fig. 1), 中期更新世の火砕物 及び湖成堆積物とこれらを貫く流紋岩溶岩(湯の岳溶岩) で埋積されている(山元, 1992;山元・駒澤, 2004).本 カルデラの現在の凹地状地形は不鮮明で、かつてのカル デラ壁が砂子原層と基盤との高角度の不整合面として認 識できる程度である.カルデラ中央部の地熱調査井か らはフォールバック起源の火砕物が見いだされ、じょ うご型の地下構造が推定されている(水垣, 1993). な お、水垣 (1993) によると、フォールバックで充填され た火道の最大径は約2kmで、地形的なカルデラ径より もはるかに小さい.カルデラ形成時に噴出した火砕流堆 積物は東方の会津盆地周辺の中部更新統塔寺層から見つ かり, 佐賀瀬川火砕流堆積物の名で呼ばれている(山元, 1992;山元・須藤, 1996). また、後カルデラ期の末期 に噴出した久保田火砕流に伴う降下堆積物は、会津盆地 から福島中通りに分布する高位段丘堆積物を覆い時間基 準面として広く追跡できる (山元, 1999b).

砂子原カルデラ形成期噴出物の佐賀瀬川火砕流堆積物 からは 0.29±0.06 Ma のジルコン・フィッショントラック 年代値が報告されている (山元, 1992). また,後カルデ ラ期の湯の岳流紋岩からは 0.21±0.03 Ma, 0.5±0.1 Ma の K-Ar 年代, 0.31±0.16Ma, 0.59±0.27 Ma, 1.23±0.40 Ma, のジルコン・フィッショントラック年代値が報告されて いるが (NEDO, 1985), 0.3 ~ 0.2 Ma よりも古い年代値 は誤差が大きく信頼性が乏しい.更に後カルデラ期の久 保田火砕流堆積物の本質岩片からは 0.22±0.05 Ma のジ ルコン・フィッショントラック年代値が報告されている (NEDO, 1985).

## 6.1 砂子原久保田テフラ (Sn-KB)

山元 (1999b) 命名. 模式地は、福島県大沼郡柳津町 松ヶ下 (Loc. 46). 砂子原カルデラの後カルデラ期末約 22 万年前に発生した火砕噴火の堆積物からなる (山元, 1999b). 模式地の久保田火砕流堆積物は、砂子原層の最 上部を占め、カルデラ内の標高 450 ~ 500 m 以上の山地 頂部を構成し、元々の層厚は少なくとも130m以上で あったと判断される (山元・駒澤, 2004). 本火砕流堆積 物は非溶結で塊状のカミングトン閃石含有黒雲母流紋岩 火山礫凝灰岩からなり、ガラス質火山灰の基質に径12 cm 以下の白色~明灰色流紋岩軽石と新鮮な黒雲母普通 角閃石流紋岩の類質岩片や変質した緑色の火山岩からな る異質岩片が含まれている. 軽石の発泡度は多様で、繊 維状に良く発泡したものから、ほとんど発泡していない 多面体型のものまである. どちらも径 1-3 mm の石英斑 晶が肉眼で目立つ. 基質を鏡下で観察すると、繊維状軽 石型の火山ガラス片に混じって、厚めの気泡壁型~ブ ロック状の火山ガラス片が大量に含まれている.結晶片 は斜長石・黒雲母・石英・鉄鉱以外にカミングトン閃石 や斜方輝石が微量ながら含まれている.

本テフラの降下火砕堆積物は給源カルデラから東へ分 布が確認できる (Fig. 22). 会津盆地周辺の塔寺層・高位 段丘の被覆風成火山灰土 (Locs. 34 & 36; Fig. 8) や,赤埴 - 櫛ヶ峰山体の上位 (Loc. 25; Fig. 7), 伏拝・山崎・鶴ヶ 池岩屑なだれ堆積物の上位 (Locs. 11, 13, 18 & 38; Figs. 5,6&9), 白河火砕流群の上位 (Locs. 27 & 35; Figs. 7 & 8), 阿武隈山地内の高位段丘の被覆風成火山灰土 (Loc. 14; Fig. 6) 中の、Sn-SK・Az-FK 間に挟まれている. 会津盆 地周辺では繊維状軽石と流紋岩石質岩片の細粒火山礫と ガラス質火山灰の互層からなる下部と不明瞭な平行層理 が認められる風化の進んだ白色火山灰からなる上部で構 成されるが (Locs. 34, 35 & 36; Fig. 8), これ以外の場所 では淘汰の余り良くない結晶片や流紋岩岩片を含む粘土 質の白色~クリーム色火山灰として確認される. 鏡下で は厚めの気泡壁型~ブロック状火山ガラス片と繊維状軽 石型の火山ガラス片の両者が認められ、結晶片としては 斜長石・石英・黒雲母・鉄鉱と微量のカミングトン閃石 (Table 2),他には微結晶集合体として流紋岩の石質岩片 が多量に含まれている. 鈴木ほか (2004) は、Loc.34の 本テフラ (NT101) を田頭テフラ (本報告の Hu-TG) と同 定しているが、その斑晶組合せはHu-TGとは明瞭に異



```
    第 22 図 砂小原久保田テフラ (Sn-KB)の分布.
    数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. Ad=安達太良火山; Az=吾妻火山; Bn=磐梯火山; Ft=二岐山火山;
    Nm=沼沢火山; Ns=那須火山群; Sn=砂小原カルデラ.山元 (1999b) を一部改変.
    Fig. 22 Distribution of the Sunagohara-Kubota tephra (Sn-KB).
```

Fig. 22 Distribution of the Sunagohara-Kubota tephra (*Sn-KB*). Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. Ad = Adatara volcano; Az = Azuma volcano; Bn = Bandai volcano; Ft = Futamatayama volcano; Nm = Numazawa volcano; Ns = Nasu volcanoes; Sn = Sunagohara caldera. Modified from Yamamoto (1999b).

なっている.給源位置をカルデラ中央部とすると、16-32-64 cm 等層厚線が囲む面積 (Table 4)を用いた降下火砕堆 積物の最小体積は約  $1 \times 10^{0}$  km<sup>3</sup> (堆積物の平均密度を 900 kg/m<sup>3</sup>とすると岩石換算最小体積は約  $5 \times 10^{-1}$  km<sup>3</sup> DRE,最 小質量は約  $1 \times 10^{12}$  kg)である.また、火砕流堆積物の岩 石換算体積はカルデラ面積 (20 km<sup>2</sup>)と最大層厚から、堆 積物の平均密度を 1200 kg/m<sup>3</sup> として約  $1 \times 10^{0}$  km<sup>3</sup> DRE と なり、テフラ全体では約  $2 \times 10^{0}$  km<sup>3</sup> DRE (質量は約  $3 \times 10^{12}$ kg)と見積もられる.

#### 6.2 砂子原佐賀瀬川テフラ (Sn-SK)

山元・須藤 (1996) 命名. 模式地は,福島県大沼郡会 津美里町佐賀瀬川 (Loc. 33).砂子原カルデラ形成期の約 29万年前に発生した火砕噴火の堆積物からなり,カル デラ内の砂子原層下部の非溶結火砕流堆積物を構成する (山元・駒澤,2004). 模式地の本テフラは、カルデラ外 流出相からなり,層厚約3mで径1cm以下の火山豆石 を多量に含む良く成層した降下堆積物と、これを覆う非 溶結でガラス質火山灰の基質に径2~3cmの繊維状軽 石と径3cm以下の石質岩片(流紋岩・凝灰岩)をまばら に含む塊状の黒雲母流紋岩火山礫凝灰岩の火砕流堆積物 で構成される.降下堆積物の基質は厚めの気泡壁型~ブ ロック状の火山ガラス片からなり,軽石片や石質岩片に 乏しい.これを覆う火砕流本体は非溶結で塊状の火山礫 凝灰岩からなり、ガラス質火山灰の基質に径2~3cm の繊維状軽石と径3cm以下の石質岩片(流紋岩・凝灰岩) をまばらに含んでいる.火砕物基質の火山ガラス片の形 態は、繊維状軽石型のものと厚めの気泡壁型~ブロック 状のものが混在している.基質の結晶片には、斜長石・ 黒雲母・鉄鉱と微量の石英が認められる(Table 2).降下



第 23 図 砂小原佐賀瀬川テフラ (Sn-SK)の分布.
 数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. Ad=安達太良火山; Az=吾妻火山; Bn=磐梯火山; Ft=二岐山火山;
 Nm=沼沢火山; Ns=那須火山群; Sn=砂小原カルデラ.

Fig. 23Distribution of the Sunagohara-Sakasegawa tephra (Sn-SK).Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. Ad = Adatara volcano; Az = Azuma volcano;Bn = Bandai volcano; Nm = Numazawa volcano; Sn = Sunagohara caldera.







Fig. 25 Distribution of the Numazawa-Numazawako tephra (*Nm-NK*), Unit II. Numerals are measured maximum diameter of fallout pumice in millimeters. Ad = Adatara volcano; Az = Azuma volcano; Bn = Bandai volcano; Ft = Futamatayama volcano; Nm = Numazawa volcano; Ns = Nasu volcanoes.

火砕堆積物は、会津盆地周辺の塔寺層中 (Loc. 33) や、伏 拝岩屑なだれ堆積物の上位 (Loc. 11; Fig. 5), 阿武隈山 地内の高位段丘の被覆風成火山灰土 (Loc. 14; Fig. 6) 中 の, Sn-KBの下位に挟まれている.ただし、遠方の降下 堆積物は淘汰の余り良くない粘土質の白色~クリーム色 火山灰からなり、火山豆石は認められない. データ不足 のため等層厚線が作図できないので (Fig. 23), 降下火砕 堆積物の体積見積はできていないが、会津盆地西縁での 層厚がより大きいので、その量は Sn-KB よりも大きい と予想される. 佐賀瀬川火砕流堆積物のカルデラ外流出 相はカルデラから半径 25 km 内に断片的に分布している ので (山元・須藤, 1996)、平均層厚を 5 m、堆積物の平 均密度を 1200 kg/m<sup>3</sup>として約 5×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> DRE ( 質量は約 1×10<sup>13</sup> kg) とみなせる. また、カルデラ内にも同程度の 堆積物が伏在するので(山元・駒澤, 2004), その総量は 約 1×10<sup>1</sup> km<sup>3</sup> DRE ( 質量は約 2×10<sup>13</sup> kg) となる.

# 6.3 砂子原カルデラのマグマ噴出量

砂小原カルデラのマグマ噴出量時間変化を, Fig. 24 に 示した.後カルデラ期の湯ノ岳溶岩の体積は,複数の溶 岩岩体を合計して約0.5 km<sup>3</sup>としている.全噴出量は約 13 km<sup>3</sup> DRE となるが, Sn-SK の体積見積の誤差が相当 大きく,この値は目安にすぎない.ただ,カルデラ形成 期の Sn-SK が特に規模が大きかったことは確実である.

# 7. 沼沢火山

本火山は福島県の西部に位置する活火山で (Fig. 1),金 山町の沼沢湖及びその周辺から噴出した後期更新世〜完 新世の流紋岩 – デイサイト溶岩・火砕物からなる.噴出 物は,下位から約11前の芝原・尻吹峠火砕物,約7万 年前の木冷沢溶岩,約5万年前の水沼火砕物,約4万年 前の惣山溶岩,約2.4万年前の沼御前火砕物・前山溶岩,



紀元前 3400 年頃の沼沢湖火砕物である (山元, 2003). 水沼火砕物の直下から 44,930±1,030 yBP と 45,210±1,540 yBP (Loc. 19; Fig. 6), 沼御前火砕物からは 19,880±150 yBP の補正放射性炭素年代を得ているが (山元, 2003), これを Fairbanks *et al.* (2005) を使い暦年校正するとそれ ぞれ 49 cal ka, 49 cal ka, 24 cal ka となる. 噴出物の全 岩化学組成変化には, 下位の流紋岩から上位のデイサイ トへと年代とともに SiO<sub>2</sub> 含有量が減少するトレンドが 認められる (Yamamoto, 2007).

#### 7.1 沼沢沼沢湖テフラ (Nm-NK)

山元(1995)命名.模式地は、福島県大沼郡金山町大栗山、木冷沢右岸.本テフラは沼沢火山で紀元前3400年頃に発生した一連の火砕流噴火・プリニー式噴火・マグマ水蒸気噴火の産物で、山元(1995)により下位からユニットI~IVに区分されている.ユニットIは、白色デイサイト軽石と少量の灰~暗灰色安山岩軽石を含む非溶結の火砕流堆積物からなる。給源から東へ向かった火砕流はいくつかの地形障害を乗り越え20km以上流走しており、先端部が佐賀瀬川を下って会津盆地に流入した.ユニットIIは白色デイサイト軽石と少量の灰~暗灰色安山岩軽石の粗粒火山礫・細粒火山礫・粗粒火山灰・ガラス質細粒火山灰からなる降下堆積物で、上位の単層ほど粒径が小さい.本ユニットの分布が最も広く、北は福島市周辺、南は栃木県北部の那須町の範囲に分布する(Fig.

25). ユニットⅢは灰~暗灰色安山岩軽石と白色デイサ イト軽石からなる細粒火山礫・粗粒〜細粒火山灰の良く 成層した降下堆積物と沼沢湖東岸の狭い範囲に分布する 層厚約2mの火砕サージ堆積物からなる.ユニットⅣは 逆級化構造を持つ灰~暗灰色安山岩軽石の細粒〜粗粒火 山礫降下堆積物からなる.灰~暗灰色安山岩軽石は多面体 状の形態を持ち,その発泡度は良~不良である.

本火砕堆積物の本質物のうち、デイサイト軽石は斑晶 として斜長石、石英、普通角閃石、斜方輝石、鉄鉱と微 量の普通輝石を含んでいる。その石基はガラス質で微 結晶を全く含んでいない。デイサイトのSiO<sub>2</sub>含有量は ほぼ 66 wt%, K<sub>2</sub>O含有量は 1.7 ~ 1.8 wt% である。一方、 安山岩軽石も斑晶として斜長石、石英、普通角閃石、斜 方輝石、鉄鉱、普通輝石を含んでいるものの、石基は ハイアロオフィティック~インターサータル組織を持ち、 斜長石、単斜輝石、斜方輝石、鉄鉱、普通角閃石の微結 晶を生じている。安山岩のSiO<sub>2</sub>含有量は 58 ~ 60 wt%, K<sub>2</sub>O含有量は 0.7 ~ 0.9 wt% と、デイサイトと全く異な る低カリウム系列に属している (Yamamoto, 2007). 各ユ ニット毎の本質物の構成物変化は増淵・石崎 (2011) に詳 しい.

ユニット I の火砕流堆積物の岩石換算体積は山元 (2003) にあるように,堆積物の平均密度を 1200 kg/m<sup>3</sup> と して約 2×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> DRE (質量は約 5×10<sup>12</sup> kg) と見積もら



- 第 27 図 沼沢水沼テフラ (Nm-MZ) のユニット II の分布.
   数字は降下火砕堆積物の層厚で、単位は cm. Ad = 安達太良火山; Az = 吾妻火山; Bn = 磐梯火山; Ft = 二岐山火山; Nm = 沼沢火山.山元 (2003) を一部改変.
- Fig. 27 Distribution of the Numazawa-Mizunuma tephra (*Nm-MZ*), Unit II. Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. Ad = Adatara volcano; Az = Azuma volcano; Bn = Bandai volcano; Ft = Futamatayama volcano; Nm = Numazawa volcano. Modified from Yamamoto (2003).

れている. ユニットⅡの降下火砕堆積物の等層厚線と面 積の関係から遠方部の層厚分布を外挿して (Fig. 26). そ の体積を積算すると約3×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup>(堆積物の平均密度を 800 kg/m<sup>3</sup>として岩石換算体積は約 1×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE, 質量 は約 3×10<sup>11</sup> kg) となった. この値は 4-8-16-32 cm 等層厚 線が囲む面積 (Table 4) を用いた降下火砕堆積物の最小体 積約 2×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> の 1.5 倍である. 同様にユニットⅢ・Ⅳ の降下火砕堆積物の等層厚線と面積の関係から遠方部の 層厚分布を外挿して (Fig. 26)、その体積を積算すると約 2×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> (堆積物の平均密度を1300 kg/m<sup>3</sup>として岩石 換算体積は約1×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE, 質量は約3×10<sup>11</sup> kg)・約 2×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> ( 堆積物の平均密度を 900kg/m<sup>3</sup> として岩石換 算体積は約 6×10<sup>-2</sup> km<sup>3</sup> DRE. 質量は約 1×10<sup>11</sup> kg) となった. これらの値も等層厚線が囲む面積 (Table 4) を用いた降下 火砕堆積物の最小体積約1×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup>の倍である。各降下 火砕堆積物の岩石換算体積は火砕流堆積物のそれよりも 一桁小さく、結局、噴出量の総岩石換算体積は約2×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> DRE (質量は約6×10<sup>12</sup> kg)で山元 (2003) と同じである.

#### 7.2 沼沢水沼テフラ (Nm-MZ)

山元(1995)命名.模式地は,福島県大沼郡金山町水沼 の只見川右岸の岸壁.ただし同郡三島町早戸の国道252 号線早戸トンネル側道沿いの露頭(Loc.47)のほうが観察 は容易である.本テフラは沼沢火山で約5万年前に発生 したプリニー式噴火・火砕流噴火の産物で,山元(1995) により下位からユニットI~IIIに区分されている.本 テフラの本質物は,斑晶として斜長石,石英,普通角閃 石及びカミングトン閃石,鉄鉱,黒雲母を含み,その量 比はこの順で少なくなる(Table 2).またそのSiO<sub>2</sub>含有量 は69 wt%,K<sub>2</sub>O含有量は1.8~2.0 wt%である(Yamamoto, 2007).鈴木・早田(1994)の沼沢 — 金山テフラは,山元 (1995)や本報告の水沼火砕堆積物と基本的に同じもので ある.

ユニット I は、白色粘土質火山灰の基質に粗粒ー細粒 火山礫の異質岩片を多く含む淘汰の極めて悪い塊状の降 下堆積物からなる.本堆積物からは本質物の存在が確認 できず、水蒸気爆発の産物と判断できる.層厚は沼沢湖



第 28 図 沼沢芝原テフラ (Nm-SB)の分布.
 数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. Ad = 安達太良火山; Az = 吾妻火山; Bn = 磐梯火山; Ft = 二岐山火山; Nk = 猫魔火山 Nm = 沼沢火山; Ns = 那須火山群; Nt = 男体火山; NyA = 女峰赤薙火山; Tk = 高原火山.山元(2003)を一部改変.

Fig. 28 Distribution of the Numazawa-Shibahara tephra (*Nm-SB*).
Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. *Ad* = Adatara volcano; *Az* = Azuma volcano; *Bn* = Bandai volcano; *Ft* = Futamatayama volcano; *Nk* = Nekoma volcano; *Nm* = Numazawa volcano; *Ns* = Nasu volcanoes; *Nt* = Nantai volcano; *NyA* = Nyoho-Akanagi volcano; *Tk* = Takahara volcano. Modified from Yamamoto (2003).

周辺で 40 cm 以上, 20 km 東方の地点でも数 cm 以上で ある.ユニット II は, 逆級化構造を持つデイサイト軽石 の細粒-粗粒火山礫降下堆積物からなる.分布の主軸は 沼沢湖付近から東に向き (Fig. 27), 会津盆地周辺の高位・ 中位段丘の被覆風成火山灰土 (Locs. 20, 22, 32 & 45; Figs. 7 & 8) や,赤埴 – 櫛ヶ峰山体の上位 (Loc. 24; Fig. 7),伏拝・山崎岩屑なだれ堆積物の上位 (Locs. 13 & 17; Figs. 5 & 6),白河火砕流群の上位 (Locs. 28 & 35; Figs. 7 & 8),阿武隈山地内の高位・中位段丘の被覆風成火山灰 土 (Locs. 3 & 4; Fig. 3)中の,Ag-OK・DKP間に挟まれ



ているほか,中通りの郡山層河川堆積物(Loc. 19; Fig. 6) 中に挟まれている.ユニットⅢは,径 15 cm以下のデイ サイト軽石に富む火砕流堆積物からなり,火山中心から 6 kmの河谷沿いに分布している.特に只見川沿いの本 堆積物は基底部数 m を除き溶結しており,柱状節理の 発達した岩壁を作っている (Loc. 47).

ユニット II の降下火砕堆積物の等層厚線と面積の関係 から遠方部の層厚分布を外挿して (Fig. 26), その体積を 積算すると約 9×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> (堆積物の平均密度を 1100 kg/ m<sup>3</sup>として岩石換算体積は約 4×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE, 質量は約 1×10<sup>12</sup> kg) となる. この値は 4-8-16-32-64 cm 等層厚線が 囲む面積 (Table 4) を用いた降下火砕堆積物の最小体積約 7×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> とほぼ同等である.ユニット IIIの火砕流につ いては、これが只見川本流を 10 km 程度流れ下ったとす ると、谷埋め堆積は 1 km<sup>3</sup> 強で、おそらく 2 km<sup>3</sup> を越え ることはなかったと推定されている.火砕流堆積物の非 溶結・溶結部の密度から概算するとユニット IIIの岩石換 算体積は約 7×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE (質量は約 2×10<sup>12</sup> kg) となり、 テフラ全体では約 1×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> DRE (質量は約 3×10<sup>12</sup> kg) と 見積もられる (山元, 2003).

#### 7.3 沼沢芝原テフラ (Nm-SB)

鈴木 (1992) 命名. 模式地は福島県西白河郡西郷村大 字真船芝原付近. 沼沢火山で,約11万年前に発生した プリニー式噴火の産物で(山元, 1999b), 給源近傍の火 砕サージ堆積物 (Loc. 48;山元・駒澤, 2004) と南東へ 向かう降下火砕堆積物からなる (Fig. 28). 本テフラの岩 質は、カミングトン閃石含有普通角閃石黒雲母流紋岩で、 石英や黒雲母の斑晶が肉眼でよく目立つ. 降下火砕堆積 物は会津盆地周辺の塔寺層・高位段丘の被覆風成火山灰 土 (Locs. 34, 36; Fig. 8) や, 下郷層・白河火砕流群の上 位 (Locs. 28, 35 & 39; Figs. 7, 8 & 9), 高原火山体の上 位 (Loc. 42; Fig. 9), 伏拝・山崎・鶴ヶ池・黒磯岩屑な だれ堆積物の上位 (Locs. 13, 18, 29 & 38; Figs. 5, 6, 8 & 9),福島中通りから栃木県北部の中位段丘の厚い被覆 風成火山灰土 (Locs. 20 & 44; Figs. 7 & 10) 中の Ad-DK・ Nk-MA 間に挟まれている. 降下火砕堆積物の 16-32cm 等層厚線が囲む面積 (Table 4) を用いた降下火砕堆積物の 最小体積は約 2×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> (堆積物の平均密度を 900 kg/m<sup>3</sup> として岩石換算最小体積は約 6×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE. 最小質量 は約1×10<sup>12</sup> kg) である.火口近傍の火砕サージ堆積物の 推定体積は、これよりも一桁小さい(山元、2003).

### 7.4 沼沢火山のマグマ噴出量

沼沢火山のマグマ噴出量の時間変化については、山 元 (2003) が既に明らかにしている.しかしながら、前述 のように一部の噴出物の噴出年代には暦年校正が必要で、 その結果を Fig. 29 に反映させている.ただし、前半よ りも後半の噴出率が大きい特徴は山元 (2003) の指摘通り で、これはマグマ発生域での部分溶融度の上昇の結果と 考えられている (Yamamoto, 2007).

# 8. 二岐山火山

本火山は福島県南部の下郷町・天栄村境界部に位置す る二岐山をピークに持つ小型の安山岩質成層火山であ る.噴出物は複数の安山岩溶岩流からなる岩山溶岩とこ れを覆う二俣火砕流堆積物と二岐山溶岩で構成されてい る(山元,1999a).二岐山東方1.5 kmの地点の岩山溶岩 からは0.14±0.02 MaのK-Ar年代値が報告され(伴・高 岡,1995),二俣火砕流堆積物の直上からは約9万年前 のAso4の存在が確認されている(山元,1999a).これら のことから本火山の活動時期は,中期更新世末から後期 更新世初頭と判断されている.

本火山起源とみられる降下火砕堆積物は、東山麓の天 栄村 (Loc. 28; Fig. 7) から、須賀川市にかけて少なくと も5層確認でき、下位から二岐山羽鳥 1-5 テフラと呼ぶ (Ft-HT1 ~ Ft-HT5). Ft-HT1 は Hu-NN の直下に、Ft-HT2 と Ft-HT3 は Hu-NN と Nm-SB の間に、Ft-HT4 と Ft-HT5 は Nm-SB と Nm-MZ の間に位置している. いずれも発 泡のあまり良くない安山岩スコリアで構成され、斜長石・ 斜方輝石・単斜輝石・鉄鉱を含んでいる. 稀に石英の結 晶片が含まれるほか、最上部のテフラは普通角閃石の結 晶片を含んでいる. 普通角閃石を含有する特徴は山体最 上部の二俣火砕流堆積物・二岐山溶岩と共通するもので あり、Ft-HT5 はこの噴火の産物である可能性が大きい.

Ft-HT1 ~ Ft-HT5 はいずれも降下火砕堆積物の等層厚 線図が作図できてない.しかしながら山体中心から約10 km離れた天栄村羽鳥 (Loc. 28; Fig. 7)で各テフラの層厚 が30~50 cm あることから,羽鳥までのテフラ等層厚 面積を30 km2 と仮定すれば,各テフラの概算の最小体 積は約2~4×10<sup>-2</sup> km<sup>3</sup> (堆積物の平均密度を1500 kg/m<sup>3</sup> として岩石換算体積は約2~3×10<sup>-2</sup> km<sup>3</sup> DRE)程度とな る.溶岩を主とする二岐山火山体の体積自体は,4.2 km<sup>3</sup> と見積もられており(伴・高岡,1995),噴出物全体に占 める降下火砕物の寄与はかなり小さい.二岐山火山のマ グマ噴出量の時間変化は,Fig. 30 に示している.

#### 9. 那須火山群

那須火山群は、栃木県と福島県の境に位置する第四紀 の火山群で (Fig. 1)、南から北へ南月山・茶臼岳・朝日 岳・三本槍岳・甲子旭岳の順に連なる成層火山の集合体 である (伴・高岡, 1995;山元・伴, 1997). このうち茶 臼岳火山だけが有史以来何回かの噴火記録のある活火山 である.最も古い甲子旭岳火山は 50 万年前頃に活動し た玄武岩 – 安山岩の成層火山体で、福島県内に分布の中 心がある.この火山は現在著しい開析を受けており、火



山の原地形をとどめていない. 甲子旭岳火山のすぐ南の 栃木・福島県境に位置する三本槍火山は、36~27万年 前に活動した成層火山で、玄武岩-安山岩の溶岩・火砕 岩からなる前期噴出物と安山岩 – デイサイトの厚い溶岩 からなる後期噴出物に区分される. 三本槍火山はこれよ りも新しい噴出物に顕著な不整合で覆われており、新期 噴出物を除去すると三本槍火山には南東向きに開いた馬 蹄形の大きな火口地形が復元できる. 那須火山群東山麓 の丘陵地から南の那須野ヶ原にかけて分布する約25万 年前の黒磯岩屑なだれ堆積物は、この部分が山体崩壊を 起こして発生したものと考えられている.次の朝日岳火 山は17~7万年前に活動した安山岩の成層火山で、三 本槍火山の崩壊地形を埋めて成長した. その南にある南 月山火山も、朝日岳火山とほぼ同時期の21~8万年前 に活動した成層火山であるが、朝日岳火山とは独立した 山体を形成している. 那須火山群で最も新しい茶臼岳火 山は約1.9万年前(1.6 kaの放射性炭素年代を暦年校正し た年代)から活動を開始している(山元, 1997).

# 9.1 那須白河テフラ群 (Ns-SR)

那須火山群の東山麓には、見かけの体積が2.0~0.1 km<sup>3</sup>の12枚のスコリア降下火砕物からなる那須白河テフラ群 (Ns-SR1から Ns-SR12)が分布する (鈴木, 1992).

これらのテフラは白河市周辺の白河火砕流堆積物の上位 (Loc. 21; Fig. 7) や黒磯岩屑なだれ堆積物の上位 (Locs. 29 & 30; Fig. 8) で認められ,その層準は Hu-TG 直上か ら Kn-KD 直上にあり,ほぼ 12 万年前から 20 万年前に かけて噴出したものである (山元,1999b).この時期に は朝日岳火山と南月山火山がほぼ同時に活動していたが (伴・高岡,1995;山元・伴,1997),火山近傍のテフラ の層厚分布が不明なこと,テフラの風化が進み岩石学的 検討が困難なことから,どのテフラがどちらの火山起源 であるのかの判定は出来ていない.

# 9.2 那須火山群のマグマ噴出量

那須火山群のうち茶臼岳火山については、マグマ噴出 量の時間変化が明らかにされている(山元,1997).た だし、山元(1997)が用いた年代値は暦年校正のされて いない放射性炭素年代値であるので、若干の変更が必 要である.また、各火山体の体積は、朝日岳山体が6.0 km<sup>3</sup> DRE、南月山山体が11.4 km<sup>3</sup> DRE、三本槍山体が7.2 km<sup>3</sup> DRE と見積もられている(伴・高岡,1995).更に 那須白河テフラ群の総岩石換算体積は2.3 km<sup>3</sup> DRE と見 積もられている(鈴木,1992).朝日岳山体・南月山山体・ 那須白河テフラ群の活動は重複しているので、これらを 一連の活動期と見なし噴出率を平均化すると、火山群全



第 32 図 高原柏木平テフラ (*Tk-KD*)の分布. 数字は降下火砕堆積物の層厚で、単位は cm.

Fig. 32 Distribution of the Takahara-Kashiwagidaira tephra (*Tk-KD*). Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters.

体のマグマ噴出率の時間変化は, Fig. 31 となる. ただし, 各火山体の噴出率は一定ではなく,南月山山体に限って みるとその前期 (21 ~ 18 万年前;伴・高岡, 1995) のソ レアイト質マグマの活動で山体の大半が形成されており, 実際には活動の強弱があったものと見られる.

# 10. 高原火山

高原火山は、栃木県北部の火山フロント上に位置する 成層火山である.成層火山体形成に先立ち大規模な火砕 流(大田原火砕流;Sb-OT)の噴出とカルデラの形成が あった(尾上、1989;井上ほか、1994).大田原火砕流は 那須野ヶ原から喜連川丘陵にかけて分布し、噴出年代は 層序関係から約30万年前と判断されている(鈴木ほか、 2004).一方、カルデラは塩原カルデラと呼ばれ、成層 火山体の北麓にあり、直径約10 kmで、カルデラ内を塩 原湖成層が埋積している(尾上、1989).玄武岩 – デイサ イトの溶岩流を主とする成層火山体の形成はカルデラ形 成直後から始まり、30-20万年前の K-Ar 年代値が報告さ れている (Itaya et al., 1989). また, この成層火山形成に 伴ったとみられる降下火砕物は, 那須野ヶ原の黒磯岩屑 なだれ堆積物の下位と上位にあり (Loc. 40; Fig. 10), そ れぞれ戸室山テフラ群 (TM1-TM9;山元, 1999b) と塩原 テフラ群 (SI1-SI4;鈴木, 1993) と呼ばれている. ただし, これらのテフラはその露出地点が限られ層厚分布を把握 できていないので,全てが高原火山起源であるのかどう かは確認できていない. しかしながら,これらのテフラ と後述する高原柏木平テフラとの間に明らかな高原火山 起源のテフラはないので,少なくとも15万年前から約 3万年の間は,火山活動の休止期間があったものと判断 される.

高原火山の最新期の噴出物は,高原火山北山腹で6.5 千年前に起きた割れ目噴火で,高原上の原テフラ (Tk-UH) と斜方輝石普通角閃石デイサイトの富士山溶岩円 頂丘が形成された (Fig. 32;奥野ほか,1997).割れ目噴 火方向は西北西 - 東南東で,長さ約3kmの火口群が形 成され,富士山溶岩円頂丘はその中央に位置している. Tk-UH は石質岩片・火山灰を主体とするものの,1%以



下の微量の斜方輝石普通角閃石デイサイト軽石が含まれ るので,溶岩流出に先行したマグマ水蒸気爆発の産物と 判断される.Tk-UHの下位にも同様の石質岩片に富んだ 粗粒の火砕物が北山腹で確認できたので,これを高原柏 木平テフラと呼ぶ.

# 10.1 高原柏木平テフラ (Tk-KD)

新称. 模式地は、栃木県那須塩原市上の原 (Loc. 42; Fig. 9). 本テフラは模式地周辺で、Nt-KU3とAg-NM1 間の挟まれる、最大径 60 cm の安山岩石質岩塊をまばら に含む淘汰の悪い火山礫凝灰岩からなる. 粗粒岩塊はし ばしば下面にインパクト構造をつくり、弾道放出された ものであることを示している.含まれる石質岩片の多く は径 3-4 cm で、粗粒石質火山灰の基質を持つ、上位の Tk-UH とよく似た岩相を示すものの、本テフラは最大 径5 cmの斜方輝石普通角閃石デイサイトの本質岩片を 約10%含み、Tk-UHよりも明らかにその含有量が多い. また、この本質岩片は多面体型の緻密なガラス質岩片か らなり、形態も Tk-UH の本質物とは異なっている。富 士山の北にある柏木平で最も厚く、6.5千年前の割れ目 火口群の北側に分布している (Fig. 32). 層厚分布から推 定される給源部には、富士山溶岩円頂丘に覆われて、径 約1kmの潜在円頂丘があり、おそらく本テフラ噴火(マ グマ水蒸気噴火)に伴い形成されたものとみられる. 噴

火年代は Nt-KU3 と Ag-NM1 との関係から,約3万年前 と見積もられる.また,降下火砕堆積物の32-64 cm等 層厚線が囲む面積 (Table 4) を用いた降下火砕堆積物の最 小体積は約2×10<sup>-2</sup> km<sup>3</sup> (本質物の体積はその1/10 程度) である.一方,潜在円頂丘の体積は約1×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> と見積 もられる.

#### 10.2 高原火山のマグマ噴出量

大田原火砕流堆積物 (Sb-OT) の体積は, 平均層厚を 50 m として約 35 km<sup>3</sup> と見積もられている (尾上, 1989). その大半が中~弱溶結していることから、そのマグマ体 積は約 3×10<sup>1</sup> km<sup>3</sup> DRE とする. 成層火山体の体積は概算 で約 2×10<sup>1</sup> km<sup>3</sup> DRE と見積もられ (伴ほか, 1992), そ の活動期間はテフラ層序から 30-15 万年と見なされる. Tk-UH については、テフラ中のマグマ含有量は極わずか で、そのマグマ体積を富士山溶岩円頂丘の体積約 4×10-2 km<sup>3</sup>で代表する. Fig. 33の高原火山におけるマグマ噴 出量時間変化はこれらを合計したものである. Tk-KD・ Tk-UH は、Sb-OT も含めたそれまでの高原火山噴出物と は異なる石英斑晶に富み、普通角閃石斑晶を含むデイサ イトの噴出物である (伴ほか, 1992;井上ほか, 1994). また、Tk-UH (富士山溶岩)の Rb/Zr 比はそれまでの高 原火山噴出物よりも有意に高く(伴ほか, 1992), 起源物 質の違いを示唆している. それゆえ,約3万年前から新



- 第34 図 燧ヶ岳田頭テフラ (Hu-TG)の分布. 数字は降下火砕堆積物の平均最大粒径で,単位は mm. Ad = 安達太良火山; Az = 吾妻火山; Bn = 磐梯火山; Ft = 二岐山火山; Hu = 燧ヶ岳火山; Nm = 沼沢火山; Ns = 那須火山群; Sn = 砂子原カルデラ; Tk = 高原火山.
- Fig. 34 Distribution of the Hiuchigatake-Tagashira tephra (Hu-TG). Numerals are measured diameter of fallout pumice in millimeters. Ad = Adatara volcano; Az = Azuma volcano; Bn = Bandai volcano; Ft = Futamatayama volcano; Hu = Hiuchigatake volcano; Nm = Numazawa volcano; Ns = Nasu volcanoes; Sn = Sunagohara caldera; Tk = Takahara volcano.

たに始まった Tk-KD・Tk-UH の活動は、それまでの高 原火山のマグマ供給系とは全く別系統のマグマに由来す るものとみられる.

# 11. 燧ヶ岳火山

燧ヶ岳火山は、福島県南西縁の尾瀬沼の北にある小型 の成層火山である (Fig. 1;渡邊, 1989a). その最初期の 噴出物は 16-17 万年前のデイサイト質の七入軽石・モー カケ火砕流堆積物で、その降下火砕物は栃木県北部か ら福島県南部に広く分布している(早川ほか, 1997;山 元, 1999a). モーカケ火砕流堆積物は一部弱溶結し、最 大層厚 150 m で旧谷地形を埋積し、上面の標高が 1200-1300 m の火砕流台地を構成している(渡邊, 1989a). そ の後、安山岩 - デイサイトの厚い舌状の溶岩からなる比 高約 1000 m,底部が 8×6 km の山体が火砕流台地上に形 成されている. 活動前半(I・Ⅱ期)の噴出物は斜方輝 石や単斜輝石斑晶のみからなるが、後半(Ⅲ・Ⅳ期)に は輝石以外に普通角閃石・黒雲母・石英斑晶が出現する ようになる(渡邊, 1989a; 1989b).

# 11.1 燧ヶ岳田頭テフラ (Hu-TG)

鈴木 (1992) 命名. 模式地は栃木県那須郡那須町矢の目 ダム (Loc. 29). 燧ヶ岳火山起源と見られる 12.9 万年前 (青 木ほか、2008)のプリニー式噴火の産物で、北東へ向か う降下火砕堆積物からなる (Fig. 34). 燧ヶ岳周辺から本 テフラの給源近傍相は確認されていないが、只見川沿い に本テフラ由来のラハール堆積物が分布するのでその上 流にある本火山が給源と判断された(山元・駒澤, 2004). 本テフラの岩質は黒雲母普通角閃石斜方輝石単斜輝石デ イサイトで、肉眼では石英や有色鉱物の結晶片が目立っ ている。降下火砕物は、南会津の高位段丘の被覆風成火 山灰土 (Loc. 50; Fig. 11) や、山崎・黒磯岩屑なだれ堆積 物の上位 (Locs. 16, 17, 18 & 29; Figs. 6 & 8), 白河火砕 流群の上位 (Loc. 28; Fig. 7), 阿武隈山地内の高位段丘 の厚い被覆風成火山灰土 (Locs. 3, 5 & 12; Figs. 3 & 5) 中の Az-SK · Ag-MzP7 間に挟まれているほか、浜通りの MIS 5e 海成層塚原層基底部に確認できる (Loc. 2; Fig. 3). 塚原層基底部の本テフラは海進時のラグ堆積物中に円磨 された軽石質の砕屑粒子として含まれ、二次堆積物であ ることを示している. それゆえ, 本テフラの降下時期



第35図 燧ヶ岳七入テフラ (Hu-NN)の分布.

数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. Ad = 安達太良火山; Bn = 磐梯火山; Ft = 二岐山火山; Hu = 燧ヶ岳火山; Kn = 鬼怒沼火山; NkS = 日光白根火山; Nm = 沼沢火山; Ns = 那須火山群; Nt = 男体火山; NyA = 女峰赤薙火山; Sn = 砂小原カルデラ; Tk = 高原火山. 山元 (1999b) を一部改変. Distribution of the Hiuchigatake-Nanairi tephra (Hu-NN).

Fig. 35 Distribution of the Hiuchigatake-Nanairi tephra (*Hu-NN*). Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. Ad = Adatara volcano; Bn = Bandai volcano; Ft = Futamatayama volcano; Hu = Hiuchigatake volcano; Kn = Kininima volcano; NkS = Nikko-Shirane volcano; Nm = Numazawa volcano; Ns = Nasu volcanoes; Nt = Nantai volcano; NyA = Nyoho-A kanagi volcano; Sn = Sunagohara caldera; Tk = Takahara volcano. Modified from Yamamoto (1999b).

は MIS 5e の最大海進時直前で(鈴木, 1999), 茨城県鹿 島沖の海底コアの酸素同位体層序から推定された噴出年 代(129.0±3.0 ka;青木ほか, 2008)との一致が良い.一方, 火山灰土中の本テフラは上下の土壌と撹拌されている地 点が多く,単層として認定しづらい.それでも火山灰土 中に白色軽石や石英斑晶が濃集する層準として,テフラ の追跡は可能で,軽石の粒径は南西に向かって大きくな る(Fig. 34).降下火砕堆積物の4 cm等層厚線が囲む面積 (Table 4)を用いた降下火砕堆積物の最小体積は約1×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup>(堆積物の平均密度を 800 kg/m<sup>3</sup>として岩石換算体積 は約4×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE,最小質量は約1×10<sup>12</sup>kg)である.

#### 11.2 燧ヶ岳七入テフラ (Hu-NN)

渡邊 (1989a) の七入軽石を,山元 (1999b) が再定義. 模式地は福島県南会津郡檜枝岐村七入 (Loc. 57). 燧ヶ岳 火山で,16-17 万年前に発生したプリニー式噴火の産物 で(山元,1999b),給源近傍のモーカケ火砕流堆積物と 東北東へ向かう降下火砕堆積物からなる (Fig. 35).本テ

フラの岩質は、斜方輝石単斜輝石デイサイトで、火山 ガラス片の屈折率は1.503-1.505. 斜方輝石の屈折率は 1.706-1.708 に良く集中する (Table 2). 降下火砕堆積物は 南会津の高位段丘の被覆風成火山灰土 (Locs. 49 & 50; Fig. 11) や、鶴ヶ池・黒磯岩屑なだれ堆積物の上位 (Locs. 29, 38 & 40; Figs. 8, 9 & 10), 下郷層· 白河火砕流群 の上位 (Locs. 21, 27, 28 & 39; Figs. 7 & 9)、那須野ヶ 原の大田原火砕流堆積物の上位 (Loc. 41; Fig. 9), 阿武 隈山地の厚い被覆風成火山灰土 (Loc. 9; Fig. 4) 中の Sn-KB・Hu-TG 間,もしくは Kn-KD・SI3 間に挟まれてい る. 降下火砕堆積物の等層厚線と面積の関係から遠方部 の層厚分布を外挿して (Fig. 36), その体積を積算すると 約 4×10° km3 ( 堆積物の平均密度を 800 kg/m3 として岩石 換算体積は約 1×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> DRE, 質量は約 3×10<sup>12</sup> kg) とな る. この値は 8-16-32-64-128-256 cm 等層厚線が囲む面 積 (Table 4) を用いた降下火砕堆積物の最小体積約 3×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup>とほぼ同等である.モーカケ火砕流堆積物について は、堆積物平均密度を1200 kg/m<sup>3</sup>として、その岩石換算





第 38 図 鬼怒沼黒田原テフラ (Kn-KD)の分布.
 数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. Ft = 二岐山火山; Hu = 燧ヶ岳火山; Kn = 鬼怒沼火山;
 NkS = 日光白根火山; Nt = 男体火山; Tk = 高原火山. 山元 (1999b) を一部改変.

体積は約 5×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE (質量は約 1×10<sup>12</sup> kg) と見積も られ (山元, 1999b), テフラ全体では約 2×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> DRE (質 量は約 4×10<sup>12</sup> kg) となろう.

# 11.3 燧ヶ岳火山のマグマ噴出量

本火山のマグマ噴出量の時間変化図は早川ほか (1997) により作成されているものの,Hu-NNの噴出年代を彼 らの35万年前から16-17万年前に修正する必要がある. その理由は,彼らが35万年前の年代の根拠とした那須 野ヶ原における大町 APm-Uテフラ(鈴木,1993)の対比 が間違っていたためで,このテフラはのちに弓張テフラ (Yum)と再定義された(鈴木ほか,1998).早川ほか (1997) によると,Hu-NN以降の燧ヶ岳火山体は,大橇沢火山 体,柴安グラ火山体,重兵衛池溶岩,熊沢田代溶岩,赤 ナグレ溶岩,三池岳溶岩の順で形成され,熊沢田代溶岩 から16 kaの放射性炭素年代が報告されている.Fig.37 は、早川ほか(1997)の火山体体積の見積りをそのままに、 年代を修正して作成したマグマ噴出量の時間変化図であ る. 燧ヶ岳出現時の Hu-NN プリニー式噴火が、単独の 噴火イベントとしては最も規模が大きい.

# 12. 鬼怒沼火山

鬼怒沼火山は尾瀬沼の南東7kmの鬼怒沼付近から噴 出した斜方輝石角閃石デイサイトのヒナタオソロシノ滝 火砕流堆積物と鬼怒沼溶岩流からなる一輪廻の単成火山 である(Fig.1;中村・鈴木,1983;山元,1999b). デイ サイト溶岩流は幅1.4-1.6 kmで,長さが2.4 km,厚さが 150 m前後の一枚の舌状溶岩流からなる.火砕流堆積物 は鬼怒川源頭部の沢沿い標高1400-1600 mの沢沿いに分 布し,溶岩流と岩質の良く似たデイサイト軽石に富む火 山礫凝灰岩 – 凝灰角礫岩からなり,上部を除くと溶結し

Fig. 38 Distribution of the Kinunuma-Kurodahara tephra (*Kn-KD*). Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. Ft = Futamatayama volcano; Hu = Hiuchigatake volcano; Kn = Kininima volcano; NkS = Nikko-Shirane volcano; Nt = Nantai volcano; Tk = Takahara volcano. Modified from Yamamoto (1999b).



ている. 火砕流堆積物の層厚はヒナタオソロシノ滝付近 で約 180 m と最大になる. 鬼怒沼溶岩流中のジルコンか らは, 0.24±0.05 Ma のフィッション・トラック年代値が 得られている (山元, 1999b).

### 12.1 鬼怒沼黒田原テフラ (Kn-KD)

鈴木 (1992; 1993)の黒田原軽石を,山元 (1999b) が再 定義.模式地は栃木県那須塩原市樋沢.鬼怒沼火山で, 23-24 万年前に発生したプリニー式噴火の産物で(山元, 1999b), 給源近傍のヒナタオソロシノ滝火砕流堆積物と 東へ向かう降下火砕堆積物からなる (Fig. 38). 本テフラ の岩質は斜方輝石普通角閃石デイサイトで、石英と有色 鉱物の斑晶が目立つ (Table 2). 降下火砕物は、黒磯岩屑 なだれ堆積物の上位 (Locs. 29 & 40; Figs. 8 & 10), 白河 火砕流群の上位 (Loc. 21; Fig. 7), 鬼怒川沿いの高位段 丘の厚い被覆風成火山灰土中の Hr-MZ・Hu-NN 間に挟 まれているほか、茨城県大洗町の MIS 7.3 層中にその再 堆積物が確認できる (山元, 2007). 降下火砕堆積物の 16 cm 等層厚線が囲む面積 (Table 4) を用いた降下火砕堆 積物の最小体積は約 2×10° km<sup>3</sup> ( 堆積物の平均密度を 800 kg/m<sup>3</sup>として岩石換算最小体積は約 6×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE,最 小質量は約1×10<sup>12</sup> kg) である.大半が溶結したヒナタオ ソロシノ滝火砕流堆積物の体積も約 6×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE (質 量は約1×10<sup>12</sup> kg) であるので (山元, 1999b)、テフラの 総体積は約 1×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> DRE ( 質量は約 2×10<sup>12</sup> kg) となる.

#### 12.2 鬼怒沼火山のマグマ噴出量

前述のように鬼怒沼火山は, Kn-KD のテフラ噴火とこ れに連続した鬼怒沼溶岩流の流出イベントのみからなる 単成火山である.鬼怒沼溶岩流の体積は,約5×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE であるので (山元,1999b),テフラと合わせた本火 山の総マグマ噴出量は約2×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> DRE となる (Fig. 39).

#### 13. 日光火山群

日光火山群は、栃木県北西部の日光市付近から栃木-群馬県境付近にかけての地域に分布する第四紀火山群の 総称である(山崎, 1958;佐々木, 1994),日光火山群の 活動は、まず東部で60万年前頃から安峰赤薙成層火山 の活動が始まり、次に噴出中心が西方に移動して丹勢・ 大真名子・小真名子・太郎・山王帽子などの溶岩円頂丘 群が形成され、その後約2万年前以降に男体・三ッ岳・ 日光白根の諸火山が噴出した(佐々木, 1994). 女峰赤薙 火山に続く溶岩ドーム群の活動時期は特定されていない ものの、日光火山群の東山麓には約8万年前よりも古い 多くの降下火砕堆積物が分布することがこれまでの研究 で明らかにされている(村本, 1992;鈴木, 1993).本報 告では、その中でも規模が大きく、調査地域内の複数地 点で確認され分布図が作成できた日光満美穴、日光早乙 女、日光行川、日光矢板の各テフラについて記載する.



```
第40図 日光満美穴テフラ (Nk-MA) の分布.
数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. NkS = 日光白根火山; Nt = 男体火山; NyA = 女峰赤薙火山.
山元 (1999b) を一部改変.
```

Fig. 40 Distribution of the Nikko-Mamiana tephra (*Nk-MA*).
 Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. *NkS* = Nikko-Shirane volcano; *Nt* = Nantai volcano; *NyA* = Nyoho-Akanagi volcano. Modified from Yamamoto (1999b).

# 13-1. 日光満美デテフラ (Nk-MA)

阿久津(1957)命名. 模式地は栃木県塩谷郡塩谷町荻久 保の高原牧場(Loc. 43; Fig. 10). 日光火山群で約10万 年前に発生したプリニー式噴火の産物で,北東から南東 へ広く分布が追跡できる降下火砕堆積物からなる(Fig. 40;山元, 1999b). ただし,日光火山群のどの山体から 噴出したのかは確定していない. 本テフラの岩質は斜方 輝石単斜輝石安山岩である(Table 2). 模式地での層厚は 78 cmで,粒度の異なる複数のユニットからなる. その 基底部17 cm は良く発泡したオレンジ色ー赤褐色の軽石 火山礫,その上位に厚さ25 cm でやや発泡の良い赤褐色 スコリア火山礫,層厚21 cm で発泡のやや悪い暗褐色ス コリア細粒火山礫,層厚15 cm の成層した粗粒火山灰が 重なっている.降下火砕物は,南会津の高位段丘の被覆 風成火山灰土(Locs. 49 & 50; Fig. 11)や,高原火山体の 上位(Loc. 42; Fig. 9),鶴ヶ池・黒磯・尚仁沢岩屑なだ れ堆積物の上位 (Locs. 30, 38 & 43; Figs. 8, 9 & 10),下 郷層・白河火砕流群の上位 (Locs. 28 & 39; Figs. 7 & 9), 大田原火砕流堆積物の上位 (Loc. 41; Fig. 9),那珂川・ 鬼怒川沿いの高位・中位段丘の厚い被覆風成火山灰土 中 (Locs. 31, 44 & 51; Figs. 8, 10 & 11)の Nm-SB・On-Pm1 間に挟まれている.日光火山群の中央部から噴出し たと仮定して,降下火砕堆積物の16-32-64-128 cm等層 厚線が囲む面積 (Table 4)を用いた降下火砕堆積物の最小 体積は約 3×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> (堆積物の平均密度を 1000 kg/m<sup>3</sup> と して岩石換算最小体積は約 1×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> DRE,最小質量は 約 3×10<sup>12</sup> kg)である.

# 13.2 日光早乙女テフラ (Nk-SO)

村本(1992)・鈴木(1993)命名. 模式地は栃木県塩谷郡 塩谷町荻久保の高原牧場(Loc. 43; Fig. 10). 日光火山群 で約13万年前に発生したプリニー式噴火の産物で,東



第 41 図 日光早乙女テフラ (Nk-SO)の分布.
 数字は降下債堆積物の層厚で,単位は cm. Kn = 鬼怒沼火山; NkS = 日光白根火山; Nt = 男体火山; NyA = 女峰赤薙火山; Tk = 高原火山.

へ向かう降下火砕堆積物からなる (Fig. 41). ただし、日 光火山群のどの山体から噴出したのかは確定していない. 本テフラの岩質は普通角閃石含有斜方輝石単斜輝石安山 岩である (Table 2). 模式地での層厚は 59 cm で、粒度の 異なる複数のユニットからなる. その基底部 32 cm は良 く発泡したオレンジ色軽石火山礫,その上位に厚さ19 cm でやや発泡の良い暗褐色スコリア火山礫, 層厚 8 cm の粗粒火山灰と発泡のやや悪い暗褐色スコリア細粒火山 礫が重なっている.降下火砕物は、尚仁沢岩屑なだれ堆 積物の上位 (Loc. 43; Fig. 10), 大田原火砕流堆積物の上 位 (Loc. 41; Fig. 9), 那珂川・鬼怒川沿いの高位・中位 段丘の厚い被覆風成火山灰土中 (Loc. 31; Fig. 8) の Nk-NM・Ag-MzP9-10 間に挟まれており、層序的に約13万年 前の噴出物と判断される. 日光火山群の中央部から噴出 したと仮定して、降下火砕堆積物の 16-32-64 cm 等層厚 線が囲む面積 (Table 4) を用いた降下火砕堆積物の最小体 積は約 7×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> (堆積物の平均密度を 1000 kg/m<sup>3</sup>とし て岩石換算最小体積は約 3×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE,最小質量は約 7×10<sup>11</sup> kg) である.

# 13.3 日光行川テフラ (Nk-NM)

鈴木 (1993) 命名. 模式地は栃木県塩谷郡塩谷町荻久 保の高原牧場 (Loc. 43; Fig. 10). 日光火山群で約14万 年前に発生したプリニー式噴火の産物で,東へ向かう降 下火砕堆積物からなる (Fig. 42). ただし,日光火山群の どの山体から噴出したのかは確定していない. 本テフラ の岩質は普通角閃石含有斜方輝石単斜輝石安山岩である (Table 2). 模式地での層厚は 53 cm で、粒度の異なる複 数のユニットからなる. その基底部 23 cm は淘汰の良い 赤褐色 — 暗灰色スコリア火山礫, その上位に厚さ 10 cm で赤褐色スコリア細粒火山礫,層厚10 cmの粗粒火山灰, 層厚 10 cm の暗褐色スコリア火山礫混じり粗粒火山灰が 重なっている。降下火砕物は、尚仁沢岩屑なだれ堆積 物の上位 (Loc. 43; Fig. 10), 大田原火砕流堆積物の上位 (Loc. 41; Fig. 9), 那珂川・鬼怒川沿いの高位・中位段丘 の厚い被覆風成火山灰土中 (Locs. 31 & 51; Figs. 8 & 11) の Nk-YT・Nk-SO 間に挟まれており、 層序的に約 14 万 年前の噴出物と判断される. 日光火山群の中央部から噴 出したと仮定して、降下火砕堆積物の16-32-64 cm 等層 厚線が囲む面積 (Table 4) を用いた降下火砕堆積物の最小 体積は約1×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> (堆積物の平均密度を1000 kg/m<sup>3</sup>と して岩石換算最小体積は約4×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE, 最小質量は 約 1×10<sup>12</sup> kg) である.

# 13.4 日光矢板テフラ (Nk-YT)

鈴木 (1993) 命名. 模式地は栃木県塩谷郡塩谷町荻久保 の高原牧場 (Loc. 43; Fig. 10). 日光火山群で約 14 万年 前に発生したプリニー式噴火の産物で,東北東へ向かう 降下火砕堆積物からなる (Fig. 43). ただし,日光火山群 のどの山体から噴出したのかは確定していない. 本テフ ラの岩質は普通角閃石含有斜方輝石単斜輝石安山岩であ る (Table 2). 模式地での層厚は 21 cm で,良く発泡した

<sup>Fig. 41 Distribution of the Nikko-So-otome tephra (</sup>*Nk-SO*).
Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. *Kn* = Kininima volcano; *NkS* = Nikko-Shirane volcano; *Nt* = Nantai volcano; *NyA* = Nyoho-Akanagi volcano; *Tk* = Takahara volcano.



第 42 図 日光行川テフラ (*Nk-NM*)の分布. 数字は降下債堆積物の層厚で,単位は cm. *Kn* = 鬼怒沼火山;*NkS* = 日光白根火山;*Nt* = 男体火山;*NyA* = 女峰赤薙火山;*Tk* = 高原火山.

Fig. 42 Distribution of the Nikko-Namekawa tephra (*Nk-NM*). Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. Kn = Kininima volcano; NkS = Nikko-Shirane volcano; Nt = Nantai volcano; NyA = Nyoho-Akanagi volcano; Tk = Takahara volcano.



第43図 日光矢板テフラ (Nk-YT)の分布.

数字は, Hu = 燧ヶ岳火山; Kn = 鬼怒沼火山; NkS = 日光白根火山; Ns = 那須火山群; Nt = 男体火山; NyA = 女峰赤薙火山; Tk = 高原火山.

<sup>Fig. 43 Distribution of the Nikko-Yaita tephra (</sup>*Nk-YT*).
Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. *Hu* = Hiuchigatake volcano; *Kn* = Kininima volcano; *NkS* = Nikko-Shirane volcano; *Ns* = Nasu volcanoes; *Nt* = Nantai volcano; *NyA* = Nyoho-Akanagi volcano; *Tk* = Takahara volcano.



第44図 飯士高杖テフラ (*Ij-TK*)の分布.

数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. Ad = 安達太良火山; Bn = 磐梯火山; Ft = 二岐山火山; Hu = 燧ヶ岳火山; Ij = 飯士火山; Nm = 沼沢火山; Ns = 那須火山群; Sn = 砂小原カルデラ; Tk = 高原火山. 山元 (1999b) を一部改変.

Fig. 44 Distribution of the Iiji-Takatsue tephra (*Ij-TK*).

Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. Ad = Adatara volcano; Bn = Bandai volcano; Ft = Futamatayama volcano; Hu = Hiuchigatake volcano; Ij = Iiji volcano; Nm = Numazawa volcano; Ns = Nasu volcanoes; Sn = Sunagohara caldera; Tk = Takahara volcano. Modified from Yamamoto (1999b).



赤褐色スコリア火山礫からなる.降下火砕物は,黒磯・ 尚仁沢岩屑なだれ堆積物の上位 (Locs. 40 & 43; Fig. 10), 大田原火砕流堆積物の上位 (Loc. 41; Fig. 9),那珂川・ 鬼怒川沿いの高位・中位段丘の厚い被覆風成火山灰土中 の Iz-KTa・Nk-NM 間に挟まれており,層序的に約14万 年前の噴出物と判断される.日光火山群の中央部から噴 出したと仮定して,降下火砕堆積物の16-32 cm等層厚 線が囲む面積 (Table 4)を用いた降下火砕堆積物の最小体 積は約 8×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> (堆積物の平均密度を 1000 kg/m<sup>3</sup> とし て岩石換算最小体積は約 4×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE,最小質量は約 8×10<sup>11</sup> kg) である.

# 13.5 日光火山群のマグマ噴出量

日光火山群起源の降下火砕物体積の時間変化について は、村本(1992)が既に明らかにしている.ただし、村本 (1992)でもYum(鈴木ほか、1998)をAPmと誤認してい るため、10万年前よりも古いテフラの年代を若く修正 する必要がある.それでも、Nk-YT以降テフラ噴火が繰 り返され、Nk-MAが他よりも大きい傾向などは、本研 究と大きく違うものではない.テフラだけでなく溶岩も 含めた日光火山群のマグマ噴出量を知るためには、大真 名子・小真名子・太郎などの溶岩円頂丘群の噴出年代を 特定する必要があるが、その編年は進んでおらず、今後 の課題として残されている.

# 14. 飯士火山

飯土火山は新潟県南部の魚野川右岸に位置し,火山フ ロントから約60km 背弧側にある第四紀火山である (Fig. 1;茅原ほか,1981).火山体はカルクアルカリ系列の安 山岩 – デイサイトの厚い溶岩流と溶岩ドームの集合か らなり,約30~20万年前のK-Ar 年代値が報告されて いる(赤石,1997).山体南部の魚野川沿いに露出する 越後湯沢火砕流堆積物は22-23万年前に起きたデイサイ トの爆発的噴火の産物で,その降下火砕堆積物(飯土真 岡テフラ:Ij-MO)は給源から南東に分布している(山元, 2007).本火山を給源とするテフラは、これ以外にも以 下の飯士高杖テフラが知られている.

### 14.1 飯士高杖テフラ (lj-TK)

山元 (1999b) 命名. 模式地は福島県南会津郡南会津町 高杖スキー場 (Loc. 50; Fig. 11). 飯士火山で 25-28 万年 前に発生したプリニー式噴火の産物で,東北東に向か う降下火砕堆積物からなる (Fig. 44;山元, 2007). 本テ フラの岩質はカミングトン閃石普通角閃石デイサイトで ある (Table 2). 模式地での層厚は 67cm で,平均最大粒 径 8 mm の白色軽石や長径 5 mm の針状普通角閃石結晶 片を含む淘汰の良い降下火砕堆積物からなる (Loc. 50; Fig. 11). このほか,鶴ヶ池岩屑なだれ堆積物の上位 (Loc. 38; Fig. 9) や,阿武隈山地の高位段丘の厚い被覆風成火 山灰土中 (Loc. 8; Fig. 4) で,Sn-KB の下位に挟まれてい る.降下火砕堆積物の16-32-64 cm等層厚線が囲む面積 (Table 4)を用いた降下火砕堆積物の最小体積は約2×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup>(堆積物の平均密度を800 kg/m<sup>3</sup>として岩石換算最小 体積は約7×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE,最小質量は約2×10<sup>12</sup> kg)である.

## 14.2 飯士火山のマグマ噴出量

飯士火山の活動期は Ij-MO を挟んで,前期 (湯元溶岩・ 立柄山溶岩・Ij-TK) と後期 (主火山体溶岩群・奥添地火 砕流堆積物・飯士山溶岩)に区分される (山元,2007). それぞれのマグマ噴出量は,前期が約 2×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> DRE, 降下火砕物と火砕流堆積物を合わせた Ij-MO の総量が約 2×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> DRE,後期が約 6×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> DRE で,その時間 変化は Fig. 45 のようになる.明らかに前期よりも Ij-MO を含む後期の方が,噴出率が大きく,そのマグマ噴出量 の時間変化は同じく背弧域の沼沢火山のそれ (Fig. 29) と 類似している.

### 15. 赤城火山

赤城火山は, 群馬県北東部に位置する東西 20 km, 南 北 30 km におよぶ大型の成層火山である (Fig. 1). 苦鉄 質の薄い溶岩流と火砕岩からなる古期成層火山体の活 動は 30 万年前以前までさかのぼれる可能性が高く, そ の後, 13-14 万年前からは珪長質の大規模な爆発的噴火 が盛んになり, その活動は 4.4 万年前の赤城鹿沼テフラ (Ag-KP)まで続いている (守屋, 1968;鈴木, 1990;青 木ほか, 2008). 赤城火山からみて北東から東北東の調 査地域に主に分布するテフラは, 以下の赤城行川 1・赤 城追貝・赤城水沼 5・赤城水沼 7 テフラである.

#### 15.1 赤城行川 1 (Ag-NM1)

鈴木 (1990) 命名. 模式地は群馬県桐生市黒保根町水沼 (鈴木, 1990). 赤城火山で約5万年前に発生したプリニー 式噴火の産物で、東北東に向かう降下火砕堆積物からな る (Fig. 46). 本テフラの岩質は普通角閃石斜方輝石単斜 輝石デイサイトである.火山ガラスの屈折率には1.496-1.498, 1.502-1.507, 1.512-1.517の複数のモードが認めら れる (Table 2). 降下火砕堆積物は南会津の高位・中位段 丘の被覆風成火山灰土 (Loc. 49; Fig. 11) や, 高原火山体 の上位 (Loc. 42; Fig. 9), 白河火砕流群の上位 (Loc. 21; Fig. 7), 黒磯・尚仁沢岩屑なだれ堆積物の上位 (Locs. 30 & 43; Figs. 8 & 10), 大田原火砕流堆積物の上位 (Loc. 41; Fig. 9), 那珂川・鬼怒川・片品川沿いの高位・中位段丘 の厚い被覆風成火山灰土中 (Locs. 31, 44, 51, 52 & 54; Figs. 8, 10 & 11)の Ag-NM2・Hr-HP 間に挟まれており、 層序的に約5万年前の噴出物と判断される.降下火砕堆 積物の8 cm 等層厚線が囲む面積 (Table 4) を用いた降下



第46図 赤城行川1テフラ (Ag-NMI)の分布.
 数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. Ad = 安達太良火山; Ag = 赤城火山; Az = 吾妻火山; Bn = 磐梯火山; Ft = 二岐山火山; Hu = 燧ヶ岳火山; Kn = 鬼怒沼火山; NkS = 日光白根火山; Nm = 沼沢火山; Ns = 那須火山群; Nt = 男体火山; NyA = 女峰赤薙火山; Sn = 砂小原カルデラ; Tk = 高原火山.

Fig. 46 Distribution of the Akagi-Namekawa 1 tephra (*Ag-NM1*).
Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. *Ad* = Adatara volcano; *Ag* = Akagi volcano; *Az* = Azuma volcano; *Bn* = Bandai volcano; *Ft* = Futamatayama volcano; *Hu* = Hiuchigatake volcano; *Kn* = Kininima volcano; *NkS* = Nikko-Shirane volcano; *Nm* = Numazawa volcano; *Ns* = Nasu volcanoes; *Nt* = Nantai volcano; *NyA* = Nyoho-Akanagi volcano; *Sn* = Sunagohara caldera; *Tk* = Takahara volcano.

火砕堆積物の最小体積は約1×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> (堆積物の平均密 度を800 kg/m<sup>3</sup>として岩石換算最小体積は約4×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE,最小質量は約1×10<sup>12</sup> kg)である.

# 15.2 赤城追貝テフラ (Ag-OK)

新井 (1962) 命名. 模式地は群馬県沼田市追貝 (Loc. 54; Fig. 11). 赤城火山で約7万年前に発生したプリニー 式噴火の産物で,北東に向かう降下火砕堆積物からな る (Fig. 47). 本テフラの岩質は普通角閃石含有斜方輝 石単斜輝石デイサイトである.火山ガラスの屈折率は, 1.509-1.512 に集中する (Table 2). 模式地での層厚は 29 cm で,良く発泡した白色の軽石火山礫(最大平均径 5.4 cm) からなる. 降下火砕堆積物は南会津の高位・中位段 丘の被覆風成火山灰土 (Locs. 37 & 49; Figs. 9 & 11) や, 安達太良・猫魔火山体の上位 (Loc. 32; Fig. 8), 下郷層・ 白河火砕流群の上位 (Locs. 35 & 39; Figs. 8 & 9), 鶴ヶ池 岩屑なだれ堆積物の上位 (Loc. 38; Fig. 9), 片品川沿い の中位段丘の厚い被覆風成火山灰土中 (Loc. 54; Fig. 11) の On-NG・Nm-MZ 間に挟まれているほか, 中通りの郡 山層河川堆積物 (Loc. 19; Fig. 6) 中に挟まれている. こ れらの層序関係から約7万年前の噴出物と判断されよう. 降下火砕堆積物の 8-16 cm 等層厚線が囲む面積 (Table 4) を用いた降下火砕堆積物の最小体積は約1×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> (堆 積物の平均密度を 800 kg/m<sup>3</sup> として岩石換算最小体積は 約4×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE, 最小質量は約1×10<sup>12</sup> kg) である.



第47図 赤城追貝テフラ (Ag-OK)の分布.

数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. Ad = 安達太良火山; Ag = 赤城火山; Az = 吾妻火山; Bn = 磐梯火山; Ft = 二岐山火山; Hu = 燧ヶ岳火山; Kn = 鬼怒沼火山; NkS = 日光白根火山; Nm = 沼沢火山; Ns = 那須火山群; Nt = 男体火山; NyA = 女峰赤薙火山; Sn = 砂小原カルデラ; Tk = 高原火山.

Fig. 47 Distribution of the Akagi-Okkai tephra (*Ag-OK*).
Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. *Ad* = Adatara volcano; *Ag* = Akagi volcano; *Az* = Azuma volcano; *Bn* = Bandai volcano; *Ft* = Futamatayama volcano; *Hu* = Hiuchigatake volcano; *Kn* = Kininima volcano; *NkS* = Nikko-Shirane volcano; *Nm* = Numazawa volcano; *Ns* = Nasu volcanoes; *Nt* = Nantai volcano; *NyA* = Nyoho-Akanagi volcano; *Sn* = Sunagohara caldera; *Tk* = Takahara volcano.

#### 15.3 赤城水沼 5 テフラ (Ag-MzP5)

守屋(1968)のP5を鈴木(1990)が再定義.山元(1999a) が会津地域で「中山峠テフラ」と呼んでいたものと同一 のテフラである(吉川ほか,2010).模式地は群馬県桐生 市黒保根町水沼(鈴木,1990).赤城火山で約9万年前 に発生したプリニー式噴火の産物で,北東に向かう降下 火砕堆積物からなる(Fig. 48).本テフラの岩質は普通角 閃石含有斜方輝石単斜輝石デイサイトである.火山ガラ スの屈折率は,1.498-1.508に分散する(Table 2).しばし ば,褐色の気泡壁型火山ガラスが混在するが,これは直 下にある Aso4に由来するものである.降下火砕堆積物 は南会津の高位・中位段丘の被覆風成火山灰土(Locs.49 & 50; Fig. 11)や,伏拝・鶴ヶ池岩屑なだれ堆積物の上 位 (Locs. 13 & 38; Figs. 5 & 9), 鬼怒川沿いの高位・中位 段丘の厚い被覆風成火山灰土中 (Locs. 51 & 52; Fig. 11) の Aso4・On-NG 間に挟まれており, 層序的に約9万年 前の噴出物と判断される. 降下火砕堆積物の4-8 cm 等 層厚線が囲む面積 (Table 4) を用いた降下火砕堆積物の最 小体積は約 2×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> (堆積物の平均密度を 800 kg/m<sup>3</sup> と して岩石換算最小体積は約 8×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE, 最小質量は 約 2×10<sup>12</sup> kg) である.

# 15.4 赤城水沼7 テフラ (Ag-MzP7)

鈴木 (1990) 命名. 模式地は群馬県桐生市黒保根町水沼 (鈴木, 1990). 赤城火山で約12万年前に発生したプリ ニー式噴火の産物で,北東に向かう降下火砕堆積物から



第48図 赤城水沼 5 テフラ (Ag-NM5) の分布.

数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. Ad = 安達太良火山; Ag = 赤城火山; Az = 吾妻火山; Bn = 磐梯火山; Ft = 二岐山火山; Hu = 燧ヶ岳火山; Kn = 鬼怒沼火山; NkS = 日光白根火山; Nm = 沼沢火山; Ns = 那須火山群; Nt = 男体火山; NyA = 女峰赤薙火山; Sn = 砂小原カルデラ; Tk = 高原火山.

Fig. 48 Distribution of the Akagi-Mizunuma 5 tephra (*Ag-MzP5*).
Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. *Ad* = Adatara volcano; *Ag* = Akagi volcano; *Az* = Azuma volcano; *Bn* = Bandai volcano; *Ft* = Futamatayama volcano; *Hu* = Hiuchigatake volcano; *Kn* = Kininima volcano; *NkS* = Nikko-Shirane volcano; *Nm* = Numazawa volcano; *Ns* = Nasu volcanoes; *Nt* = Nantai volcano; *NyA* = Nyoho-Akanagi volcano; *Sn* = Sunagohara caldera; *Tk* = Takahara volcano.

なる (Fig. 49). 本テフラの岩質は普通角閃石斜方輝石デ イサイトである (Table 2). 降下火砕堆積物は高原火山体 の上位 (Locs. 42 & 43; Figs. 9 & 10) や, 下郷層の上位 (Loc. 39; Fig. 9), 鶴ヶ池・黒磯・尚仁沢岩屑なだれ堆積物の 上位 (Locs. 29, 30 & 38; Figs. 8 & 9), 大田原火砕流堆積 物の上位 (Loc. 41; Fig. 9), 那珂川沿いの中位段丘の厚 い被覆風成火山灰土中 (Loc. 31; Fig. 8), MIS 5e 末に離 水した浜通りの小浜段丘 (鈴木, 1999)の被覆風成火山 灰土 (Loc. 2; Fig. 3) 中の Hu-TG・Ad-DK 間に挟まれて おり, 層序的に約 12 万年前の噴出物と判断される.また, 鬼怒川沿いの下野大沢段丘の河川堆積物直上には,本テ フラ由来のラハール堆積物が重なっている (Loc. 44; Fig. 10). 降下火砕堆積物の 4-8-16 cm 等層厚線が囲む面積 (Table 4) を用いた降下火砕堆積物の最小体積は約1×10<sup>0</sup> km<sup>3</sup> ( 堆積物の平均密度を 800 kg/m<sup>3</sup> として岩石換算最小 体積は約4×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE, 最小質量は約1×10<sup>12</sup> kg) である.

# 15.5 赤城火山のマグマ噴出量

赤城火山群起源の13-14万年前以降の降下火砕物体積 の時間変化については、鈴木 (1990)が既に明らかにして いる。今回明らかにした Ag-NM1・Ag-OK・Ag-MzP5・ Ag-MzP7の層厚分布と体積は鈴木 (1990)の成果を補足 するものであり、これと大きな矛盾はない。赤城火山の マグマ噴出量時間変化を明らかにするためには、山体を 構成する溶岩や火砕流堆積物 (竹本, 1998)の体積も見 積もる必要があるが、これは今後の課題である。



第49図 赤城水沼7テフラ (Ag-NM7)の分布.

数字は降下火砕堆積物の層厚で,単位は cm. Ad = 安達太良火山; Ag = 赤城火山; Az = 吾妻火山; Bn = 磐梯火山; Ft = 二岐山火山; Hu = 燧ヶ岳火山; Kn = 鬼怒沼火山; NkS = 日光白根火山; Nm = 沼沢火山; Ns = 那須火山群; Nt = 男体火山; NyA = 女峰赤薙火山; Sn = 砂小原カルデラ; Tk = 高原火山.

Fig. 49 Distribution of the Akagi-Mizunuma 7 tephra (*Ag-MzP7*).
Numerals are measured thickness of the pyroclastic fall deposit in centimeters. *Ad* = Adatara volcano; *Ag* = Akagi volcano; *Az* = Azuma volcano; *Bn* = Bandai volcano; *Ft* = Futamatayama volcano; *Hu* = Hiuchigatake volcano; *Kn* = Kininima volcano; *NkS* = Nikko-Shirane volcano; *Nm* = Numazawa volcano; *Ns* = Nasu volcanoes; *Nt* = Nantai volcano; *NyA* = Nyoho-Akanagi volcano; *Sn* = Sunagohara caldera; *Tk* = Takahara volcano.

# 16. まとめ

福島 — 栃木地域の 54 露頭で確認された吾妻火山,安 達太良火山,磐梯火山,砂子原カルデラ,沼沢火山,二 岐山火山,那須火山群,高原火山,燧ヶ岳火山,鬼怒沼 火山,日光火山群,飯士火山,赤城火山起源の 30 万年 前以降のテフラについて,その層序・分布・構成物・噴 火年代・マグマ体積の再記載を行った.その結果,調査 地域内のマグマ体積が約 1×10<sup>-1</sup> km<sup>3</sup> DRE 以上のテフラに ついては全てリストアップすることが出来た.また,吾 妻火山,安達太良火山,磐梯火山,砂子原カルデラ,沼 沢火山,二岐山火山,那須火山群,高原火山,燧ヶ岳火山, 鬼怒沼火山, 飯士火山については, マグマ噴出量の時間 変化を明らかにしている. 残る日光火山群と赤城火山に ついては, テフラ層と山体を構成する溶岩・火砕岩との 対応が十分に解明されていないため, マグマ噴出量の時 間変化を示していない. この点は, 今後の課題である.

**謝辞**:本研究は、これまでの地質図幅の調査研究で得ら れた成果を取りまとめ直したものである.歴代の地質図 幅研究の責任者の方々には、様々な便宜を図って頂き、 感謝いたします.

# 文 献

- 赤石和幸 (1997) 東北日本弧南部背弧域四火山 (守門火山, 浅草火山,枡形火山,飯士火山)の年代学的・岩石 学的研究,および東北日本弧第四紀火山の時空分布 についての考察.東北大学博士論文,154p.
- 阿久津 純 (1955) 宇都宮周辺の関東火山灰層と河成段丘. 宇都宮大学学芸学部研究論集, vol.4, p.33-46.
- 阿久津 純 (1957) 宇都宮付近の関東ローム (火山灰)層. 地球科学, vol.33, p.1-11.
- 青木かおり・入野智久・大場忠道 (2008) 鹿島沖海底コア MD01-2421 の後期更新世テフラ層序. 第四紀研究, vol.47, p.391-407.
- 新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬 大学紀要自然科学編, no.10, p.1-79.
- 伴 雅雄・高岡宣雄 (1995) 東北日本弧, 那須火山群の形 成史. 岩鉱, vol.90, p.195-214.
- 伴 雅雄・山中孝之・井上道則・吉田武義・林 信太郎・ 青木謙一郎 (1992) 東北本州弧,高原火山噴出物の 地球化学. 核理研研究報告, vol.25, p.199-226.
- 茅原一也・小松正幸・島津光夫・久保田喜裕・塩川 智, 1981,越後湯沢地域の地質.地域地質研究報告(5 万分の1図幅),地質調査所,108p.
- 中馬教允・吉田 義 (1982) 磐梯山南麓の地質について. 福島大特定研,猪苗代湖の自然,研究報告, no.3, p.21-32.
- 千葉茂樹・木村純一・佐藤美穂子・富塚玲子 (1994) 福 島県磐梯火山のテフラ - ローム層序と火山活動史. 地球科学, vol.48, p.223 - 240.
- Fairbanks, R.G., Mortlock, R.A., Chiu, T.-C., Cao, L., Kaplan, A., Guilderson, T.P., Fairbanks, T.W., Bloom, A.L., Grootes, P.M. and Nadeau, M.-J. (2005) Radiocarbon calibration curve spanning 0 to 50,000 years BP based on paired <sup>230</sup>Th/<sup>234</sup>U/<sup>238</sup>U and <sup>14</sup>C dates on pristine corals. *Quaternary Sci. Rev.*, vol.24, p.1781-1796.
- 藤縄明彦・鎌田光春 (2005) 安達太良火山の最近 25 万年 間における山体形成史とマグマ供給系の変遷. 岩石 鉱物科学, vol.34, p.35-58.
- 藤縄明彦・鴨志田 毅 (1999) 吾妻火山.フィールドガイ ド日本の火山4 東北の火山,築地書館, p.89-104.
- 藤縄 明彦・林 信太郎・梅田 浩司 (2001) 安達太良火山 の K-Ar 年代:安達太良火山形成史の再検討.火山, vol.46, p.95-106.
- Hayakawa, Y. (1985) Pyroclastic geology of Towada volcano. Bull. Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo, no.60, p.507-592.
- 早川由紀夫 (1995) マスターテフラによる日本の 100 万年 噴火史編年.火山, vol. 40, p.S1-S15.
- 早川由紀夫・新井房夫・北爪智啓 (1997) 燧ヶ岳火山の噴 火史. 地学雑, vol.106, p.660-664.

- 井上道則・吉田武義・藤縄宏和・伴 雅雄 (1994) 東北本 州弧,高原火山群における山体形成史とマグマの成 因.核理研研究報告, vol.27, p.169-198.
- Itaya, T., Okada, T., Onoe, T. and Issiki, N. (1989) K-Ar ages of the Middle Pleistocene Takahara volcano, and argon release processes in cooling lava. *Mass Spectroscory*, vol.37, p.365-374.
- Kimura, J. (1996) Near-synchroneity and periodicity of backarc propagation of Quaternary explosive volcanism in the southern segment of northeastern Honshu arc: a study facilitated by tephrochronology. *Quaternary International*, vol.34-36, p.99-105.
- 久保和也・柳沢幸夫・吉岡敏和・山元孝広・滝沢文教 (1990) 原町及び大甕地域の地質.地域地質研究報告 (5万 分の1地質図幅),地質調査所,155p.
- Legros, F. (2000) Minimum volume of tephra fallout deposit estimated from a single isopach. *Jour. Volcanol. Geotherm. Res.*, vol.96, p.25-32.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰 姶良 Tn 火山灰の発見とその意義. 科学, vol.46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1979) 大山倉吉軽石層 分布の広域 性と第四紀編年上の意義. 地学雑, vol.88, p.313-330.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス.東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 新編火山灰アトラス 日本列 島とその周辺.東京大学出版会,336p.
- 町田 洋・鈴木正男 (1971) 火山灰の絶対年代と第四紀後 期の編年 - フィッション・トラック法による試み -. 科学, vol.41, p.263-270.
- 町田 洋・新井房夫・百瀬 貢 (1985) 阿蘇 4 火山灰 分 布の広域性と後期更新世指標層としての意義 -. 火 山, vol.30, p.49-70.
- 増淵佳子・石崎泰男 (2011) 噴出物の構成物組成と本質物 質の全岩及び鉱物組成から見た沼沢火山の BC3400 カルデラ形成噴火 (沼沢湖噴火)のマグマ供給系. 地質雑, vol.117, p.357-376.
- Matsumoto, A., Uto, K. and Shibata, K. (1989) K-Ar dating by peak comparison method – New technique applicable to rocks younger than 0.5 Ma -. *Bull. Geol. Surv. Jpn.*, vol.40, p.534-564.
- Miall, A.D. (1978) Lithofacies types and vertical profiles models in braided river deposits: a summary. In Miall, A.D., ed., *Fluvial Sedimentology. Can. Soc. Petrol. Geol. Mem.*, no.5, 597-604.
- 宮地直道 (1988) 新富士火山の地質. 地質雑, vol.94, p.433-452.
- 水垣桂子 (1993) 砂子原カルデラの構造と火山活動史.地 質雑, vol.99, p.721-737.
- 守屋以智雄 (1968) 赤城火山の地形と地質. 前橋営林局,

64p.

- 守屋以智雄 (1978) 空中写真による火山の地形判読.火山, vol.23, p.199-214.
- 村本芳英(1992)日光火山群東方地域に分布する中・後期 更新世テフラ:日光火山群の噴火史.静岡大地球科 学研究報告, no.18, p.59-91.
- Nakamura, K. (1964) Volcano-Stratigraphic Study of Oshima Volcano, Izu. Bull. Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo, vol.42, p.649-728
- Nakamura, Y. (1978) Geology and petrology of Bandai and Nekoma volcanoes. *Sci. Rept. Tohoku Univ., Ser. III*, vol.14, p.67-119.
- 中村洋一・鈴木陽雄 (1983) 奥鬼怒の地質と岩石. 宇都宮 大境域学部紀要, no. 34, p. 63-77.
- NEDO[新エネルギー総合開発機構](1985)地熱開発促進 調査報告書, no.8, 奥会津地域. 811p.
- NEDO[新エネルギー総合開発機構](1991)磐梯山地域火 山地質図及び磐梯山地域地熱地質編図,同説明書.
- 奥野 充・守屋以智雄・田中耕平・中村俊夫 (1997) 北関東, 高原火山の約 6500 cal yr BP の噴火.火山, vol.42, p.393-402.
- 尾上 亨 (1989) 栃木県塩原産更新世植物化石群による古 環境解析. 地質調査所報告, no.269, p.1-207.
- Pyle, D. M. (1989) The thickness, volume and grainsize of tephra fall deposits. *Bull. Volcanol.*, vol.51, p.1-51.
- 阪口圭一 (1995) 二本松地域の地質.地域地質研究報告 (5 万分の1地質図幅),地質調査所,79p.
- 佐々木 実 (1994) 日光火山群の岩石学. 月刊地球, vol. 16, p. 221-230.
- 佐々木 実・鰺坂富夫・岡本 昭 (1958) 那須野原の地質 と地下水. 地学雑, vol.67, p.59-73.
- 鈴木毅彦 (1990) テフロクロノロジーからみた赤城火山最 近 20 万年間の噴火史. 地学雑, vol.99, 2, p.60-75.
- 鈴木毅彦 (1992) 那須火山のテフロクロノロジー.火山, vol.37, p.251-263.
- 鈴木毅彦 (1993) 北関東那須野原周辺に分布する指標テフ ラ層. 地学雑, vol.102, p.73-90.
- 鈴木毅彦 (1996) 栃木県那須野原に分布する後期更新世テ フラ – 日光,赤城火山起源のテフラと広域テフラ –. 日本第四紀学会第四紀露頭編集員会編,第四紀露頭 集 – 日本のテフラ.日本第四紀学会,p.169-169.
- 鈴木毅彦 (1999) 福島県太平洋岸,塚原海岸における最終 間氷期最盛期の海進海退過程とその時期降下した テフラについて.地学雑,vol.108, p.216-230.
- 鈴木毅彦 (2001) 海洋酸素同位体ステージ 5-6 境界に降下 した飯綱上樽テフラ群とその編年学的意義. 第四紀 研究, vol.40, p.29-41.
- 鈴木毅彦・早田 勉 (1994) 奥会津沼沢火山から約5万 年前に噴出した沼沢-金山テフラ. 第四紀研究,

vol.33, p.233-242.

- 鈴木毅彦・藤原 治・檀原 徹 (1998) 関東北部から東北 南部に分布する第四紀テフラのフィション・トラッ ク年代.第四紀研究, vol.37, 95-106.
- 鈴木毅彦・藤原 治・檀原 徹 (2004) 東北南部, 会津地 域周辺における中期更新世テフラの層序と編年.地 学雑, vol.113, p.38-61.
- 竹本弘幸(1998)赤城火山.フィールドガイド日本の火山 1 関東・甲信越の火山 I,築地書館, p.52-73.
- 竹本弘幸・百瀬 貢・平林 潔・小林武彦 (1987a) 新期 御岳テフラ層の層序と年代 – 中部日本における編 年上の意義 –. 第四紀研究, vol.25, p.337-352.
- 梅田浩司・林 信太郎・伴 雅雄・佐々木 実・大場 司・ 赤石和幸 (1999) 東北日本,火山フロント付近の 2.0 Ma 以降の火山活動とテクトニクスの推移.火山, vol.44, p.233-249.
- 渡邊久芳 (1989a) 尾瀬燧ヶ岳火山の地質. 岩鉱, vol.84, p.55-69.
- 渡邊久芳 (1989b) 尾瀬燧ヶ岳火山の岩石記載及び全岩化 学組成. 岩鉱, vol.84, p.301-320.
- 山元孝広(1992)会津盆地,塔寺層の火山性砕屑物堆積相 から見た砂子原カルデラ火山の中期更新世火山活 動.地質雑,vol.98, p.855-866.
- 山元孝広 (1995) 沼沢火山における火砕流噴火の多様性: 沼沢湖および水沼火砕堆積物の層序.火山,vol.40, p.67-81.
- 山元孝広 (1997) テフラ層序からみた那須茶臼岳火山の噴 火史. 地質雑, vol.103, p.676-691.
- 山元孝広 (1999a) 田島地域の地質.地域地質研究報告 (5 万分の1地質図幅),地質調査所,85p.
- 山元孝広 (1999b) 福島-栃木地域に分布する 30-10 万年 前のプリニー式降下火砕物:沼沢・燧ヶ岳・鬼怒沼・ 砂子原火山を給源とするテフラ群の層序.地調月報, vol.50, p.743-767.
- 山元孝広 (2003) 東北日本, 沼沢火山の形成史:噴出物層 序,噴出年代及びマグマ噴出量の再検討. 地質調査 研究報告, vol.54, p.323-340.
- 山元孝広 (2005) 福島県, 吾妻火山の最近 7 千年間の噴火 史:吾妻 – 浄土平火山噴出物の層序とマグマ供給系. 地質雑, vol.111, p.94-110.
- Yamamoto, T. (2005) The rate of fluvial incision during the Late Quaternary period in the Abukuma Mountains, northeast Japan, deduced from tephrochronology. *Island Arc*, vol.14, p.199-212.
- 山元孝広 (2006) 宇都宮市宝積寺段丘を貫く UT05 コアの 層序記載と鬼怒川の堆積侵食履歴. 地質調査研究報 告, vol.57, p.217-228.
- Yamamoto, T. (2007) A rhyolite to dacite sequence of volcanism directly from the heated lower crust: Late

Pleistocene to Holocene Numazawa volcano, NE Japan. *Jour. Volcanol. Geotherm. Res.*, vol.167, p.119-133.

- 山元孝広 (2007) テフラ層序からみた新潟県中期更新世飯 士火山の形成史:関東北部での飯士真岡テフラと MIS7 海面変動の関係.地質調査研究報告, vol.58, p.117-132.
- 山元孝広 (2011) 磐梯火山最初期噴出物におけるマグマ 組成の時間変化:裏磐梯高原コアの化学分析結果. 火山, vol. 56, p.189-200.
- 山元孝広・伴 雅雄 (1997) 那須火山地質図.火山地質図 9,地質調査所, 8p.
- 山元孝広・駒澤正夫 (2004) 宮下地域の地質.地域地質研 究報告 (5万分の1地質図幅),産総研地質調査総合 センター,71p.
- 山元孝広・阪口圭一 (2000) テフラ層序からみた安達 太良火山,最近約25万年間の噴火活動.地質雑, vol.106, no.12, p.865-882.

- 山元孝広・須藤 茂 (1996) テフラ層序からみた磐梯火山 の噴火活動史. 地調月報, vol.47, p.335-359.
- 山元孝広・吉岡敏和・牧野雅彦・住田達哉 (2006) 喜多方 地域の地質.地域地質研究報告 (5万分の1地質図 幅),産総研地質調査総合センター,63p.
- 山崎正男 (1958) 日光火山群. 地球科学, vol.36, p. 28-35.
- 柳沢幸夫・山元孝広・坂野靖行・田沢純一・吉岡敏和・ 久保和也・滝沢文教 (1996) 相馬中村地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅),地質調査 所,144p.
- 吉田 義・伊藤七郎・鈴木敬治 (1968) 福島 郡山間の第 四系. 第四紀, no.13, p.10-29.
- 吉川敏之・山元孝広・中江 訓 (2010)「宇都宮」地域の 地質.地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅),産 総研地質調査総合センター,79p.
- (受付:2011年12月20日;受理:2012年7月25日)

付録1:各露頭の注釈

- Loc. 1. 柳沢ほか (1996) の第 53 図と同一露頭. 2010 年 3 月 時点で露頭は観察可能.
- Loc. 2. 久保ほか (1990) の第 85 ~ 87 図と同一露頭. Hu-TG と塚原 t5 は久保ほか (1990) のt1 と t5 に,それぞれ 対応する.塚原 t5 の火山ガラス主成分化学組成の分 析結果は,付録 2 に示している.2010 年 3 月時点で 露頭は観察可能.
- Loc. 3. Yamamoto (2005) の Loc. 2 と同一露頭. 2010 年 3 月 時点で露頭は観察可能.
- Loc. 4. Yamamoto (2005) の Loc. 15 と同一露頭. 2010 年 3 月 時点で露頭は観察可能.
- Loc. 5. Yamamoto (2005) の Loc. 3 と同一露頭. 2010 年 3 月 時点で露頭は観察可能.
- Loc. 6. Yamamoto (2005)のLoc. 21と同一露頭. 2010年3月 時点で露頭は観察可能.
- Loc. 7. Yamamoto (2005) の Loc. 29 と同一露頭. 露頭は植生 に覆われ観察不能.
- Loc. 8. Yamamoto (2005) の Loc. 57 と同一露頭. Yamamoto (2005) では TK104 を Iz-KTa に対比したが,構成物 の特徴から Ij-TK に対比を修正した. 2010 年 3 月時 点で露頭は観察可能.
- Loc. 9. 初出. 露頭は植生に覆われ観察不能.
- Loc. 10. Yamamoto (2005) の Loc. P5 と同一露頭. 露頭は植生 に覆われ観察不能.
- Loc. 11. 初出. 宅地化により露頭は消失. 吉田ほか (1968) で 伏拝火砕流堆積物とされていたものは, 阪口 (1995) の伏拝岩屑なだれ堆積物と本報告の蓬莱火砕流堆積 物に分けられる. この蓬莱火砕流堆積物は逆帯磁し ており, 1.8±0.3 Ma のジルコン・フィッショントラッ ク年代値を得ている (山元, 未公表).
- Loc. 12. Yamamoto (2005) の Loc. P3 と同一露頭. 2010 年 3 月時点で露頭は観察可能.
- Loc. 13. 山元・阪口 (2000) の Loc. 27 と同一露頭. Ag-MzP5 は山元・阪口 (2000) の NT に対応する. 露頭は水没 し, 観察不能.
- Loc. 14. 初出. 2010年3月時点で露頭は観察可能.
- Loc. 15. 山元・阪口 (2000) の Loc. 9 と同一露頭. 2009 年 10 月時点で露頭は観察可能.
- Loc. 16. 山元・阪口 (2000) の Loc. 34 と同一露頭. On-NG は 山元・阪口 (2000) の SK に対応する. この対比の結 果, 山元・阪口 (2000) の Bn-HP2, Ad-EB2, Ad-EB1 を, 本報告で Bn-HP2, Ad-EB2, Ad-EB1 に修正した. 2009 年 10 月時点で露頭は観察可能.
- Loc. 17. 山元・阪口 (2000) の Loc. 40, Yamamoto (2005) の Loc. P7 と同一露頭. 2009 年 10 月時点で露頭は部 分的に観察可能.
- Loc. 18. 山元・阪口 (2000) の Loc. 39 と同一露頭. 2009 年 10 月時点で露頭は観察可能.
- Loc. 19. 山元 (2003) の Loc. 22 と同一露頭. 露頭は植生に 覆われ観察不能.
- Loc. 20. 山元 (2003) の Loc. 24 と同一露頭. 現在の露頭状況 は不明.

- Loc. 21. 山元 (1999b) の Loc. 16 と同一露頭. 当初, Iz4 とし ていたテフラ (603-1-2) を,山元 (2006) は斑晶組成 と屈折率の類似から榛名宮沢テフラに対比した.し かし,対比の元になった榛名火山における火砕流堆 積物認定に間違いがあったことがその後判明して いる.本報告では,このテフラを戸室山第1テフラ (TM1;山元,1999b) に対比し直した.また,山元 (1999b) の Ag-NM2 は,その後のテフラ分析により Ag-NM1 に修正した.現在の露頭状況は不明.
- Loc. 22. 初出.現在の露頭状況は不明.
- Loc. 23. 山元・阪口 (2000) の Loc. 1 と同一露頭. 2009 年 10 月時点で露頭は観察可能.
- Loc. 24. 山元・須藤 (1996) の Loc. 7 と同一露頭. 露頭は植 生に覆われ観察不能.
- Loc. 25. 山元・須藤 (1996) の Loc. 8 と同一露頭. 露頭は植 生に覆われ観察不能.
- Loc. 26. 山元・須藤 (1996) の Loc. 10 と同一露頭. 露頭は植 生に覆われ観察不能.
- Loc. 27. 山元 (1999b) の Loc. 17 と同一露頭. 現在の露頭状況は不明.
- Loc. 28. 山元 (1999a) の第 35 図地点 7,山元 (1999b)の Loc. 17 と同一露頭.露頭は植生に覆われ観察不能.
- Loc. 29. 山元 (1999b) の Loc. 29 と同一露頭. 山元 (1999b) の Kt? は、その後の対比により Ns-SR1 に修正した. 現在の露頭状況は不明.
- Loc. 30. 山元 (1999b) の Loc. 30 と同一露頭. 山元 (1999b) の Ag-NM2 は, その後のテフラ分析により Ag-NM1 に修正した. 現在の露頭状況は不明.
- Loc. 31. 初出. 2006年10月時点で露頭は観察可能.
- Loc. 32. 初出. 2009 年 5 月時点で露頭は観察可能.
- Loc. 33. 山元 (1992) の地点 F と同一露頭. 2009 年 5 月時点 で露頭は観察可能.
- Loc. 34. 山元 (2003) の Loc. 14 と同一露頭. 2009 年 5 月時 点で露頭は観察可能.
- Loc. 35. 山元 (2003) の Loc. 15 と同一露頭. 2009 年 5 月時点 で露頭は観察可能.
- Loc. 36. 山元 (2003) の Loc. 16 と同一露頭. 現在の露頭状況 は不明.
- Loc. 37. 山元 (1999a) の第 35 図地点 5 と同一露頭. 現在の露 頭状況は不明.
- Loc. 38. 山元 (1999a) の第 35 図地点 2, 山元 (1999b) の Loc. 21 と同一露頭. Ag-MzP5 は山元 (1999a)・山元 (1999b) の NT に対応する. 2011 年 7 月時点で露頭 は観察可能であるが, 露頭面が更に大きく掘削され たため (Fig. 2), 当初記載時とは若干異なる岩相が 露頭に現れている. 例えば Ij-TK と鶴ヶ池岩屑なだ れ堆積物間の礫層はもはや観察できない.
- Loc. 39. 山元 (1999a) の第 35 図地点 1 と同一露頭. Ag-MzP5 は山元 (1999a) の NT に対応する. 現在の露頭状況 は不明.
- Loc. 40. 山元 (1999b) の Loc. 37 と同一露頭. 山元 (1999b) の Kt, Ns-SR7, Si1, Si2-3, Ns-SR7 は, その後の対 比により Nk-YT, SI2, SI3, SI4, YG に, それぞれ

修正した. 露頭は消失.

- Loc. 41. 初出. 地点は那須塩原市の国際医療福祉大学病院で, Nk-MA よりも上位については病院建屋南側の露頭, Nk-MA よりも下位については病院建屋東側の露頭 を接合している. 建屋南側の露頭は鈴木 (1996) の 写真の露頭と同一. 2006 年 10 月時点で露頭は観察 可能.
- Loc. 42. 初出. 露頭は植生に覆われ観察不能.
- Loc. 43. 初出.現在の露頭状況は不明.
- Loc. 44. 吉川ほか (2010) の第 6.8 図 Loc. 1 と同一露頭. 露頭 は水没し観察不能.
- Loc. 45. 山元 (2003) の Loc. 12 と同一露頭. 露頭は植生に覆 われ観察不能.
- Loc. 46. 山元 (1999b) の Loc. 13 と同一露頭. 2009 年 5 月時 点で露頭は観察可能.
- Loc. 47. 山元 (2003) の Loc. 9 と同一露頭. 露頭はコンクリートに覆われ観察不能.
- Loc. 48. 山元 (2003) の Loc. 1 と同一露頭. 露頭は植生に覆 われ観察不能.
- Loc. 49. 初出.現在の露頭状況は不明.
- Loc. 50. 山元 (1999b) の Loc. 25 と同一露頭. Ag-MzP5 は山 元 (1999b) の NT に対応する. 2011 年 7 月時点で露 頭は観察可能.

- Loc. 51. 吉川ほか (2010) の第 6.8 図 Loc. 3 と同一露頭. 2011 年 7 月時点で露頭は観察可能.
- Loc. 52. 吉川ほか (2010) の第 6.8 図 Loc. 4 と同一露頭. 2011 年 7 月時点で露頭は観察可能.
- Loc. 53. 山元 (1999b) の Loc. 43 と同一露頭. 2011 年 7 月時 点で露頭は観察可能.
- Loc. 54. 初出.現在の露頭状況は不明.

## 付録2:塚原t5の火山ガラス主成分化学分析結果

塚原 t5 テフラについては、エネルギー分散型 X 線マイク ロアナライザー (EDX) を用いた火山ガラスの主成分分析を 行っている.分析は、(株)古澤地質に依頼した.EDX 測定 では、4 µm 四方の範囲を約 150 nm のビーム径にて走査さ せている.結果を Table A に示している.分析結果のまと まりは良く、純度の高いテフラ試料であったことを示して いる.この主成分化学組成と一致し、対比可能なテフラは、 これまで確認していない.しかしながら多くの広域テフラ と比較して、塚原 t5 テフラの K<sub>2</sub>O 濃度は明らかに低いので、 その給源はおそらく火山フロント沿いの火山であると予想 されよう.

## 第A表 塚原t5テフラ中の火山ガラスのEDXによる主成分分析結果. *Ave.* = 平均; *S.D.* = 標準偏差.

#### Table A. Major element contents of volcanic glass shards in the Tsukahara t5 tephra by EDX measurements.

*Ave.* = average; *S.D.* = standard deviation.

point No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		Ave.	S.D.
SiO <sub>2</sub>	72.20	71.12	71.87	72.18	72.78	71.53	72.07	72.94	72.04	72.99	73.02	71.81	71.07	71.47	71.02	SiO <sub>2</sub>	72.01	0.69
TiO <sub>2</sub>	0.29	0.36	0.35	0.29	0.36	0.37	0.42	0.38	0.32	0.20	0.40	0.38	0.32	0.40	0.48	TiO <sub>2</sub>	0.35	0.07
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	13.05	12.93	13.10	12.99	12.81	12.73	12.93	12.95	13.16	13.06	12.86	13.07	12.86	12.86	13.48	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	12.99	0.18
FeO	2.34	2.21	2.02	2.05	1.90	2.13	2.05	1.87	2.04	2.04	2.20	2.14	2.36	1.98	2.53	FeO	2.12	0.18
MnO	0.07	0.05	0.11	0.19	0.18	0.00	0.27	0.03	0.03	0.06	0.17	0.00	0.00	0.22	0.04	MnO	0.09	0.09
MgO	0.61	0.59	0.44	0.50	0.60	0.64	0.60	0.61	0.65	0.53	0.60	0.56	0.48	0.62	0.82	MgO	0.59	0.09
CaO	2.79	2.81	2.86	2.79	2.81	2.91	2.87	2.81	2.82	2.82	2.73	2.85	2.62	2.71	3.20	CaO	2.83	0.13
Na <sub>2</sub> O	3.69	3.82	3.62	3.84	3.87	3.98	3.73	3.74	3.82	3.90	3.77	3.73	3.70	3.76	3.84	Na <sub>2</sub> O	3.79	0.09
K <sub>2</sub> O	1.51	1.50	1.64	1.63	1.59	1.55	1.62	1.61	1.48	1.65	1.59	1.70	1.59	1.57	1.48	K <sub>2</sub> O	1.58	0.07
Total	96.55	95.39	96.01	96.46	96.90	95.84	96.56	96.94	96.36	97.25	97.34	96.24	95.00	95.59	96.89		96.35	
point No.																	Ave.	S.D.
SiO <sub>2</sub>	74.78	74.56	74.86	74.83	75.11	74.63	74.64	75.24	74.76	75.05	75.02	74.62	74.81	74.77	73.30	SiO <sub>2</sub>	74.73	0.44
TiO <sub>2</sub>	0.30	0.38	0.36	0.30	0.37	0.39	0.43	0.39	0.33	0.21	0.41	0.39	0.34	0.42	0.50	TiO <sub>2</sub>	0.37	0.07
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	13.52	13.55	13.64	13.47	13.22	13.28	13.39	13.36	13.66	13.43	13.21	13.58	13.54	13.45	13.91	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	13.48	0.18
FeO	2.42	2.32	2.10	2.13	1.96	2.22	2.12	1.93	2.12	2.10	2.26	2.22	2.48	2.07	2.61	FeO	2.20	0.19
MnO	0.07	0.05	0.11	0.20	0.19	0.00	0.28	0.03	0.03	0.06	0.17	0.00	0.00	0.23	0.04	MnO	0.10	0.09
MgO	0.63	0.62	0.46	0.52	0.62	0.67	0.62	0.63	0.67	0.54	0.62	0.58	0.51	0.65	0.85	MgO	0.61	0.09
CaO	2.89	2.95	2.98	2.89	2.90	3.04	2.97	2.90	2.93	2.90	2.80	2.96	2.76	2.84	3.30	CaO	2.93	0.12
Na <sub>2</sub> O	3.82	4.00	3.77	3.98	3.99	4.15	3.86	3.86	3.96	4.01	3.87	3.88	3.89	3.93	3.96	Na <sub>2</sub> O	3.93	0.09
K <sub>2</sub> O	1.56	1.57	1.71	1.69	1.64	1.62	1.68	1.66	1.54	1.70	1.63	1.77	1.67	1.64	1.53	K <sub>2</sub> O	1.64	0.07
Total	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00		100.00	